

所蔵図書(501-1000) (Tanaka Yutaka)

- 501) 「フランドルの冬」(加賀乙彦著) 新潮文庫
昭和 47(1972)年 1 月 27 日発行
昭和 51(1976)年 1 月 10 日 3 刷(新潮社)
- 502) 「夜の三部作」(福永武彦著) 講談社文庫
・冥府・深淵・夜の時間
福永武彦の文学(長田弘) (1)その出発(2)『夜の三部作』について
昭和 46(1971)年 9 月 15 日 第 1 刷発行(講談社)
- 503) 「死の島(上)」(福永武彦著) 新潮文庫
昭和 51(1976)年 12 月 5 日発行(新潮社)
- 504) 「死の島(下)」(福永武彦著) 新潮文庫
解説(加賀乙彦)
昭和 51(1976)年 12 月 5 日発行(新潮社)
- 505) 「草の花」(福永武彦著) 新潮文庫 解説(本多顕彰)
昭和 31(1956)年 3 月 10 日発行
昭和 34(1959)年 2 月 8 日 7 刷(新潮社)
- 506) 「忘却の河」(福永武彦著) 新潮文庫
1 章 忘却の河 2 章 煙塵 3 章 舞台 4 章 夢の通り路
5 章 硝子の城 6 章 喪中の人 7 章 賽の河原 解説(篠田一士)
昭和 44(1969)年 4 月 30 日発行
昭和 44(1959)年 7 月 30 日 2 刷(新潮社)
- 507) 「邪宗門(上)」(高橋和巳著) 新潮文庫
昭和 46(1971)年 11 月 30 日発行
昭和 53(1978)年 4 月 30 日 9 刷(新潮社)
- 508) 「邪宗門(下)」(高橋和巳著) 新潮文庫
昭和 46(1971)年 12 月 25 日発行
昭和 56(1981)年 5 月 15 日 13 刷(新潮社)
- 509) 「恋愛太平記 1」(金井美恵子著) 集英社文庫
平成 11(1999)年 11 月 25 日 第 1 刷(集英社)
- 510) 「恋愛太平記 2」(金井美恵子著) 集英社文庫
平成 11(1999)年 11 月 25 日 第 1 刷(集英社)
- 511) 「田中角栄研究 全記録(上)」(立花隆著) 講談社文庫 p620
金脈追求・執念の 500 日
昭和 57(1982)年 8 月 15 日 第 1 刷発行
平成 6(1994)年 1 月 31 日 第 14 刷発行(講談社)
- 512) 「田中角栄研究 全記録(下)」(立花隆著) 講談社文庫 p620
ロッキード事件から田中逮捕まで
昭和 57(1982)年 8 月 15 日 第 1 刷発行
平成 6(1994)年 2 月 28 日 第 11 刷発行(講談社)

- 513) 「迷路の旅人」(倉橋由美子著) 講談社文庫
昭和 50(1975)年 6 月 15 日第 1 刷発行(講談社)
- 514) 「生物の世界」(今西錦司著) 講談社文庫 C10 解説(上山春平)
昭和 47(1972)年 1 月 15 日第 1 刷発行(講談社)
- 515) 「日本沈没(上)」(小松左京著)
Kappa Novels 書下ろし SF 長編小説 n227
昭和 48(1973)年 3 月 20 日初版発行
昭和 48(1973)年 9 月 20 日 262 版発行(光文社)
- 516) 「日本沈没(下)」(小松左京著)
Kappa Novels 書下ろし SF 長編小説 n228
昭和 48(1973)年 3 月 20 日初版発行
昭和 48(1973)年 6 月 5 日 48 版発行(光文社)
- 517) 「名作集(1)明治篇」日本文学全集 69
・武蔵野(山田美妙)・細君(坪内逍遙)・初恋(矢崎嵯峨の屋)
・権妻<ごんさい>の果(饗庭篁村<あえばこうそん>)・かくれんぼ(斎藤緑雨)
・滝口入道(高山樗牛)・今戸心中(広津柳浪)・野菊の墓(伊藤左千夫)
・ゆふだすき(川上眉山)・千鳥(鈴木三重吉)・斑鳩物語(高浜虚子)
・世間師(小栗風葉)・南小泉村(真山青果)・我等の一団と彼(石川啄木)
・初恋(森田草平)・零落(長田幹彦)・木乃伊(ミイラ)の口紅(田村俊子)
・鱧(はも)の皮(上司<かみつかさ>小剣)
解説(伊藤整)
昭和 37(1962)年 12 月 20 日発行(新潮社)
- 518) 「名作集(2)大正篇」日本文学全集 70
・ふたすじ道(長谷川如是閑)・恭三の父(加能作次郎)・逆徒(平出修)
・六月(相馬泰三)・女のなか(中村星湖)・雲雀(藤森成吉)・騒擾後(宮地嘉六)
・良友悪友(久米正雄)・初年兵江木の死(細田民樹)・三等船客(前田河広一郎)
・海神丸(野上弥生子)・青銅の基督(長与善郎)・死滅する村(小川未明)
・迷乱(宮島資夫)・南国(犬養健)・屋根裏から微かに漏れる言葉(中西伊之助)
・囁くこう>日(佐佐木茂索)・「Cocu」のなげき(武林無想庵)・黒点(豊島予志雄)
・ラ氏の笛(松永延造)・彼と彼の内蔵(江口渙)・三月変(岡田三郎) 解説(平野謙)
昭和 39(1964)年 1 月 20 日発行(新潮社)
- 519) 「悪魔礼拝」(種村季弘著)
・サタンと大母神(マグナ・マーテル)・魔女の霊薬・蛇と世界創造神
・悪魔の芸術・恥辱の接吻・悪魔の契約書・太陽と黒ミサ・悪魔の世俗化
・文学としての黒ミサ・匪賊ロマンチズム・ヴェネツィア再訪・あとがき
昭和 54(1979)年 5 月 15 日発行(桃源社)
- 519-2) 「悪魔礼拝」種村季弘のラビリントス
・サタンと大母神(マグナ・マーテル)・魔女の霊薬・蛇と世界創造神
・悪魔の芸術・恥辱の接吻・悪魔の契約書・太陽と黒ミサ・悪魔の世俗化
・文学としての黒ミサ・匪賊ロマンチズム・ヴェネツィア再訪
・悪魔礼拝者への反歌(あとがきにかえて)
昭和 54(1979)年 10 月 10 日発行(青土社)
- 519-3) 「悪魔礼拝」(種村季弘著)河出文庫 126E
・サタンと大母神(マグナ・マーテル)・魔女の霊薬・蛇と世界創造神
・悪魔の芸術・恥辱の接吻・悪魔の契約書・太陽と黒ミサ・悪魔の世俗化

- ・文学としての黒ミサ・匪賊ロマンチズム・ヴェネツィア再訪
- ・文庫版あとがき 昭和 63(1988)年 3 月 4 日初版発行(河出書房新社)

520)「アナクロニズム」種村季弘のラビリントス

- ・蘆原くあしはら>将軍考・地球空洞説・続-地球空洞説・人間栽培論
- ・小児十字軍・モーゼの魔術・壘の中の手記・ロボット考・空飛ぶ円盤
- ・血液嗜好症(ヘマトフィリア)・文学的変装術・少女流謫くるたく・りゅうたく>
- ・蛇と舞踏者・聖指話法・奇行奇人綺譚・奇術師入門・第三の眼
- ・女の決闘・再説-蘆原くあしはら>将軍考(あとがきにかえて)

昭和 54(1979)年 9 月 10 日発行(青土社)

521)「影法師の誘惑」種村季弘のラビリントス

- I 少女 ・小妖精アリス・シンデレラの靴・少女論
・アリスの肖像画家たち・遊戯の規則
- II 人形 ・人形幻想・人形貴種流離譚・器具としての肉体
・ある人形破壊者の白日夢・人形の解剖学者
- III 幻燈 ・魔術時代の終焉・影法師の誘惑・幻想の時計師・暗箱の花咲ける洞窟
- IV 玻璃 ・タロットの秘密・現代の妖怪・和洋怪談比較考
・面白い小説のからくり つげ義春の退行的ユートピア・一枚の銅版画から
- V 幼年 ・長広舌譚・十二階の崩れた日から・文学以前の世界
- VI 睡眠 ・求む装飾用隠者・睡眠者の全知・赤い靴
水中影変幻(あとがきにかえて)

昭和 54(1979)年 4 月 10 日発行(青土社)

522)「ザッヘル＝マゾッホの世界」(種村季弘著)

- 1 章 幼年(ハンドシャ体験) 2 章 少年(ゼノビア体験) 3 章 学生(女王と女優)
- 4 章 幻滅(アンナ・コトヴィッツ体験) 5 章 待機(ファニー・ピストール体験)
- 6 章 女の世界(マイヤーリンクの悲劇) 7 章 醜の美学(ローゼン克蘭ツ体験)
- 8 章 仮装舞踏会(エミリー＝アリス体験) 9 章 契約(ワンダ体験)
- 10 章 貴婦人修業(ザッヘル＝マゾッホ体験)
- 11 章 空想の王子(ルートウィヒ二世体験) 12 章 愛の奴隷(侍女フィリス体験)
- 13 章 最後のギリシャ人(アルマン体験) 14 章 晩年(フルダ・マイスター体験)
- 終章 死後(クラフト＝エビング体験) あとがき

昭和 53(1978)年 7 月 10 日初刷(桃源社)

523)「黒い錬金術」(種村季弘著)

錬金術とは何か

- I ・黒い錬金術・神話と錬金術・錬金術の変貌・錬金術のエロティシズム
- II ・危険なマンドラゴラ・箱の話・ガバリスの転生
・神の署名になる記号・客体の呼びかけ
- III ・太陽伝説・太陽と獅子・黒いプラトン・黒の過程・秘密結社について

昭和 54(1979)年 3 月 10 日初刷(桃源社)

524)「毛皮を着たヴィーナス」(L・ザッヘル＝マゾッホ著) 河出文庫

Leopold von Sacher-Masoch: Venus im Pelz(種村季弘訳)

昭和 58(1983)年 4 月 4 日初版発行

平成 16(2004)年 6 月 20 日新装版初版発行(河出書房新社)

525)「密使」(ザッヘル＝マゾッホ選集 4)

Leopold von Sacher-Masoch:

Der Emissär. Eine galizische Geschichte. 「密使」

Don Juan von Kolomea. 「コロメアのドン・ジュアン」(種村季弘訳)

昭和 52(1977)年 9 月 5 日発行(桃源社)

- 526) 「ガリチア物語」(ザッヘル＝マソッホ選集 3)
 Leopold von Sacher-Masoch: Galizische Geschichten. Novellen. (高本研一訳)
 ・死者たちは飽きることがない・収穫祭・姿を変えた司祭・旅役者たち
 ・イエスズ会士・櫓の遠乗り・われらの議員・盗賊マガス
 昭和 51(1976)年 11 月 5 日発行(桃源社)
- 527) 「残酷な女たち 他」(ザッヘル＝マソッホ選集 2)
 Leopold von Sacher-Masoch:
 Grausame Frauen--Amazonen. 「残酷な女たち--アマゾン族」
 Keuschheits Kommission. 「風紀委員会」(福井信雄訳)
 Die Ästhetik des Häßlichen. 「醜の美学」(飯吉光夫訳)
 昭和 52(1977)年 3 月 5 日発行(桃源社)
- 528) 「小遊星物語」(シェーアバルト著)
 Paul Scheerbarth: Lesabéndio, Ein Asteroiden-Roman.
 「レザベンディオ・小遊星物語」(種村季弘訳)
 昭和 53(1978)年 4 月 15 日発行(桃源社)
- 529) "Leopold von Sacher-Masoch" Materialien zu Leben und Werk.
 Abhandlungen zur Kunst-, Musik- und Literaturwissenschaft, Band 359.
 Herausgegeben von Michael Farin.
 Bouvier Verlag Herbert Grundmann/ Bonn 1987
- 530) 「絶望と確信」エピステーメー選書
 20 世紀の芸術と文学のために(グスタフ・ルネ・ホッケ著)
 Gustav René Hocke: Verzweiflung und Zuversicht.
 Zur Kunst und Literatur am Ende unseres Jahrhunderts. (種村季弘訳)
 エピグラム
 序文
 I 不安と絶望 a 新しい双極 b 不安夢 c ノイローゼ d 薬物(ドラッグ) e 狂気
 II 希望と確証 a 希望の諸段階 b 実践 c アンチ・クライマックス d 証言
 e 意味への問題 f 確証
 III 秘教的象徴表現 a 神話的象徴 b 主観的象徴 c 恣意と秩序 d 象徴--癖
 e 元型的象徴 f 解釈の問題
 IV 深層美学 a 単に美しい以上のもの b 恐怖美 c 相対主義的美学
 d 容赦のない美 e 不規則な美 f 形象の学(イマゴ・ロジー)
 g 当意即妙の形象とその結果 h 低俗な美 i 美学の神学
 V 総合 a 組合わせの方法論 b 三つの様式 c ウニヴェルシタス d 結論
 著者紹介(ホッケの著書に初めて接せられた方のために)
 昭和 52(1977)年 10 月 1 日発行(朝日出版社)
- 531) 「思考の紋章学」(澁澤龍彦著) Blason des pensées
 ・ランプの廻転・夢について・幻鳥譚・姉の力・付喪神
 ・時間のパラドックスについて・オドラデク・ウィタ-セクスアリス
 ・悪魔の創造・黄金虫・円環の渴き・愛の植物学 あとがき
 昭和 52(1977)年 5 月 25 日初版発行(河出書房新社)
- 532) 「サド侯爵の手紙」(著訳者/ 澁澤龍彦)
 昭和 55(1980)年 12 月 10 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)
- 533) 「洞窟の偶像」(澁澤龍彦著)
 ・地獄絵と地獄観念・御伽草紙の魅力について・奇怪な花、とりかえばや物語

- ・東と西の地獄絵・三島由紀夫覚書・三島由紀夫の手紙
 - ・『サド侯爵夫人』の思い出・難解ではない『死霊』について・足穂アラベスク
 - ・星の王さま、タルホ・オーブリ-ビアズレーについて
 - ・ピエール-ド-マンディアルグについて・ネルヴァルと幻想文学
 - ・ヴィリエ-ド-リラダンについて・バルベー管見・カゾットの駱駝
 - ・ニーチェ雑感・魔術師フロイト・ゴンゴラとコクトー
 - ・映画『恐るべき子供たち』を見て・私のシュルレアリスム
 - ・シュルレアリスムと屍体解剖・マックス-エルンストを悼む
 - ・エルンスト展に寄せて・プラトニックな蝶--ナボコフについて
 - ・『ティマイオス』--プラトンにおける神話・『O嬢の物語』について
 - ・「表現の自由」ではなく「自由な表現」を
 - ・文庫本『四運動の理論』『暁の女王と精霊の王の物語』『結晶世界』
『日月両世界旅行記』『錬金術』『アンデルセン童話集』
 - ・ミシェル-フーコー『狂気の歴史』・アルヴァレズ『自殺の研究』
 - ・鷹巣繁男『詩の栄誉』・高橋睦郎『私』・中田浩治『ルクレツィア-ボルジア』
 - ・松田政男『薔薇と無名者』・『球体感覚』以前
 - ・巖谷國士『シュルレアリスムと芸術』『幻視者たち』・飯田義国について
 - ・推薦文 ラヴクラフト傑作集/ アルフォンス-アレ『悪戯の愉しみ』/
マンスール『充ち足りた死者たち』/ リラダン全集/ ネルヴァル全集/ メリメ全集/
小説のシュルレアリスム/ ヘルメス叢書/ 齋藤磯雄『近代ふらんす秀詩抄』/
倉橋由美子全作品/ 稲垣足穂作品集/ 池田満寿夫『美の王国の入口で』/
岸田秀『ものぐさ精神分析』/ 多田智満子『鏡のテオリア』/ 花田清輝全集
- あとがき

昭和 52(1977)年 9 月 30 日発行

昭和 54(1977)年 9 月 10 日 2 版発行(青土社)

534) 「高丘親王航海記」(澁澤龍彦著)

- ・儒艮(じゅごん)・蘭房・猿園・蜜人・鏡湖・真珠・頻伽

昭和 62(1987)年 10 月 25 日第 1 刷

昭和 62(1987)年 11 月 30 日第 3 刷(文藝春秋)

535) 「澁澤龍彦」新潮日本文学アルバム 54 / 評伝 澁澤龍彦(種村季弘)

- ・赤とんぼとからたちの時代(昭和 3 年・出生～昭和 28 年)
- ・サド裁判の時代(昭和 29 年～昭和 40 年)
- ・「血と薔薇」の時代(昭和 41 年～昭和 45 年)
- ・オブジェから物語へ(昭和 46 年～昭和 62 年・死)

<エッセイ>外出の澁澤龍彦(平出隆)

略年譜(種村季弘) 主要参考文献 主要著作目録

平成 5(1993)年 8 月 10 日発行(新潮社)

536) 「スクリーンの夢魔」現代映画論(澁澤龍彦著)

- ・ルイス-ブニュエルの汎性欲主義・「昼顔」あるいは黒眼鏡の効用について
- ・ベルイマンの禁欲的精神
- ・非社会的映画のすすめ--W・ワイラー「コレクター」を見て
- ・カリガリ博士あるいは精神分析のイロニー・サド映画私見
- ・「バーバレラ」あるいは未来像の逆説
- ・現代の寓話--パゾリーニ「テオレマ」を見て
- ・ナチスをめぐる相反感情・恐怖映画への誘い
- ・怪奇映画の季節--ドラキュラの夢よ、いまいずこ
- ・エクソシストあるいは映画憑きと映画祓い
- ・仮面について--現代ミステリー映画論・非合理の表現--映画と悪
- ・「恐るべき子供たち」を見て・「マラー/ サド」劇について
- ・カトリーヌ-ドヌーヴその不思議な魅力

- ・デパートのなかの夢魔--「白日夢」のノスタルジアについて
- ・エロスの風俗に関する対話・黒い血の衝撃--三島由紀夫「憂国」を見て
- ・階級闘争か生物学主義か--大島渚「忍者武芸帳」を見て
- ・愛の形而上学と死刑--大島渚「絞死刑」論 あとがき
昭和 53(1978)年 5 月 10 日発行(潮出版社)

536-2)「スクリーンの夢魔」(澁澤龍彦著)河出文庫 121P

- ・『恐るべき子供たち』を見て・『エクソシスト』あるいは映画憑きと映画祓い
- ・「マラー/サド」劇について・現代の寓話--パゾリーニ『テオレマ』を見て
- ・ナチスをめぐる相反感情<アンビヴァレンツ>
- ・『バーバレラ』あるいは未来像の逆説・『昼顔』あるいは黒眼鏡の効用について
- ・ルイス-ブニュエルの汎性欲主義
- ・非社会的映画のすすめ--W・ワイラー『コレクター』を見て
- ・ベルイマン、この禁欲的精神・カリガリ博士あるいは精神分析のイロニー
- ・サド映画私見・映画におけるエロティック-シンボリズムについて
- ・恐怖映画への誘い・怪奇映画の季節--ドラキュラの夢よ、いまいずこ
- ・ショックについて・ドラキュラはなぜこわい?--恐怖についての試論
- ・カトリーヌ-ドヌーヴ--その不思議な魅力
- ・愛の形而上学と死刑--大島渚『絞死刑』について
- ・階級闘争か生物学主義か--大島渚『忍者武芸帳』を見て
- ・黒い血の衝撃--三島由紀夫『憂国』を見て
- ・デパートのなかの夢魔--『白日夢』のノスタルジアについて
- ・エロスの風俗に関する対話 初版あとがき
昭和 63(1988)年 2 月 4 日初版発行(河出書房新社)

537)「澁澤龍彦スペシャル」I シブサワ・クロニクル(別冊幻想文学)

- ・いつか、どこかで--さまざまなアルバムから・少年のころの周辺(三木多聞)
- ・ちいさな貴公子(武井宏)・キッズ-アー-オールライト！(臼井正明)
- ・われらが修業時代(出口裕弘)・『新人評論』の頃(草鹿外吉)
- ・《神話》の日々(矢川澄子)・『未定』このかた(多田智満子)
- ・澁澤さんのこと(松山俊太郎)・素顔の澁澤龍彦(片山正樹)
- ・東京鑑賞生活(澁澤龍彦)・私生児よ、生れいでよ！(澁澤龍彦)
- ・反逆の情念(栗田勇)・やんちゃな被告たち(白井健三郎)
- ・兄の力(野中ユリ)・60年代を共に歩んで(八木昇)
- ・夢の館ができるまで(有田和夫)・『血と薔薇』の時代(堂本正樹)
- ・華やかな宴の日々(内藤三津子)・"眠るひと"との日常(澁澤龍子)
- ・欧州旅行を共にして(堀内路子)・幻のシブサワ版世界文学全集(淡谷惇一)
- ・『世界文学集成』24巻試案(澁澤龍彦)・ビブリオテカの思い出(千代忠央)
- ・ドラコニアをポケットに！(内藤憲吾)・悠々と自分をひらく(平出隆)
- ・死と真珠(山尾悠子)・コラージュ-レクイエム(編集部編)
- ・澁澤龍彦による澁澤龍彦
昭和 63(1988)年 11 月 1 日発行(幻想文学出版局)

538)「澁澤龍彦」(新文芸読本)

I 澁澤龍彦・家

- ・高輪に生まれる(巖谷國士)・深谷のブッデンブローック家(種村季弘)
- ・滝野川の少年時代(出口裕弘)・鎌倉小町(松山俊太郎)
- ・最後の家--北鎌倉(巖谷國士)

II 澁澤龍彦・讃

- ・澁澤龍彦讃(埴谷雄高)・花の魔術師(石川淳)・澁澤龍彦氏のこと(三島由紀夫)
- ・読書界を裏返した男(稲垣足穂)・昭和 23 年の澁澤龍彦(吉行淳之介)
- ・夢の宇宙誌(大野一雄)・闇の中の電流--澁澤龍彦(土方巽)
- ・銀鮫(キメラ・ファンタスマ)(吉岡実)

III 澁澤龍彦・論

- ・ amor figurae--『思考の紋章学』をめぐって(川村二郎)
- ・ 月の王の末裔--澁澤龍彦再考(磯田光一)
- ・ 『洞窟の偶像』『東西不思議物語』(寺山修司)
- ・ 澁澤龍彦/巖谷國士『裸婦の中の裸婦』 巖谷國士『澁澤龍彦考』 書評(松山俊太郎)
- ・ 異端の日本学の系譜「白うるり」とオドラデク(野口武彦)
- ・ 上機嫌の思想(富士川義之)・よく似た男(池内紀)
- ・ 神と玩具--澁澤龍彦小論(田中美代子)・球体のものがたり(田中美代子)
- ・ ランティエの余裕と孤独(川本三郎)・楽草園とサド(中沢新一)

IV 澁澤龍彦・回想

- ・ 後ろ姿の澁澤龍彦(出口裕広)・サロン、庭園、書斎(種村季弘)
- ・ 『裸婦の中の裸婦』あとがき(巖谷國士)・一字の師、大度の友(加藤郁平)
- ・ 天使になった澁澤さんに(四谷シモン)・オブジェと化した肉体(養老孟司)
- ・ むかし、むかし(小笠原豊樹)・日時計の影のもとに(多田智満子)
- ・ 「青春の日々」のこと(野中ユリ)・澁澤龍彦メモリー(唐十郎)
- ・ 澁澤さんのこと(金井美恵子)

V 澁澤龍彦・旅

- ・ 中近東日記(抄)(澁澤龍彦)・泥の王宮(嵐山光三郎)
- ・ 『滞欧日記』の真相--インタビュー・澁澤龍彦/聞きて(巖谷國士)

VI 澁澤龍彦・作品

- ・ サディストの文学--大江健三郎をめぐる評価の混乱(澁澤龍彦)
- ・ 幸福より、快楽を--快楽主義の哲学(第一章)(澁澤龍彦)

VII 澁澤龍彦・全集

- ・ 座談会(巖谷國士)(種村季弘)(出口裕広)(松山俊太郎)
- 平成5(1993)年4月25日初版発行(河出書房新社)

539)「総特集 澁澤龍彦」(ユリイカ Eureka 臨時増刊号)

澁澤龍彦に捧ぐ

- ・ 『狐のだんぶくろ』をめぐって(川村二郎)・旧雨音なし(加藤郁平)
- ・ 里をめぐる日(高梨豊)・本の夢(菊池信義)・澁澤龍彦氏の思い出(笠井勲)
- ・ 特別な神秘家--澁澤龍彦と異端文学(竹邑光裕)

詩

- ・ 銀鮫(キメラ・ファンタスマ)(吉岡実)・蝶のかたち(多田智満子)
- ・ 愛の機械--一年目の夏に(高橋睦郎)

作品

- ・ 臨終の男との対話(金子國義)・五月の澁澤さんに(四谷シモン)
- ・ 水の観想について--澁澤龍彦に捧ぐ(野中ユリ)

少年時代の澁澤龍彦

- ・ 黄金時代(口絵)・玩物の思想(菅野昭正)

60年代の澁澤龍彦

- ・ オドラデク跳梁--ドラコニアの1960年代(高山宏)
- ・ 澁澤龍彦における精神分析とエロティシズム(鈴木晶)

サド / サド裁判

- ・ 澁澤龍彦氏とサド裁判(中村稔)
- ・ 澁澤龍彦と戦後日本--思想のアラベスク(石井恭二)
- ・ 澁澤龍彦における他者(川本三郎)

『血と薔薇』

- ・ 『血と薔薇』宣言
- ・ 澁澤龍彦の俠--雑誌『血と薔薇』とその後(平岡正明)

三島由紀夫と澁澤龍彦

- ・ 「さかしま」とサド--澁澤龍彦に宛てる(三島由紀夫)
- ・ 三島由紀夫宛書翰(澁澤龍彦)
- ・ 対話 三島由紀夫--世紀末デカダンスの文学(澁澤龍彦・出口裕弘)

70 年代の澁澤龍彦

- ・旅行記（澁澤龍彦）

作家・澁澤龍彦

- ・小説家としての澁澤龍彦（奥野健男）
- ・黄金時代の夢--澁澤龍彦の想像力（富士川義之）

澁澤龍彦と美術

- ・註のない文章について（若桑みどり）

澁澤龍彦のミクロコスモス

- ・明晰者-澁澤龍彦（埴谷雄高）・龍彦親王航海記（中井英夫）・澁澤さん（巖谷國士）
- ・薬草園とサド（中沢新一）・対話 澁澤龍彦の幸福な夢（出口裕弘/ 種村季弘）

年譜/ 著書目録

- ・澁澤龍彦自作年譜 1928-1954（澁澤龍彦・編）・澁澤龍彦年譜 1955-1987
- ・澁澤龍彦著書目録（関井光男・編）

昭和 63(1988)年 6 月 25 日発行

昭和 63(1988)年 7 月 25 日第 2 刷(青土社)

540)「ゲルマン神話」ニーベルンゲンからリルケまで---(吉村貞司著)

第 1 部 第 1 章 ゲルマン・神々・英雄

1 民族移動の激流から 2 鍛冶ヴェルンド 3 タキトゥスの『ゲルマニア』

第 2 章 ニーベルンゲン伝説

1 血なまぐさい歴史 2 北欧のジークフリート 3 『ニーベルンゲンの歌』

4 神と人間との断絶

第 3 章 ブルグンドの没落

1 北欧のブルグンド伝説 2 史実としてのフン族

3 「グリーンランドのアトリの歌」 4 『ニーベルンゲンの歌』 第二部

第 4 章 神のいない神話

1 ヨーロッパ文化の前奏曲 2 キリストと古代衝動との相克

3 キリストの血液 4 ニーベルンゲンの異教性

第 2 部 第 5 章 ジークフリートの末裔

1 ニーベルンゲンの再発見 2 ヘルダーリンの限界

3 美と自然の原理としての神々

第 6 章 19 世紀のジークフリート

1 神話学の神 2 ワグナーの歌劇『ニーベルンゲンの指輪』

3 ニイツェの没落

第 7 章 20 世紀の神話

1 ヒトラーのための神話 2 リルケ--終点としての神

昭和 47(1972)年 5 月 31 日第 1 刷

昭和 50(1975)年 2 月 10 日第 2 刷(読売新聞社)

541)「ゲルマン人の神々」(ジョルジュ・ジュメジル著)ブリタニカ叢書

Georges Dumézil: Les dieux des Germains.

Essai sur la formation de la religion scandinave.

(吉田敦彦解説・松村一男訳)

序 第 1 章 アース神族とヴァン神族

第 2 章 魔術、戦争、法律 オーディンとチュール

第 3 章 世界の物語 バルドル、ヘズ、ロキ

第 4 章 嵐から歓喜へ トール、ニョルズ、フレイ、フレイヤ

- ・注
- ・訳者あとがき
- ・参考文献

昭和 55(1980)年 11 月 10 日第 1 刷発行(日本ブリタニカ株式会社)

542)「迷宮と神話」(カール・ケレーニイ著)

- ・迷宮の研究----ある神話的観念の線反射としての迷宮
- ・魂の導者-ヘルメース----男性の生命起源の神話素

Karl Kerényi: Labyrinthos als Linienreflex einer mythologischen Idee.

Hermes der Seelenführer. Das Mythologem vom männlichen Lebensursprung.

(種村季弘・藤川芳朗訳)

迷宮の研究----ある神話的観念の線反射としての迷宮

1 問題--秘密 2 バビロニア 3 死--生 4 セーラム、ポリネシア、オーストラリア

5 スカンジナビア、イングランド、ドイツ 6 中世--ウェルギリウス

7 建造物--洞窟 8 舞踏 9 沈降--飛上 10 無限--不死 11 装飾--象徴像

12 ノルマン人--ローマ人

補遺 アポローン祭祀ならびにアスクレーピオス祭祀における蛇と鼠について

魂の導者・ヘルメース----男性の生命起源の神話素

第1章 古典伝承のヘルメース

1 <ヘルメース>という概念における問題的なもの 2 『イーリアス』のヘルメース

3 『オデュッセイア』のヘルメース 4 『讃歌』のヘルメース 5 ヘルメースと夜

第2章 生と死のヘルメース

1 ヘルメースとエロース 2 ヘルメースと女神たち 3 ヘルメースと立像の密儀

4 ヘルメースと雄羊 5 シーレーノスとヘルメース

昭和 63(1988)年 6 月 25 日発行

昭和 63(1988)年 7 月 25 日第 2 刷(弘文堂)

543)「ギリシャ・ローマの神話」人間に似た神さまたち(吉田敦彦著) 世界の神話 3
はじめに--欧米の人の心に生き続けてきた神話

I 天地創造の神話

- ・天地のはじまりと泡の中で生まれた美女
- ・子どもたちを飲んでしまった父親と神さまたちの戦争

II オリュンポスの十二神

- ・父の頭から飛び出した乙女と他の女神たち
- ・愛娘<まなむすめ>を死者の国にさらわれた母神の悲しみ
- ・死の女神さまたちと、妻を死者の国から連れもどせなかった詩人
- ・未来の秘密を人間に告げる光の神の誕生
- ・母の死骸から生まれた医師と処女の猟師
- ・絶世の美女をめぐる醜男<ぶおとこ>の夫とたくましい間男<まおとこ>の争い
- ・猪に殺された美青年と愛の神を裏切った美少女
- ・試練と苦しみに耐え幸福を得る魂・泥棒と道化の神さまの誕生
- ・十二人の主な神さまたちと海に住む美女や老人たち

III ゼウスと人間の交わり

- ・父親の太腿<ふともも>から産み出されたお酒の神さま
- ・母親の手で八つ裂きにされた息子たち
- ・神になる運命を約束された怪力の大勇士の誕生
- ・英雄がなしとげた十二の功業・英雄の死と昇天
- ・神々の王に挑戦した巨人たちと怪物・その他の神さまたち

IV 最古の人類の誕生

- ・人間の運命の決定 ・大洪水と新しい人類の発生 おわりに

昭和 57(1982)年 11 月 30 日第 1 刷発行

昭和 58(1983)年 6 月 10 日第 2 刷発行(筑摩書房)

544)「ギリシャ神話 上巻」(呉茂一著)

はしがき

第1章 オリュンポス以前の世界

第1節 天地生成と世界の始め 第2節 ティーターンの一族

第3節 プロメーテウスと人間の始まり 第4節 女の創造と大洪水

第5節 巨人族ギガンテスとの戦い

第2章 オリュンポスの神々(1)

第1節 ゼウス大神 第2節 女神ヘーラー 第3節 女神アテーナー

第4節 アポローン神 第5節 女神アルテミス 第6節 アプロディーテー
第7節 愛神エロースについて 第8節 ヘルメースとその眷属
第9節 その他の神々
第3章 オリュンポスの神々(2)
第1節 女神デーメーテルとコレ 第2節 ディオニューソス神とその眷属
第3節 地下の神々 第4節 水域の神々
第4章 諸王家の伝説
第1節 アイオロスの一族 第2節 タンタロスの一族
諸神および王家系譜
昭和31(1956)年6月15日発行
昭和43(1968)年5月10日28刷(新潮社)

545)「ギリシャ神話 下巻」(呉茂一著)

第5章 諸地方の伝説
第1節 テーバイをめぐる伝説 第2節 クレーターの伝説
第3節 テッサリアの伝説 第4節 アッティケーの伝説
第6章 英雄伝説
第1節 ペルセウスの物語 第2節 ヘーラクレースの物語
第7章 叙事詩の世界
第1節 アルゴー遠征の物語 第2節 トロイア戦争の顛末
第3節 『イーリアス』の物語 第4節 『オデュッセイア』の物語
第8章 民間説話および史的伝説
第1節 民間説話集 第2節 パウサニアス『ギリシャ巡遊記』より
第3節 ヘーロドトスより 参考文献 索引
昭和31(1956)年8月31日発行
昭和42(1967)年6月30日24刷(新潮社)

546)「ギリシャ神話」(呉茂一著)

はしがき

第1章 オリュンポス以前の世界
第1節 天地生成と世界の始め 第2節 ティーターンの一族
第3節 プロメーテウスと人間の始まり 第4節 女の創造と大洪水
第5節 巨人族ギガンテスとの戦い
第2章 オリュンポスの神々(1)
第1節 ゼウス大神 第2節 女神ヘーラー 第3節 女神アテーナー
第4節 アポローン神 第5節 女神アルテミス 第6節 アプロディーテー
第7節 愛神エロースについて 第8節 ヘルメースとその眷属
第9節 その他の神々
第3章 オリュンポスの神々(2)
第1節 女神デーメーテルとコレー 第2節 ディオニューソス神とその眷属
第3節 地下の神々 第4節 水域の神々
第4章 諸王家の伝説
第1節 アイオロスの一族 第2節 タンタロスの一族
第5章 諸地方の伝説
第1節 テーバイをめぐる伝説 第2節 クレーターの伝説
第3節 テッサリアの伝説 第4節 アッティケーの伝説
第6章 英雄伝説
第1節 ペルセウスの物語 第2節 ヘーラクレースの物語
第7章 叙事詩の世界
第1節 アルゴー遠征の物語 第2節 トロイア戦役の顛末
第3節 『イーリアス』の物語 第4節 『オデュッセイア』の物語
系図 参考文献 索引
昭和44(1969)年12月15日発行/昭和48(1973)年5月30日12刷(新潮社)

547)「大博物学者--南方熊楠の生涯--」(平野威馬雄著)

- ・すしと魚と石と、みかん・釘ぬきの紋所・産声は大樟の葉を顫わせた
 - ・幼年時代、そして、中学時代・異常な胃袋その他・神社合祀反対運動
 - ・上京・粘菌研究の動機・はじめての上京--予備門入学
 - ・二十歳の秋--渡米、そしてさらに粘菌について
 - ・英国での雄飛--アングロサクソンの鼻をあかす大和男児の面目
 - ・故国に帰りて・田辺のアルマ・南方研究所立案前後--上京
 - ・御進講の光栄・科学上の業績--その主なるもの
 - ・晩年--臨終--拾遺・斜めに見たる紀州
 - ・南方邸訪問記 A 宮武骸骨氏の場合 B 酒井潔氏の場合
 - ・上京日乗補遺・南方熊楠翁の業績・年譜・あとがき
- 昭和 57(1982)年 7 月 10 日初版第 1 刷発行(リブロポート)

548)「南方熊楠アルバム」(中瀬喜陽・長谷川興蔵編)

- ・故郷と家系---向畑/ 南方家の人びと・幼少年期---伝説につつまれた少年時代
 - ・東京修学---東京大学予備門の青春・外遊準備---アメリカへの渡航の準備
 - ・在米時代---アナバーとフロリダの青春 在米民権家と南方熊楠(新井勝紘)
 - ・孫文との交友---革命家との出会いと別れ・土宜法竜---真言宗の学僧との交遊
 - ・和歌山と那智---帰国/ 那智の山野にて・田辺という町---熊楠の住んだ田辺という町
 - ・結婚-家族---結婚/ 熊楠一家の光と陰
 - ・粘菌の世界---粘菌研究に注がれた情熱
- 南方熊楠の粘菌研究(萩原博光)/粘菌ミナカテラの再採集(山本幸憲)
- ・菌類の研究---数千点の彩色菌類図譜・博物学の友---植物学者たちとの交流
 - ・神社合祀反対---民族と自然を守るために 矢田村入野の大山神社(吉川寿洋)
 - ・毛利清雅---『牟婁新報』と毛利清雅・柳田国男---民俗学草創期の協力と離反
 - ・宮武骸骨---反官権と猥雑への共感・植物研究所---南方植物研究所のいきさつ
 - ・執筆活動---英文と和文を駆使して 英文「燕石考」について(鶴見和子)
 - ・進献-進講---神島/ 進講の一日・田辺交遊録---熊楠をめぐる田辺の人びと
 - ・晩年と死---晩年/ 神島の保全と安藤みかん 紫の花/ 臨終の父(南方文枝)
 - ・熊楠死後---南方熊楠ののこしたもの 略年譜 あとがき
- 平成 2(1990)年 5 月 10 日初版第 1 刷発行(八坂書房)

549)「南方熊楠」新文芸読本

1 南方熊楠小伝

- ・南方熊楠小伝 ◇「自学」をつらぬいた 74 年(飯倉照平)

2 悦ばしき知恵

- ・悦ばしき知恵 ◇あるいは南方熊楠について(澁澤龍彦)
- ・移動者の知性 ◇南方熊楠(鎌田東二)
- ・知識の散財-想像力の解放(谷川健一・中上健次)

3 思索と文体

- ・問答形式の学問の展開(鶴見和子)・南方熊楠の英文著作(岩村忍)
- ・落斯馬<ロスマ>論争(松井竜五)

4 南方学の系譜

- ・熊楠の親しんだ中国の古籍(飯倉照平)
- ・南方の学問的系譜と民俗学(大林太良)

5 熊楠のセクソロジー

- ・「南方熊楠児<ちご>談義」はしがき(稲垣足穂)
- ・浄の男道 ◇南方熊楠「在米書翰」瞥見(松枝到)
- ・南方熊楠とギリシャの少年愛(月川和雄)

6 娘が語る素顔

- ・父 南方熊楠を語る(谷川健一・南方文枝)
- ・父 熊楠の素顔(神坂次郎・南方文枝)

・素顔の南方熊楠(中瀬喜陽・南方文枝)・追憶(南方文枝)

7 隠花植物の世界

- ・菌類に選ばれて ◇熊楠博物学の業と個性(荒俣宏)
- ・菌類彩色図譜編集後記(萩原博光)
- ・日本産粘菌について(グリエルマ・リスター)

8 熊楠のテキストをめぐって

- ・(新資料)南方熊楠-土宜法竜往復書簡補遺(七篇)(長谷川興蔵編・解説)
- ・(特別対談)南方学の基礎と展開
◇テキスト、マンダラ、民俗学(中沢新一/長谷川興蔵)

主要著作案内 南方熊楠年譜 ブック-ガイド

平成5(1993)年4月10日初版発行(河出書房新社)

550)「南方熊楠随筆集」(南方熊楠著)筑摩叢書118

- ・履歴書・人柱の話・巨樹の翁の話・今昔物語の研究
- ・西暦九世紀の支那書に載せたるシンダレラ物語
- ・伝吉お六の話・猫一疋の力に憑って大富と成りし人の話
- ・虎に関する史話と伝説民俗・田原藤太龍宮入りの話・ダイダラハウシの足跡
- ・涅槃に就て・無言貿易・針売の事・神社合祀問題関係書簡
野の遺賢(益田勝実)

昭和43(1968)年10月30日初版第1刷発行

昭和52(1977)年12月10日初版第9刷発行(筑摩書房)

551)「南方熊楠」地球志向の比較学(鶴見和子著)日本民族文化大系4

はしがき

第1章 南方熊楠の世界

- 一 すじがき
- 二 南方熊楠におけるヨーロッパとの出会い
1 学問の目標 2 身についての実証主義 3 問答形式の学問の展開
- 三 地球志向の比較学の構造
1 粘菌研究--地球志向の原点 2 曼荼羅--比較学のモデル

第2章 南方熊楠の生涯

- 一 独創性の根源
1 父母の感化 2 勉強大好き、学校大嫌い
- 二 漂泊の季節
1 アメリカ行きの動機 2 曲馬団とともに 3 大英博物館入り
4 孫文との出会いと別れ 5 ロンドンの暮しと仕事 6 ロンドンでの仕事
- 三 紀州田辺の住民として世界へ
1 定住への引力 2 神社合祀反対運動のさ中に 3 柳田国男との出会いと別れ
4 実現しなかった南方植物研究所 5 神島<かしま>の進講 6 示寂

第3章 南方熊楠の仕事

比較の四つの領域

- 一 比較民俗
1 『十二支考』について 2 邪視について 3 人柱について
- 二 比較民話
原典=猫一疋の力に憑って大富となりし人の話
原典=西暦九世紀の支那書に載せたるシンダレラ物語
- 三 比較宗教--科学論
1 学問の目標 2 比較宗教論 3 科学書
- 四 エコロジーの立場に立つ公害反対
原典=神社合祀反対意見
- 五 おわりに--南方熊楠の現代性
1 南方熊楠とヘンリー-ディヴィッド-ソローの親近性
2 南方の思想家としての現代性

略年譜 参考文献 索引

昭和 53(1978)年 9 月 10 日第 1 刷発行

昭和 54(1979)年 7 月 10 日第 3 刷発行(講談社)

552)「十二支考(上)」(南方熊楠著)岩波文庫 青 139-1

- ・ 虎に関する史話と伝説民俗・ 兎に関する民俗と伝説・ 田原藤太竜宮入りの話
 - ・ 蛇に関する民俗と伝説・ 馬に関する民俗と伝説
- 平成 6(1994)年 1 月 17 日第 1 刷発行(岩波書店)

553)「十二支考(下)」(南方熊楠著)岩波文庫 青 139-2

- ・ 羊に関する民俗と伝説・ 猴くさるゝに関する伝説 (1)概言(2)性質(3)民俗
- ・ 鶏に関する伝説 概説・ 犬に関する伝説・ 猪に関する民俗と伝説
- ・ 鼠に関する民俗と信念 解説(宮田登)

平成 6(1994)年 1 月 17 日第 1 刷発行(岩波書店)

554)「Ⅰ 南方マンダラ」《南方熊楠コレクション》

第 1 巻 河出文庫 827A (責任編集・解題 中沢新一)

解題 南方マンダラ(中沢新一)

第 1 部 事の世界--ロンドン書簡

- ・ 夢の研究、比較宗教論、その他・ 仏教起源論、反進化論、その他
- ・ 変化の論、美少年への愛について、その他

第 2 部 マンダラの誕生--那智書簡

- ・ 霊魂、不老不死のアナロジーについて、その他
- ・ 大乘仏教問答、真言について、その他
- ・ "南方マンダラ"、"不思議"について、その他
- ・ "縁"、因-果について、その他
- ・ 「南方曼荼羅」梗概、アラヤ識について、その他

ポストリュード--最後の書簡

- ・ 遊学への夢、法竜宛書簡の保存について、その他

平成 3(1991)年 6 月 4 日初版発行

平成 3(1991)年 7 月 10 日 3 版発行(河出書房新社)

555)「Ⅱ 南方民俗学」《南方熊楠コレクション》

第 2 巻 河出文庫 827B (責任編集・解題 中沢新一)

解題 南方民俗学(中沢新一)

第 1 部 具体の科学としての南方民俗学--論文集成

- ・ 千里眼・平家蟹の話・山神オコゼ魚を好むということ
- ・ 西暦 9 世紀の支那書に載せたるシンダレラ物語
- ・ 猫一疋の力に憑って大富となりし人の話
- ・ 人柱の話・邪視について・睡眠中に霊魂抜け出づとの迷信
- ・ 通り魔の俗説・睡人および死人の魂入れ替わりし譚
- ・ 臨死の病人の魂、寺に行く話・睡中の人を起こす法・魂空中に倒懸すること
- ・ ダイダラハウシの足跡・廁神・ひだる神・鷲石考・燕石考

第 2 部 世界民俗学へ--柳田国男宛書簡より

- ・ オコゼについて・山男について、神社合祀反対の開始、その他
- ・ 粘菌の神秘について・言語の音、幼児の言語獲得について、その他
- ・ 無島郷の伏翼、日本人の世界研究者、その他
- ・ 狂人になること、反進化論、その他・神社合祀反対運動の終結、その他
- ・ ルーラル-エコノミーについて、柳田批判、その他
- ・ 猥雑の肯定、その他・民俗学雑話、山男についての結論、その他

平成 3(1991)年 8 月 2 日初版発行(河出書房新社)

556) 「Ⅲ 浄のセクソロジー」《南方熊楠コレクション》

第3巻 河出文庫 827C (責任編集・解題 中沢新一)

解題 浄のセクソロジー(中沢新一)

第1部 淫書の効用--論文集成

- ・月下氷人--系図紛乱の話・婦人<おんな>を姣童<わかしゆ>に代用せしこと
- ・千人切りの話・淫書の効用・婦人の腹中の瘡<かさ>を治した話
- ・樟柳神とは何ぞ・「摩羅考」について・人魚の話・奇異の神罰
- ・鳥を食うて王になった話

第2部 友愛としての同性愛--岩田準一宛書簡より

- ・浄愛と不浄愛、粘菌の生態、幻像、その他
- ・直江兼続と上杉景勝、大若衆のこと、その他
- ・カゲロウとカゲマ、御座直し、『弘法大師一卷之書』、その他
- ・ちご石、北条綱成、稚児の谷落とし、「思いざし」、その他
- ・女の後庭犯すこと、トルコ風呂、アナバの猫、その他
- ・口碑の猥雑さ、化け物譚、腹上死、柳田批判、その他

平成3(1991)年10月4日初版発行

平成3(1991)年10月25日再版発行(河出書房新社)

557) 「Ⅳ 動と不動のコスモロジー」《南方熊楠コレクション》

第4巻 河出文庫 827D (責任編集・解題 中沢新一)

解題 動と不動のコスモロジー(中沢新一)

第1部 自らの名について

- ・南紀特有の人名--楠の字をつける風習について・トーテムと命名

第2部 アメリカ放浪--在米書簡より

- ・杉村広太郎宛・喜多幅武三郎宛・羽山蕃次郎宛・三好太郎宛・中松盛雄宛

第3部 ロンドンの青春--ロンドン日記より

第4部 紀州隠棲--履歴書より

平成3(1991)年12月4日初版発行(河出書房新社)

558) 「Ⅴ 森の思想」《南方熊楠コレクション》

第5巻 河出文庫 827E (責任編集・解題 中沢新一)

解題 森の思想(中沢新一)

第1部 謎としての生命--植物学論文集成

- ・フィラデルフィアの顕微鏡・粘菌、動植物いずれともつかぬ奇態の生物
- ・粘菌の神秘・粘菌の形態学・粘菌の複合・フィサルム-ギロスムの色彩
- ・ハドリヌスタケ・酒泉等の話・オニゲナ菌
- ・へろへろほうきたけ、冬虫夏草<のんじたけ>
- ・姫蕈<ひめたけ>、臍蕈<へそたけ>、ヘンニングシア
- ・牛肉蕈 山人外伝資料・山婆の髪の毛・山神の小便
- ・カウルとヒョウタケ・情事を好く植物

第2部 森と政治

- ・菌類学より見たる田辺及台場公園保存論・南方二書(松村仁三宛書簡)
- ・神社合祀に関する意見(白井光太郎宛書簡)

平成4(1992)年3月10日初版発行(河出書房新社)

559) 「犯罪小説集」(谷崎潤一郎著) 集英社文庫

- ・柳湯の事件・途上・私・白昼鬼話

解説--「犯罪」としての話法(渡辺直己)

平成3(1991)年8月25日第1刷(集英社)

560) 「ドイツ怪談集」(種村季弘編) 河出文庫 126F

- ・ロカルノの女乞食 (ハインリヒ・フォン・クライスト)

Heinrich von Kleist: Das Bettelweib von Locarno (種村季弘訳)

- ・ 廃屋 (E・T・A・ホフマン)
Ernst Theodor Amadeus Hoffmann: Das öde Haus (池内紀訳)
- ・ 金髪のエックベルト (ルートヴィッヒ・ティーク)
Ludwig Tieck: Der blonde Eckbert (前川道介訳)
- ・ オルラッハの娘 (ユスティーヌス・ケルナー)
Justinus Kerner: Geschichte des Mädchens von Orlach (佐藤恵三訳)
- ・ 幽霊船の話 (ヴィルヘルム・ハウフ)
Wilhelm Hauff: Die Geschichte von dem Gespensterschiff (種村季弘訳)
- ・ 奇妙な幽霊物語 (ヨーハン・ペーター・ヘーベル)
Johann Peter Hebel: Merkwürdige Gespenstergeschichte (種村季弘訳)
- ・ 騎士バッソンピエールの奇妙な冒険 (フーゴー・フォン・ホーフマンスタール)
Hugo von Hofmannstahl: Das Erlebnis des Marschalls von Bassompierre (小堀桂一郎訳)
- ・ こおろぎ遊び (グスタフ・マイリンク) Gustav Meyrink: Das Grillenspiel (種村季弘訳)
- ・ カディスのカーニヴァル (ハンス・ハインツ・エーヴェルス)
Hanns Heinz Ewers: Karneval in Cadiz (石川實訳)
- ・ 死の舞踏 (カール・ハンス・シュトロートル)
Karl Hans Strobl: Gebärden da gibt es vertrackte (前川道介訳)
- ・ ハーシェルと幽霊 (アルブレヒト・シェッファール)
Albrecht Schaeffer: Herschel und das Gespenst (石川實訳)
- ・ 庭男 (ハンス・ヘニー・ヤーン) Hans Henny Jahnn: Der Gärtner (種村季弘訳)
- ・ 三位一体亭 (オスカル・パニッツァ)
Oskar Panizza: Das Wirthaus zur Dreifaltigkeit (種村季弘訳)
- ・ 怪談 (マリー・ルイーゼ・カシュニッツ)
Marie Luise Kaschnitz: Gespenster (前川道介訳)
- ・ ものいう髑髏 (ヘルベルト・マイヤー) Herbert Meier: Sprechschädel (池田香代子訳)
- ・ 写真 (フランツ・ホーラー) Franz Hohler: Die Photographie (土合文夫訳)
超自然の露出(編者あとがきにかえて)(種村季弘) 初出一覧
昭和 63(1988)年 12 月 2 日初版発行(河出書房新社)

561) 「日本怪談集 上」(種村季弘編) 河出文庫 126G

- <家> ・ ひこばえ(日影丈吉) ・ 母子像(筒井康隆) ・ 化物屋敷(佐藤春夫)
・ 化けもの屋敷(吉田健一) ・ 出口(吉行淳之介) ・ 百物語(森鷗外)
・ 山本五郎左衛門只今退散仕る(稲垣足穂)
- <坂> ・ 遊就館(内田百閒) ・ 貉くむじな>(小泉八雲)(ラフカディオ・ハーン)
・ 鼠坂(森鷗外) ・ 車坂(大岡昇平)
- <沼> ・ 沼のほとり(豊島予志雄) ・ 幻談(幸田露伴)
・ 紅皿(火野葦平) ・ 鯉の巴(小田仁二郎)
- <場所> ・ 老人の予言(笹沢佐保) ・ 怪談作法(都筑道夫) ・ 怖いこと(武田百合子)
・ わたしの赤マント(小沢信男) ・ 終の岩屋(半村良) ・ 雪霊続記(泉鏡花)
・ 髑髏盃(澁澤龍彦) 解説(種村季弘)
平成 1(1989)年 8 月 4 日初版発行(河出書房新社)

562) 「日本怪談集 下」(種村季弘編) 河出文庫 126H

- <動植物> ・ 猫が物いふ話(森銑三) ・ くだんのはは(小松左京) ・ 件(内田百閒)
・ 孤独なカラス(結城昌治) ・ ふたたび 猫(藤沢周平)
・ 蟹(岡本綺堂) ・ お菊(三浦哲郎)
- <器怪> ・ 鎧櫃の血(岡本綺堂) ・ 蒲団(橘外男) ・ 碁盤(森銑三)
・ 赤い鼻緒の下駄(柴田錬三郎)
- <身体> ・ 足(藤本義一) ・ 手(舟橋克彦) ・ 人間椅子(江戸川乱歩)
・ 竈<かまど>の中の顔(田中貢太郎)
- <霊> ・ 仲間(三島由紀夫) ・ 妙な話(芥川龍之介) ・ 予言(久生十蘭) ・ 幽霊(吉田健一)
・ 幽霊(正宗白鳥) ・ 生き口を問ふ女(折口信夫) 解説(種村季弘)
平成 1(1989)年 8 月 4 日初版発行(河出書房新社)

563)「詐欺師の楽園」(種村季弘著)河出文庫 126I

はじめに----表層の人

- I・贗エチオピア皇帝の訪れ(英国艦隊をコケにした悪漢ヴェア・コール)
 - ・バルムベックの王様(大盗賊団長アドルフ・ペーターセン)
 - ・ルーマニアの泥棒英雄(貴婦人総ナメのゲオルク・マノレスコ)
 - ・モナ-リザ泥棒(無頼の王様アポリネール)
- II・詐欺師の哲学(薔薇十字団大幹部カザノヴァ)
 - ・華やかな鉄仮面(女装の剣士デオン-ド-ボーモン)
 - ・大革命の時計師(国家陰謀の技師ボーマルシェ)
 - ・夢の機械魔術師(史上最大の魔術師ロベール-ウーダン)
- III・悪魔博士の正体(オカルト怪人シュレンク=ノッチング)
 - ・二十世紀に蘇る救世主(奇蹟かペテンか ブルーノ-グレーニング)
 - ・顔のない男(詐術と煽動のスーパー-カメレオン)
 - ・史上最大の贗金造り(ポルトガル乗っ取りのアルヴェス-レイス)
- IV・詐欺師の楽園(トリックスターたちの肖像)

平成2(1990)年8月4日初版発行(河出書房新社)

564)「迷信博覧会」(種村季弘著)ちくま文庫

第I章 動物・天狗のしゃれこうべ・兎のダンス・物品取り寄せの限界

・狸の集金旅行・絵馬は仲立ち

第II章 運・鬼門には背中を向けろ・嫁婿えらび神の声・媚薬の使い方

・閨際の吉凶・初恋のたたり

第III章 物・ナウイぞ、スルメ男・ありがたいお札

・霊柩車の運転法・浅右衛門の胆嚢藏

第IV章 暦・十三日の金曜日・四月一日は馬鹿<フール>になろう

・厄年の綱渡り・丙午<ひのえうま>の女

第V章 食・黄金食の茄子・茸<きのこ>とクソの戦争・吸血鬼とニンニク

・塩は敵に送れ・南瓜<かぼちゃ>がこわい

第VI章 呪・チチンブイブイ・長い長い名前

・鼻を高くするおまじない・くしゃみ論争

あとがき 解説 本書はなんで面白いのか(南伸坊)

平成3(1991)年12月4日第1刷発行(筑摩書房)

565)「エロスの解剖」(澁澤龍彦著)河出文庫 121U

- ・女神の帯について・オルガスムについて・性とは何か・コンプレックスについて
- ・近親相姦について・愛の詩について・優雅な屍体について
- ・サド=マゾヒズムについて・ホモ-ビオロギクス・オナンの末裔たち
- ・乳房について・ドン-ジュアンの顔・エロティック図書館めぐり
- ・ピエール-アンジェリック『エドワルド夫人』について
- ・玩具考・マンドラゴラについて 初版あとがき

平成2(1990)年7月4日初版発行(河出書房新社)

566)「ヨーロッパの乳房」(澁澤龍彦著)河出文庫 121N

- I・バロック抄 ボマルツォ紀行・昔と今のプラハ・マジョーレ湖の姉妹
- ・狂王の城・バーゼル日記・エル/エスコリアル訪問・骸骨寺と修道院
- ・奇怪な偶像・優雅なスペイン、優雅なゴヤ・神話の国を訪ねて
- ・イスパハンの昼と夜、アストロラープについて・砂漠に日は落ちて...
- II・幻想美術とは何か・シンメトリーの画家 谷川晃一のために
- ・紋章について・日時計について・洞窟について・理想の庭園
- ・巨木のイメージ・パリ食物誌・鏡について・噴水綺談
- ・匂いのアラベスグ・フローラ幻想・オカルティズムについて
- ・シェイクスピアと魔術・わたしの処女崇拜・エロスとフローラ

- ・貝殻頌・自分の死を自分の手に・フランスのサロン
あとがきにかえて 日時計の影のもとに(多田智満子)
昭和 62(1987)年 10 月 5 日初版発行(河出書房新社)

567)「女のエピソード」(澁澤龍彦著) 河出文庫 121T

- ・ギロチンのまえではじめて気高くなった(マリー・アントワネット)
- ・父にはずかしめられた 14 歳の少女は天使のように愛らしかった
(ベアトリーチェ・チェンチ)
- ・男性遍歴をしながら一度も満足しなかった(ジョルジュ・サンド)
- ・権力を争う母と子、ネロとその母(アグリッピーナ)
- ・現代ならばさしずめデヴィ夫人(?) (ローラ・モンテス)
- ・華やかな自由恋愛のチャンピオン(和泉式部)
- ・レスビアン詩人(サッフォー)
- ・魔女として、生きながら焼き殺された(ジャンヌ・ダルク)
- ・男たちに取り巻かれながら、実は処女だった(エリザベス女王)
- ・裁判をうけながら肖像画を描かせた、フランス革命の女闘士
(シャルロット・コルデー)
- ・冷感症の熱い女(サロメ)
- ・二十年間、火のような恋文を書きつづけた(エロイーズ)
- ・女の主体性と自由を守りぬいた反体制のヒロイン(細川ガラシア夫人)
- ・愛する夫の出獄の日、謎の離別をしたサド侯爵夫人(ルネ・ペラジー)
- ・マゾヒズムの元祖マゾッホと奇妙な契約結婚をした(アンダ・リュウメリン)
- ・畸形か、奇跡か? 処女懐胎した(聖母マリア)
- ・一日会わなければ病気になる、三日会わなければ死ぬという
「愛の飲み物」を飲んだ(金髪のイゾルデ)
- ・私生児として生まれ、母親の発狂で孤児院に、十四歳で最初の結婚をした
(マリリン・モンロー)
- ・そのとき二人の心をよぎったものは? かつての敵、
後白河法皇を寂光院に迎えた(建礼門院平徳子)
- ・女と毒薬との関係の極致、みずからの快楽のために次々と殺人を重ねた
稀代の女毒殺魔(ド・ブランヴィリエ侯爵夫人)
- ・二十年は処女、十五年は娼婦、七年は女衞だった女(ポンパドゥール夫人)
- ・国際外交のかげに泣いた悲劇のヒロイン(王昭君)
- ・謎深いドラマを秘めた女性(マグダラのマリア)
- ・フリー-セックスの実践家のように奔放に恋をした女性美の理想像(ヴィーナス)
初版あとがき 平成 2(1990)年 2 月 5 日初版発行(河出書房新社)

568)「神聖受胎」(澁澤龍彦著) 河出文庫 121O

- I・ユートピアの恐怖と魅惑・狂帝ヘリオガバルスあるいはデカダンスの一考察
- II・テロオルについて・反社会性とは何か・危機と死の弁証法
 - ・ワイセツ妄想について・檻のなかのエロス
 - ・神聖受胎あるいはペシミストの精神
 - ・スリルの社会的効用についてあるいは偽強姦論
 - ・国語改革はエセ進歩主義である・生産性の倫理をぶちこわせ
- III・恐怖の詩情・前衛とスキャンダル・仮面について--現代ミステリー映画論
 - ・「好色」と「エロティシズム」--西鶴と西欧文学・査証のない惑星
 - ・知性の血痕--ブルトンとトロッキー・18世紀の暗黒小説
 - ・銅版画の天使-加納光於 燔祭の舞踏家-土方巽・「鉄の処女」--春日井建の家
- IV・発禁よ、こんにちは--サドと私・裁判を前にして
 - ・第一回公判における意見陳述・不快指数80
あとがき 解説(巖谷國士)
昭和 62(1987)年 11 月 4 日初版発行(河出書房新社)

569)「華やかな食物誌」(澁澤龍彦著)河出文庫 121S

I 華やかな食物誌

- ・ローマの饗宴・フランスの宮廷と美食家たち・グリモの午餐会
- ・イタリア狂想曲・クレオパトラとデーゼッサント・龍肝鳳髓と文人の食譜

II・ヴィーナス、処女にして娼婦・ベルギー象徴派の画家たち

- ・アタナシウス-キルヒャーについて(略伝と驚異博物館)
- ・シュヴァルと理想の宮殿・ダリの宝石

III・建長寺あれこれ・蕭白推賞・絵巻に見る中世

- ・私と琳派--「舞樂園」を愛す・私と修学院離宮--刈込みの美学
- ・六道絵と庭の寺・観音あれこれ・「ばさら」と「ばさら」大名

IV・土方巽について・透明な鎧あるいは様式感覚・城景都あるいはランプの城

- ・みずからを売らず--秋吉巒くらん>について
- ・平出隆『胡桃の戦意のために』 初版あとがき
平成1(1989)年9月4日初版発行(河出書房新社)

570)「胡桃の中の世界」(澁澤龍彦著)河出文庫 121J

- ・石の夢・プラトン立体・螺旋について・『ポリフィルス狂恋夢』・幾何学とエロス
- ・宇宙卵について・動物誌への愛・紋章について・ギリシャの独楽・怪物について
- ・ユートピアとしての時計・東西庭園譚・胡桃の中の世界 文庫版あとがき
昭和59(1984)年10月4日初版発行(河出書房新社)

571)「夢の宇宙誌」コスモグラフィア-ファンタスティカ
(澁澤龍彦著)河出文庫 121I

- ・玩具について
註--ホームクルスについて 註--グスタフ-マイリンクの『ゴーレム』について
註--アレクサンドリア時代について 註--怪物について 註--貝殻について
- ・天使について
- ・アンドロギュヌスについて 註--球形について
- ・世界の終りにについて 註--中世のエロティシズムについて
文庫版あとがき
昭和59(1984)年10月4日初版発行(河出書房新社)

572)「ドラコニア奇譚集」(澁澤龍彦著)河出文庫 121R

- ・極楽鳥について・鏡と影について・飛ぶ頭について・かぼちゃについて
- ・文字食う虫について・スペインの絵について・ラテン詩人と蜜蜂について
- ・箱の中の虫について・桃鳩図について・仮面について
- ・童子について・巨像について 初版あとがき
平成1(1989)年6月2日初版発行(河出書房新社)

573)「幻想の彼方へ」(澁澤龍彦著)河出文庫 121Q

- I・魔女から女祭司まで(レオノール・フィニー)
 - ・女に憑かれて(マックス・ワルター・スワンベルク)
 - ・色鉛筆の予言者(ゾンネンシュターン)・夢のなかの裸体(ポール・デルヴォー)
 - ・肉体の迷宮(ハンス・ベルメール)・危険な伝統主義者(バルテュス)
- II・ルネ-マグリットの 세계・キリコ、反近代主義の亡霊
 - ・マックス-エルンスト論・ベルメールの人形哲学
 - ・ファンム-アンファンの樂園・パウル-クレー展を見て
 - ・ビザンティンの薄明あるいはギュスターヴ-モローの偏執
 - ・ルドンの黒・ゴヤあるいは肉体の牢獄
 - ・ロメーン-ブルックス、アンドロギュヌスに憑かれた世紀末
 - ・遠近法-静物画-鏡、トロンプ-ルイユについて
初版あとがき 既知との遭遇(巖谷國士)
昭和63(1988)年10月4日初版発行(河出書房新社)

- 574) 「ドイツ語固有名詞小辞典」(小池辰雄編)研究社ドイツ語小辞典シリーズ
Kenkyushas kleines deutsches Eigennamenswörterbuch
昭和 39(1964)年初版第 1 刷発行(研究社)
- 575) 「ドイツ語ハンドブック」(山田幸三郎著)研究社ドイツ語小辞典シリーズ
Kenkyushas Handbuch der deutschen Sprache
昭和 35(1960)年 5 月 1 日第 1 刷発行
昭和 45(1970)年 11 月 1 日第 3 刷発行(研究社)
- 576) 「ドイツ語熟語辞典」(菊池栄一・山本明共編)
Kenkyushas Wörterbuch deutscher Redensarten mit japanischer Übersetzung
昭和 41(1966)年 9 月 1 日初版第 1 刷発行
昭和 42(1967)年 3 月 20 日初版第 2 刷発行(研究社)
- 577) 「ドイツ語作文辞典」(京野季吉・原田武雄共編)
Kenkyushas Stilwörterbuch deutscher Redewendungen
昭和 41(1966)年 6 月 1 日初版第 1 刷発行
昭和 42(1967)年 3 月 20 日初版第 2 刷発行(研究社)
- 578) 「たのしい口語独作文」(小林栄三郎著)--太郎君ドイツ語をしゃべる--
(校閲 藤田五郎・Dr. Heinz Wilms)
Fröhliche Sprachübungen im Umgang mit einem Deutschen
昭和 42(1967)年 9 月 25 日第 1 版発行
昭和 51(1976)年 10 月 30 日第 3 版発行(大学書林)
- 579) 「実用ドイツ語会話」(森偽郎著・林文三郎訂)新稿改訂版
Handbuch der japanisch-deutschen Umgangssprache
昭和 34(1959)年 12 月 20 日第 1 版発行
昭和 49(1974)年 2 月 25 日第 23 版発行(大学書林)
- 580) 「ドイツ語会話小辞典」(ヘルタ-ヤーン・星野慎一共著)
研究社ドイツ語小辞典シリーズ
Kenkyushas Handbuch für deutsche Konversation
昭和 35(1960)年 5 月 1 日第 1 刷発行
初版第 4 刷発行(研究社)
- 581) 「標準実用ドイツ語会話」(山川秀一郎・奈良文夫共著)
Wie man gut Deutsch spricht
昭和 38(1963)年 8 月 20 日初版発行
昭和 54(1979)年 8 月 1 日 53 版発行(昇龍堂)
- 582) 「教科書を読むための入門独和辞典」(岩崎英二郎・岡田朝雄・安藤勉共著)
Deutsch-Japanisches Wörterbuch zur Einführung
昭和 60(1985)年 2 月 25 日初版 1 刷発行(朝日出版社)
- 583) 「コンサイス独和辞典」(倉石五郎編)
Sanseidos Concise Deutsch-Japanisches Wörterbuch. Fünfte Auflage.
昭和 11(1936)年 4 月 5 日初版発行/ 昭和 31(1956)年 3 月 30 日第 2 版発行
昭和 36(1961)年 3 月 1 日第 3 版発行/ 昭和 47(1972)年 9 月 20 日第 4 版発行
昭和 53(1978)年 3 月 10 日第 5 版発行
昭和 54(1979)年 3 月 15 日第 3 刷発行(三省堂)

- 584) 「小独和辞典」(成瀬清・佐藤通次編) 新訂版
Ikubundos Deutsch-Japanisches Wörterbuch.
昭和 31(1956)年 3 月発行
昭和 54(1979)年 4 月新訂 51 版(郁文堂)
- 585) 「ドイツ語ことわざ辞典」(山川丈平編)
Kleines deutsches Sprichwörterbuch
昭和 50(1975)年 7 月 10 日発行(白水社)
- 586) 「袖珍 独和辞典」(三浦吉兵衛・権田保之助共編) 新訂版
Juhodos Deutsch-Japanisches Taschenwörterbuch.
大正 11(1922)年 11 月 10 日第 25 版発行
大正 11(1922)年 12 月 23 日第 26 版発行
大正 12(1923)年 2 月 27 日第 27 版発行
大正 12(1923)年 3 月 18 日第 28 版発行(有朋堂)
- 587) 「独逸語常用単語 6000」(大学書林編集部編)
6000 gebräulichste deutsche Wörter
昭和 24(1949)年 1 月 25 日第 1 版発行(大学書林)
- 588) 「コンサイス和独辞典」(国松孝二編)
Sanseidos Concise Japanisch-Deutsches Wörterbuch
昭和 41(1966)年 4 月 10 日第 1 刷発行(三省堂)
- 589) 「郁文堂 和独辞典」(富山芳正・三浦鞆郎・山口一雄編) 第二版
Ikubundos Japanisch-Deutsches Wörterbuch.
昭和 41(1966)年 4 月 1 日第 1 版発行
昭和 58(1983)年 3 月 1 日第 2 版
平成 4(1992)年 3 月 1 日第 10 刷(郁文堂)
- 590) 「ドイツ語不変化詞辞典」(岩崎英二郎・小野寺和夫共編)
Deutsch-Japanisches Wörterbuch der unflektierbaren Wortarten
昭和 44(1969)年 1 月 20 日初版発行
昭和 49(1974)年 4 月 20 日 4 版発行(白水社)
- 591) 「和独辞典」(奥津彦重編)
Neues Japanisch-Deutsches Wörterbuch.
昭和 38(1963)年 2 月 10 日発行(白水社)
- 592) 「現代和独辞典」(ロベルト・シンチンゲル・山本明・南原実共編)
Wörterbuch der deutschen und japanischen Sprache (Japanisch-Deutsch)
昭和 55(1980)年 12 月 1 日第 1 版発行(三修社)
- 593) 「改新 独逸文法辞典」(片山正雄著)
Grammaisches Wörterbuch der deutschen Sprache
附 前綴後綴辞彙 詳解独逸文典
昭和 23(1948)年 2 月 15 日初版発行
昭和 28(1953)年 6 月 25 日 12 版発行
昭和 29(1954)年 9 月 20 日 14 版発行(有朋堂)
- 594) "Bilingual VISUAL dictionary" (german english)
over 6000 words and phrases
A Dorling Kindersley Book, 2005

- 595) 「ドイツ語キーワード 1000」(教育社編集部)
(新訂ドイツ語単語トレーニングペーパーのハンディー版)
平成 1(1989)年 12 月 15 日第 1 刷
平成 4(1992)年 2 月 20 日第 4 刷(教育社)
- 596) 「三省堂 独和新辞典」第 3 版(三省堂編修所編) 篠田英雄・国松孝二監修
Sanseidos Neues Wörterbuch Deutsch-Japanisch. Dritte Auflage.
昭和 29(1954)年 3 月 25 日初版発行
昭和 38(1963)年 11 月 1 日新訂版発行
昭和 56(1981)年 3 月 1 日第 3 版第 1 刷発行(三省堂)
- 597) 「郁文堂 独和辞典」(編集主幹 富山芳正)
Ikubundo・Deutsch-Japanisches Wörterbuch.
昭和 62(1987)年 2 月第 1 版発行
平成 1(1989)年 2 月第 3 刷(郁文堂)
- 598) 「独話言林」改新版(佐藤通次著)
Neuer Deutsch-Japanischer Wortschatz
昭和 43(1968)年 3 月 25 日発行(白水社)
- 599) 「Sagara Großes Deutsch-Japanisches Wörterbuch」(編者 相良守峯)
昭和 33(1958)年 6 月 20 日初版発行
昭和 35(1960)年 1 月 20 日 5 版発行
昭和 39(1964)年 1 月 5 日 10 版発行
昭和 45(1970)年 1 月 15 日 16 版発行(博友社)
- 600) 「和独大辞典」(木村謹治著) Großes Japanisch-Deutsches Wörterbuch
昭和 27(1952)年 4 月 20 日初版発行
昭和 46(1971)年 1 月 15 日 19 版発行(博友社)
- 601) "Das visuelle Lexikon" 640 Seiten, 6000 Abbildungen, 20000 Begriffe
Gerstenberg Verlag 1996
- 602) "Der kleine Wahrig" Wörterbuch der deutschen Sprache
Bertelsmann Lexikon Verlag 1997
- 603) "Wahrig Deutsches Wörterbuch" (Gerhard Wahrig)
Einmalige Sonderausgabe / Bertelsmann Lexikon Verlag 1968
- 604) 「独和大辞典」(編者代表 国松孝二)
Großes Deutsch-Japanisches Wörterbuch
昭和 60(1985)年 1 月 18 日初版 1 刷発行
平成 2(1990)年 1 月 20 日初版 6 刷発行(小学館)
- 605) "Duden Deutsches Universalwörterbuch A-Z"
3., neu bearbeitete Auflage. Auf der Grundlage der neuen amtlichen Rechtschreibregeln.
Dudenverlag Mannheim・Leipzig・Wien・Zürich 1996
- 606) 「独和広辞典」(R. シンチンゲル・山本明・南原実 編者)
Wörterbuch der deutschen und japanischen Gegenwartssprache (Deutsch-Japanisch)
昭和 62(1987)年 11 月 1 日第 1 版発行(三修社)

- 607) 「独和広辞典」(R. シンチンゲル・山本明・南原実 編者) <非売品>
 Wörterbuch der deutschen und japanischen Gegenwartssprache (Deutsch-Japanisch)
 謹呈 三修社創業五十周年記念 昭和 63(1988)年 8 月 20 日(三修社)
- 608) 「クラウン仏和辞典」Dictionnaire Français-Japonais Crown
 (大槻鉄男・佐佐木康之・多田道太郎・西川長夫・山田稔共編)
 昭和 53(1978)年 2 月 1 日発行
 昭和 54(1979)年 10 月 1 日第 11 刷発行(三省堂)
- 609) "**Langenscheidts Handwörterbuch Lateinisch-Deutsch**"
 Ungekürzte Schulausgabe/ Langenscheidt Berlin・München・Zürich 1971
- 610) 「アポロン独和辞典」(編集執筆者 根元道也・恒吉良隆・有村隆弘
 ・吉中幸平・本多義昭・福元圭太・新保弼彬・鈴木敦典)
 Apollon Deutsch-Japanisches Wörterbuch
 平成 6(1994)年 2 月 1 日第 1 版発行(同学社)
- 611) 「生の絨毯 前奏 夢と死の歌」(シュテファン・ゲオルゲ)
 Stefan George: Der Teppich des Lebens und die Lieder von Traum und Tod
 mit einem Vorspiel(野村琢一監修 ゲオルゲ研究会訳)
 平成 5(1993)年 4 月 25 日初版発行(東洋出版)
- 612) 「魂の四季」(シュテファン・ゲオルゲ)
 Stefan George: Das Jahr der Seele(西田英樹訳)
 平成 5(1993)年 4 月 25 日初版発行(東洋出版)
- 613) "**Duden, Reden gut und richtig halten!**"
 Ratgeber für wirkungsvolles und modernes Reden.
 2., neu bearbeitete und ergänzte Auflage.
 Dudenverlag Mannheim・Leibzig・Wien・Zürich 2000
- 614) "**Grammatik der deutschen Sprache**" (Heinz Griesbach・Dora Schulz)
 Max Hueber Verlag München 1967
- 615) 「芭蕉 おくのほそ道」(萩原恭男校注)岩波文庫 黄 206-2
 付 曾良旅日記 奥細道菅菰抄
 昭和 54(1979)年 1 月 16 日第 1 刷発行
 平成 17(2005)年 12 月 15 日第 51 刷発行(岩波書店)
- 616) 「奥の細道」附 現代語訳(穎原退蔵・能勢朝次訳註) 角川文庫
 昭和 27(1952)年 8 月 20 日初版発行
 昭和 38(1963)年 2 月 10 日 26 版発行(角川書店)
- 617) 「奥の細道ノート」(萩原井泉水著) 新潮文庫
 昭和 31(1956)年 9 月 15 日発行
 昭和 45(1970)年 1 月 10 日 14 刷改版(新潮社)
- 618) 「特集ウィーン 明晰と翳り」(エピステーメー 5 月号)
 昭和 51(1976)年 5 月 1 日発行(朝日出版社)
- 619) 「ムージル ブロッホ」(筑摩世界文学大系 64)
 Robert Musil(ロベルト・ムージル)
 ・Die Vollendung der Liebe『愛の完成』(古井由吉訳)

- ・ Die Versuchung der stillen Veronika 『静かなヴェロニカの誘惑』 (古井由吉訳)
 - ・ Drei Frauen 『三人の女』 (生野幸吉訳) ・ Die Amsel 『黒つぐみ』 (川村二郎訳)
 - Hermann Broch (ヘルマン・ブロッホ) ・ Der Versucher 『誘惑者』 (古井由吉訳)
 - ある作品との出会い (ジャコテ) (円子修平訳)
 - Philippe Jaccottet: Begegnung mit einem Werk
 - 夢の数字 (イェンス) (中野孝次訳)
 - Walter Jens: Die Mathematik der Träume 解説 (古井由吉)
 - 昭和 48 (1973) 年 2 月 15 日初版第 1 刷発行
 - 昭和 50 (1975) 年 1 月 15 日初版第 2 刷発行 (筑摩書房)
- 620) 「**Prismen**」 (東京大学ドイツ語教材) テキスト + CD 2 枚
 Deutsche Abteilung, Universität Tokyo, Komaba
 (東京大学教養学部ドイツ語部会編)
 平成 14 (2002) 年 9 月 25 日初版
 平成 17 (2005) 年 9 月 15 日第 4 刷 (東京大学出版会)
- 621) 「**Horizonte**」 (東京大学ドイツ語教材)
 Deutsche Abteilung, Universität Tokyo, Komaba
 (東京大学教養学部ドイツ語部会編)
 平成 18 (2006) 年 9 月 20 日初版 (東京大学出版会)
- 622) 「**東大英単**」 (The UT Handbook of Academic Vocabulary)
 Enrich Your Academic Vocabulary (東京大学教養学部英語部会編著)
 平成 21 (2009) 年 3 月 23 日初版
 平成 21 (2009) 年 5 月 15 日第 5 刷 (東京大学出版会)
- 623) 「**ドイツ文学史**」
 (著者/ 菊池栄一・北通文・國松孝二・野島正城・山下肇・吉田正己)
 昭和 30 (1955) 年 5 月 25 日初版第 2 版
 昭和 42 (1967) 年 5 月 25 日第 7 刷発行 (東京大学出版会)
- 624) 「**知の技法**」 (小林康夫・船曳建夫編) (東京大学教養学部「基礎演習」テキスト)
 平成 6 (1994) 年 4 月 11 日初版
 平成 6 (1994) 年 7 月 30 日第 15 刷 (東京大学出版会)
- 625) 「**知の論理**」 (小林康夫・船曳建夫編)
 平成 7 (1995) 年 4 月 12 日初版
 平成 7 (1995) 年 7 月 20 日第 6 刷 (東京大学出版会)
- 626) 「**知のモラル**」 (小林康夫・船曳建夫編)
 平成 8 (1996) 年 4 月 10 日初版 (東京大学出版会)
- 627) 「**文学の方法**」 (川本皓嗣・小林康夫編)
 平成 8 (1996) 年 4 月 25 日初版
 平成 8 (1996) 年 6 月 20 日第 4 刷 (東京大学出版会)
- 628) 「**立花隆 脳を鍛える**」 (東大講義 人間の現在 ①)
 平成 12 (2000) 年 3 月 30 日発行
 平成 12 (2000) 年 4 月 15 日 2 刷 (新潮社)
- 629) 「**環境ホルモン入門**」 (立花隆著) (東京大学教養学部 立花隆ゼミ)
 平成 10 (1998) 年 7 月 15 日発行
 平成 10 (1998) 年 9 月 20 日 5 刷 (新潮社)

630) 「星の王子さま」(サン＝テグジュペリ作)
Saint-Exupéry: Le Petit Prince(内藤濯訳)
昭和 37(1962)年 11 月 27 日第 1 刷発行
昭和 47(1972)年 9 月 30 日第 26 刷改版発行
昭和 48(1973)年 7 月 20 日第 27 刷発行(岩波書店)

631) 「高橋義孝文芸理論著作集 上」

文芸学批判 1 主体の意味 2 文学の構造 3 方法の諸問題
芸術の秘密

第 1 章 《止まれ美しき刹那》の意味

1 批評の概念規定 2 批評と価値の関係

3 ゲオルク・ジンメルによる「芸術的合法則性」の概念

4 モーリッツ・ガイゲルの美的享受論 5 芸術内容の反批判主義

第 2 章 実感の処理にあたって

第 3 章 マルクスの古典概念をめぐる

1 マルクスの古典概念 2 その問題性 3 芸術古典の形式的諸規定

4 芸術古典の成立する過程

第 4 章 芸術における自由の問題

1 ドイツ歴史学派の一問題 2 一回的なるものと類型的なるもの

3 自由なる人格の背後 4 インフアンティリスムとしての芸術

5 芸術的感動の根源について

文学研究の諸問題

第 1 章 「文芸学」の困難 第 2 章 「学者」と「文人」 第 3 章 文学批評

第 4 章 文学と社会の連続・非連続

補説・ルカーチュ『上部構造としての文学』に対する批評

第 5 章 芸術と「進歩」 第 6 章 文学史の成立過程と問題性

第 7 章 解釈 第 8 章 深層心理学の諸寄与 第 9 章 芸術論理学

昭和 52(1977)年 1 月 30 日初版発行(人文書院)

632) 「高橋義孝文芸理論著作集 下」

近代芸術観の成立

1 芸術の起源 2 系統発生的諸問題を扱う二つの見地

3 もう一つのアルキメデスの点 4 リプスの美学 5 リーゲルの「芸術意欲」

6 美術史的関連における「芸術意欲」 7 十九世紀後半期の生理・心理学的美学

8 生理・心理学的美学の難点

9 「芸術意欲」の根拠としての「幸福感情」(ヴォリンガー)

10 芸術意欲としての「抽象衝動」 11 ヴォリンガーとリーゲル

12 手段としての芸術の発生 13 最古の芸術様式 14 旧石器時代の芸術的遺品

15 原始的心性のメカニズム 16 前アニミズム 17 呪術 18 「観念の万能」

19 ナーシシズム 20 ナーシシズムと自然主義様式 21 装飾欲求

22 癍痕と文身<いれずみ> 23 中石器時代と幾何学文様の萌芽

24 新石器時代 25 幾何学文様様式とアニミズム 26 新石器時代の芸術

27 芸術と非芸術、「意図」と「未開」と「解釈」 28 「原始」と「未開」

29 オーストラリア原住民の歌謡 30 エスキモーの歌謡

31 芸術諸ジャンルのジュンビオーゼ状況 32 遊戯衝動 33 遊戯と文学

34 「無目的性」の権威確立以前 35 『毛詩大序』 36 『古今和歌集』の仮名序

37 代用満足行為としての芸術

38 アリストテレスの『詩学』における芸術の本質と機能

39 『詩学』とモラリズム 40 カタルシス 41 プラトンのカタルシス

42 アリストテレスのカタルシス 43 代用満足手段としてのカタルシス

44 カタルシスと精神分析的療法の構造的な一致 45 カタルシス理論への一反論

46 カタルシス問題における一論点 47 藤原公任の『新撰髓脳』 「」

- 48 公任の歌論の注目すべき諸点 49「詩心」独立の志向するもの
 50「心」から「花」へ 51 世阿彌の「花」 52「花」の超象徴性
 53 一種のニヒリズム 54 世阿彌の「物まね」とヨーロッパ的ミメシス
 55「補償」ということ 56 世阿彌の目的論と廷臣性
 57 ホラティウスの『詩論』 58 ボワローの詩論
 59 近松の「虚実皮膜」の論 60 西鶴における「放埒」
 61「転合」の Overinterpretation と年立錯記解釈の背後にある問題
 62 正岡子規の芭蕉誤解 63「踏跡」の形而上学的・心理学的メカニズム
 64「顕在の文学」と「潜在の文学」 65 ホモ・ルーデンスとしての芭蕉の生涯
 66 世界観的必然としての「風狂」 67 芭蕉と西鶴 68「運命の寵児」と「乞食」
 69 ゲーテの芸術観の問題性 70「芸術のための芸術」
 71 近代芸術とフランス革命 72 市民社会への抵抗としての「芸術のための芸術」
 73「芸術至上主義」の提起する問題 74「芸術至上主義」の実作上の嫡流・フロベール
 75「フロベール伝説」 76 芸術家の最期と進歩主義
 77 ジンメルによる芸術至上主義的芸術観の理論的整理
 78 ジンメルの所論の難点 79 ポール・ヴァレリの一論文について
 80 芸術至上主義的芸術観の形而上学と社会心理学
 81 願望像としての芸術観 82「芸術コンプレクス」試論

文学非芸術論

- I 1「あとがき」ふうの「まえがき」 2 二つの前提 3 伏線の一章
 II 1 文学理論上の二人のリゴリスト 2 無邪気な作品批評と不毛な折衷主義
 3 一美術史家の試み 4「美」と「思想」の弁証法的関係
 5 逆の疑似二元論 6 マルクス主義の両刀遣い
 7 同じ一つの作品をめぐって(1) 8 同じ一つの作品をめぐって(2)
 9 作家の自作に対する解釈の変遷
 III 1 若干の奇妙な事柄 2 文学作品に「終り」はないということ
 3 完了形的存在としての芸術 4 文学における「意味」とその在り方
 5 芸術の明証性 6 文学と生 7 芸術と死 8 再び二つの前提その他について
 9 伝統的な形式主義的ジャンル論の検討 10 エピローグ

昭和 52(1977)年 2 月 20 日初版発行(人文書院)

633)「森鷗外」(高橋義孝著)

- I・森鷗外・鷗外森林太郎小伝
 II・鷗外の文体--Neo-Philology の問題--
 ・森鷗外の文章・鷗外研究について--その主想・方法の若干--
 ・「最もすぐれた敵」鷗外・鷗外の封建制
 III・怨念の文学・鷗外文学の魅力の秘密--文学の学問--
 ・鷗外の中にある私の一問題
 IV・森鷗外『雁』・『雁』に関する méditation
 ・人生観の構造と意味・森鷗外の何を読むか
 V・歴史小説論・鷗外の歴史小説・『阿部一族』について
 ・毛糸の手袋・ある古い女の話
 VI・『キタ・セクスアリス』について・『舞姫』『うたかたの記』等解説
 ・『即興詩人』について・『ギョオテ傳』・『森鷗外翻譯珠玉選』後記
 VII・鷗外のこと・鷗外三十三回忌・鷗外の文学碑・森鷗外の墓・鷗外読書史
 森鷗外・夏目漱石作品年表 後記

昭和 60(1985)年 11 月 5 日発行(新潮社)

634)「ファウスト集注」(高橋義孝著)

ゲーテ『ファウスト』第一部・第二部注解(執筆協力 佐藤正樹)
 Erläuterungen und Anmerkungen zu Goethes "Faust", 1. und 2. Teil
 von Prof. Dr. Giko Takahashi unter Mitarbeit von Masaki Sato
 昭和 54(1979)年 5 月発行(郁文堂)

635) 「ビーダーマイヤー時代」(マックス・フォン・ベーン著)

ドイツ 19 世紀前半の文化と社会

Max von Boehn: Biedermeier. Deutschland von 1815-1847

(飯塚信雄・永井義哉・村山雅人・高橋吉文・富田裕共訳)

第 1 章 政治的状况(Politische Zustände)

第 2 章 交通の社会的状况(Soziale Verhältnisse der Verkehr)

第 3 章 教会と学校(Kirche und Schule)

第 4 章 市民と貴族・軍隊・ユダヤ人(Bürgertum und Adel. Militär. Judentum)

第 5 章 文学と学問・検閲と新聞(Literatur und Wissenschaft. Zensur und Presse)

第 6 章 造形美術・演劇(Die bildenden Künste. Das Theater)

第 7 章 国民生活と家庭生活(Das Leben in Staat und Haus)

第 8 章 流行(Die Mode)

マックス・フォン・ベーン論(高橋吉文)

平成 5(1993)年 9 月 20 日第 1 刷発行(三修社)

636) 「ドイツ総決算」1945 年以降のドイツ現代史(アルフレート・グロセール著)

Alfred Grosser: Deutschlandbilanz. Geschichte Deutschlands seit 1945

(山本尤・三島憲一・相良憲一・鈴木直訳)

序章 1945 年・生きている過去

第 1 部 戦勝者たちのドイツ

第 1 章 権力の移譲 第 2 章 ニュルンベルク裁判と非ナチ化

第 3 章 占領者と被占領者 第 4 章 冷戦、分割、制限された主権

第 2 部 ボンのデモクラシー

第 5 章 国家の基礎 第 6 章 体制の現実 第 7 章 選挙と政党

第 8 章 経済諸勢力と社会諸勢力 第 9 章 精神的諸勢力と反対勢力

第 3 部 もう一つのドイツと「ドイツ問題」

第 10 章「ドイツ民族の社会主義国家」 第 11 章 外交と国際政治

結語 補章 1979 年総括

昭和 56(1981)年 9 月 30 日初版第 1 刷発行(社会思想社)

637) 「文学論集」世界文学大系 96

フェヌロン、ディドロ、スタール夫人、ユゴー、スタンダール、ゴーティエ、
フロベール、リヴィエール、ジイド、ブルトン、ロマン、サロート、ロブ＝グリエ、
ドライデン、ワーズワス、コウルリッジ、シェリイ、アーノルド、ペイタア、
V・ウルフ、リチャーズ、ゲーテ、シラー、F・シュレーゲル、フロイト、
カイザー、シュタイガー、T・マン、エンツェンスベルガー、ホイットマン、
ブルックス、E・ウィルソン、テイト、マシセン、ベリンスキイ、
チェルヌィシェフスキイ、ツルゲーネフ、ピーサレフ、ドストエフスキイ、
メレシュコフスキイ、ゴーリキイ、クローチュエ、オルテガ、ルカーチ

(福井芳男・小場瀬卓三・加藤晴久・松下和則・小林正・田辺貞之助・山田喬
・渡辺一民・中山真彦・稲田三吉・川崎竹一・白井浩司・高島正明・小津次郎
・前川俊一・高橋康也・上田和夫・青木雄造・吉田健一・大沢実・岩崎宗治
・氷上英広・野島正城・戸張正美・国松孝二・山本明・響田収・佐藤晃一
・生野幸吉・酒本雅之・斎藤光・谷口睦男・安藤一郎・大橋健三郎・藤井一行
・北垣信行・佐々木彰・飯田規和・米川哲夫・佐藤純一・野上素一・岡照雄
・森川俊夫・藤本淳雄訳) 昭和 40(1965)年 11 月 5 日発行(筑摩書房)

638) 「ギリシャ ローマ 古典劇集」世界文学大系 2

アイスキュロス・アガメムノン(呉茂一訳)・供養する女たち(呉茂一訳)

・慈しみの女神たち(呉茂一訳)

ソポクレス・アンティゴネ(呉茂一訳)・オイディプス王(高津春繁訳)

・コロノスのオイディプス(高津春繁訳)・ピロクテテス(久保正彰訳)
エウリピデス・メデイア(中村善也訳)・トロイアの女(松平千秋訳)
・バックスの信女(松平千秋訳)
アリストパネス・女の平和(高津春繁訳)・蛙(高津春繁訳)
プラウトゥス・捕虜(樋口勝彦訳)
テレンティウス・アンドロスから来たむすめ(泉井久之助訳)
古典劇の伝統(ギルバート・マリー)(松平千秋訳) 解説(高津春繁)
昭和 34(1959)年 6 月 30 日第 1 刷発行
昭和 41(1966)年 10 月 30 日第 21 刷発行(筑摩書房)

639)「ホメーロス」筑摩世界文学大系 2

- ・イーリアス(呉茂一訳)
 - ・オデュッセイア(高津春繁訳)
 - ・『イーリアス』のなかのヘクトールとアンドロマケーとの別れ
(エミール・ファゲ)(井上究一郎訳)
 - ・『オデュッセイア』の余白に(ルメートル)(井上究一郎訳)
 - ・トロイアとモスクワ(ベスパロフ)(中川敏訳) 解説(高津春繁)
- 昭和 46(1971)年 5 月 6 日初版第 1 刷発行
昭和 53(1978)年 8 月 5 日初版第 5 刷発行(筑摩書房)

640)「中世文学集」世界文学大系 66

- ・エッダ(松谷健二訳)・グレティルのサガ(松谷健二訳)
 - ・カール大帝伝(アインハルト)(国原吉之助訳)
 - ・哀れなハインリヒ(ハルトマン)(相良守峯訳)
 - ・ドイツ中世謝肉祭劇十番(永野藤夫訳)・ドーナウエシシゲン受難劇(永野藤夫訳)
 - ・オイレンシュピーゲル物語(手塚富雄訳)
 - ・アーサーの死(マロリー)(厨川文夫・厨川圭子訳)・イーゴリ軍記(神西清訳)
 - ・ムーロムのフェヴローニヤの物語(金子幸彦訳)
- 解説(松谷健二・国原吉之助・相良守峯・厨川文夫・中村喜和)
昭和 41(1966)年 9 月 10 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

641)「ゲルマニスティクの諸相」高橋義孝先生還暦記念論集刊行会編
Sprache und Literatur unter verschiedenen Aspekten.
Festschrift für Yoshitaka Takahashi zum 60. Geburtstag.
昭和 50(1975)年 11 月 12 日発行(凸版印刷株式会社)〈非売品〉

642)「随筆 大名の酒盛り」(高橋義孝著)
昭和 30(1955)年 9 月 20 日第 1 刷発行(新潮社)

643)「随筆 合切袋」(高橋義孝著)
昭和 30(1955)年 6 月 25 日第 1 刷発行
昭和 34(1959)年 11 月 20 日第 7 刷発行(講談社)

644)「森鷗外」(高橋義孝著)一時間文庫(one hour library)
昭和 29(1954)年 9 月 15 日発行(新潮社)

645)「思想の抜け穴」(高橋義孝著)読売新書
昭和 30(1955)年 4 月 5 日発行(読売新聞社)

646)「現代文学の相貌」(高橋義孝著)
・文芸批評への疑惑・日本人の文学観ノイローゼ・中間小説からの脱却を
・文学に関する因襲的な考え方・芸術と政治の妙な一関係
・『鍵』の批評を批評する・文学と背徳と・怨念の文学・幸田文論

- ・泉鏡花の作品三つ・内田百閒論・現代作家論・左翼文学はなぜ不毛か
 - ・マルクス主義文学理論批判・附題の心理学
 - ・現実的真実と芸術的真実と・文学と精神分析 あとがき
- 昭和 31(1956)年 11 月 30 日発行(英宝社)

647) 「大人のしつけ 紳士のやせがまん」(高橋義孝著)

昭和 56(1981)年 4 月 15 日発行

昭和 56(1981)年 5 月 25 日 3 刷(新潮社)

648) 「キタ・セクスアリス」(高橋義孝著)

昭和 34(1959)年 12 月 15 日初版発行(中央公論社)

649) 「叱言 たわごと 独り言」(高橋義孝著)

昭和 51(1976)年 7 月 20 日発行

昭和 54(1979)年 5 月 25 日 12 刷(新潮社)

650) 「フロイト--その人間像」(L. マルクーゼ著)Ludwig Marcuse: Sigmund Freud.

Sein Bild vom Menschen.(高橋義孝・高田淑共訳)

序 メスマーからフロイトへ

第 1 部 分析的フロイト論 ・秘密主義・懐疑・信頼

第 2 部 万人の伝記 ・魂の新しい学問・劇的人生・第四の次元-文化

第 3 部 幻滅の未来 ・人間とその神・芸術との和合

・小余談-フロイトとドイツの詩人たち

第 4 部 人類の伝記作家 ・フロイト、アインシュタインおよびマルクス

第 5 部 不安に関する二つの診断 ・フロイトとキールケゴール

補遺 知られざるフロイトの手紙 訳者あとがき

昭和 47(1972)年 2 月 1 日初版発行(日本教文社)

651) 「粹と野暮のあいだ」(高橋義孝著)

昭和 55(1980)年 1 月 25 日第 1 刷発行

昭和 55(1979)年 3 月 31 日第 4 刷発行(PHP 研究所)

652) 「帰りなんいざ」(高橋義孝著)

昭和 45(1970)年 8 月 28 日第 1 刷(講談社)

653) 「円陣を組む女たち」(古井由吉著)

・木曜日に『白描』1968 年 1 月(8 号)

・先導獣の話『白描』1968 年 11 月(9 号)

・円陣を組む女たち『海』1969 年 8 月号

・不眠の祭り『海』1970 年 2 月号

・堇色の空に『早稲田文学』1969 年 7 月号

昭和 45(1970)年 6 月 20 日初版発行

昭和 50(1975)年 6 月 30 日 6 版発行(中央公論社)

654) 「古井由吉集」新鋭作家叢書

・木曜日に・先導獣の話・円陣を組む女たち・不眠の祭り・杳子・葉隠
言葉の魔術 主題を求める変奏(川村二郎)

昭和 46(1971)年 11 月 30 日初版発行

昭和 46(1971)年 12 月 25 日再版発行(河出書房新社)

655) 「行隠れ」(古井由吉著)

・行隠れ「文芸」昭和 46(1971)年 2 月号

・嫁入り「文芸」昭和 46(1971)年 3 月号

- ・旅立ち「文芸」昭和 46(1971)年 7 月号
- ・落合い「文芸」昭和 46(1971)年 9 月号
- ・夢語り「文芸」昭和 46(1971)年 11 月号
- 昭和 47(1972)年 3 月 31 日初版発行
- 昭和 47(1972)年 4 月 25 日再版発行(河出書房新社)

656)「水」(古井由吉著)

- ・影「文学界」昭和 46(1971)年 3 月号
- ・水「季刊藝術」昭和 47(1972)年春季号
- ・狐「文学界」昭和 47(1972)年 9 月号
- ・衣「文芸」昭和 47(1972)年 11 月号
- ・弟「文芸」昭和 48(1971)年新年号
- ・谷「新潮」昭和 48(1971)年新年号
- 昭和 48(1973)年 4 月 25 日初版発行
- 昭和 48(1973)年 5 月 30 日再版発行(河出書房新社)

657)「櫛の火」(古井由吉著)

- 昭和 49(1974)年 12 月 10 日初版発行
- 昭和 50(1973)年 3 月 31 日 4 版発行(河出書房新社)

658)「聖くひじり」(古井由吉著)

- 「波」昭和 50(1975)年 1 月号～同年 12 月号
- 昭和 51(1976)年 5 月 15 日発行
- 昭和 51(1976)年 8 月 10 日 3 刷(新潮社)

659)「女たちの家」(古井由吉著)

- 昭和 52(1977)年 2 月 10 日初版発行(中央公論社)

660)「夜の香り」(古井由吉著)

- ・街道の際「新潮」昭和 47(1972)年 2 月号
- ・畑の声「新潮」昭和 48(1973)年 5 月号
- ・駆ける女「新潮」昭和 50(1975)新年号
- ・夜の香り「新潮」昭和 51(1976)年 3 月号
- 昭和 53(1978)年 10 月 15 日発行
- 昭和 54(1979)年 2 月 20 日 4 刷(新潮社)

661)「栖くすみか」(古井由吉著)

- ・栖・肌・湯・背・首・子
- 昭和 54(1979)年 11 月 15 日初版第 1 刷発行
- 昭和 55(1980)年 1 月 25 日初版第 3 刷発行(平凡社)

662)「日常の"変身"」(古井由吉著) 全エッセイ I

- I・《神童》をめぐるやるせなさ・ムージルと虚なるもの・認識の翻訳者
- ・日常の"変身"・ニーチェへ・ムージル・ブロッホと「誘惑者」
- ・ノヴァーリスと私・シュティフターと私
- ・シュトルム、マイアー＝フェルスターと私
- II・ムージルの「トンカ」について--出来事と非現実化
- ・ロベルト・ムージルについてのひとつの試み--「結びつき」における新しい体験
- ・「死刑判決」に至るまでのカフカ--ある詩人の「絶望」に至る過程
- ・ヘルマン・ブロッホ「ウェルギリウスの死」--象徴と夢について
- ・ノヴァーリスのガイストについて
- ・ニーチェの「楽しい知識」について
- 門前の小僧.... 昭和 55(1980)年 6 月 30 日第 1 刷発行(作品社)

- 663) 「棕鳥くむくどり」(古井由吉著)
・ 棕鳥「海」昭和 53(1978)年 4 月
・ 親坂「世界」昭和 53(1978)年 7 月
・ 子安「小説現代」昭和 53(1978)年 11 月
・ 咳花「文学界」昭和 54(1979)年 1 月
・ 牛男「新潮」昭和 54(1979)年 7 月
・ 瘦女「海」昭和 54(1979)年 10 月
・ あなたのし「文学界」昭和 55(1980)年 1 月
・ あなおもしろ「海」昭和 55(1980)年 4 月
昭和 55(1980)年 8 月 20 日初版発行(中央公論社)
- 664) 「親」(古井由吉著)・道・葛・宿・雨・声・親
昭和 55(1980)年 12 月 10 日初版第 1 刷発行(平凡社)
- 665) 「山躁賦」(古井由吉著)
・ 無言のうちは・里見え初めて・陽に朽ちゆく・杉を訪ねて
・ 千人のあいだ・海を渡り・静ころなく・花見る人に
・ 肘笠の 肘笠の・鯖穢れる道に まなく ときなく・帰る小坂の
昭和 57(1982)年 4 月 10 日第 1 刷発行(集英社)
- 666) 「槿くあさがお」(古井由吉著)
昭和 58(1983)年 6 月 25 日第 1 刷発行
昭和 58(1983)年 7 月 25 日第 2 刷発行(福武書店)
- 667) 「東京物語考」(古井由吉著)
・ 安易の風・窪溜の栖・楽しき独学・居馴れたところ・生きられない
・ 何という不思議な・心やさしい男たち・無縁の夢・濡れた火宅
・ 幼少の砌の・とりいそぎ略歴・命なりけり・肉体の専制・境を超えて
昭和 59(1984)年 3 月 28 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 668) 「招魂のささやき」(古井由吉著)
昭和 59(1984)年 11 月 15 日第 1 刷発行(福武書店)
- 669) 「明けの赤馬」(古井由吉著)
・ 明けの赤馬「新潮」昭和 55(1980)年 10 月
・ 家のおい「文学界」昭和 56(1981)年 1 月
・ 静かさや「文藝春秋」昭和 56(1981)年 2 月
・ 冬至過ぎ「すばる」昭和 56(1981)年 6 月
・ 蛍の里「群像」昭和 56(1981)年 10 月
・ 芋の月「すばる」昭和 56(1981)年 11 月
・ 知らぬおきなに「新潮」昭和 56(1981)年 12 月
・ 囀りながら「海」昭和 57(1982)年 1 月
・ 午の日「新潮」昭和 59(1984)年 7 月
昭和 60(1985)年 3 月 15 日第 1 刷発行(福武書店)
- 670) 「裸々虫記」(古井由吉著)
「小説現代」昭和 59(1984)年 1 月号～昭和 60(1985)年 12 月号連載
昭和 61(1986)年 1 月 30 日第 1 刷発行(講談社)
- 671) 「詳解ドイツ大文法」(橋本文夫著)
Ausführliche Orientierung in der deutschen Grammatik
昭和 53(1978)年 4 月 1 日第 29 版発行(三修社)

- 672) 「ドイツ語と人生」 橋本文夫記念論文集(橋本文夫著)
昭和 55(1980)年 5 月 30 日第 1 版発行(三修社)
- 673) 「ドイツ文章論」 歴史的・心理的把握 (相良守峯著)
昭和 16(1941)年 3 月 13 日第 1 刷発行
昭和 41(1966)年 9 月 10 日第 7 刷発行(岩波書店)
- 674) 「真鍋ドイツ語の世界」 --ドイツ語の語法--(真鍋良一著)
Buntes Allerlei-Deutsch
昭和 54(1979)年 5 月 31 日第 4 版発行(三修社)
- 675) 「ドイツ語教育の基本的諸問題」 (日本独文学会ドイツ語学委員会編)
Grundprobleme des Deutschunterrichts in Japan.
Herausgegeben von dem Ausschuß für Deutschunterricht
und Sprachwissenschaft der Gesellschaft für Germanistik Japans
昭和 46(1971)年 9 月 1 日初版発行(南江堂)
- 676) 「未来喪失者の行動」 (真継伸彦著)
昭和 42(1967)年 12 月 5 日初版発行(河出書房)
- 677) 「破局の予兆の前で」 (真継伸彦著) 最新エッセイ集
 - ・ 大学革命論序説・全共闘運動私論・全共闘運動の未来
 - ・ バリ封鎖の自己崩壊を惜しむ--桃山学院大学の全共闘運動
 - ・ 学生運動の一視点・指導理論不在の運動--新しい行動が新しい認識に実るには
 - ・ 政治の裏側・文学の中で自己否定の内面化を進めよ
 - ・ 平和を守れ・現代日本の精神状況--キューバの歌声を聞きながら
 - ・ チェコの非暴力的抵抗・右翼の新オピニオンリーダー三島由紀夫批判
 - ・ すさまじい権力者の思想--三島由紀夫著『文化防衛論』評
 - ・ 三島ロマンチズムの自己崩壊
 - ・ 無神論と小説--喪失の時代の中で・信仰に何を求めるのか
 - ・ 「病める時代」・公明党の頹廃・中村文学の新しさ・高橋和巳君のこと
 - ・ 現代的主題に真向から取組む--高橋和巳著『我が心は石にあらず』
 - ・ 小田実の啓示・井上光晴の成熟--『他国の死』と『階級』を比較して
 - ・ 放胆な自由人の言動--出口京太郎著『出口王仁三郎』
 - ・ 泣きやすい人の告白--村上一郎著『浪漫者の魂魄』評
 - ・ 「思想」と「時代」との対決--劇団雲公演「榎本武揚」をみる
 - ・ おそろしい思い出・吉田茂「国葬」の日に・哲学と小説・リルケとゲーテ
書き下ろし巻末エッセイ 無明の世界Ⅱ--あとがきに代えて
昭和 46(1971)年 4 月 25 日初版発行(河出書房新社)
- 678) 「真継伸彦集」 新鋭作家叢書
 - ・ 鮫・石こそ語れ・死者への手紙
言葉の始源について 無明の探求(松原新一)
昭和 46(1971)年 12 月 25 日初版発行
昭和 47(1972)年 1 月 14 日再版発行(河出書房新社)
- 679) 「青春の遺書」 (真継伸彦著)
はじめに ・戦時下の青春と現代の青春<林尹夫>
 - ・ 現代の学生運動<高野悦子>・個人の自由<浮谷東次郎>
 - ・ 差別のなかの青春<福本まり子>・愛<有田俱子>
昭和 48(1973)年 8 月 20 日第 1 刷発行
昭和 50(1975)年 2 月 10 日第 8 刷発行(筑摩書房)

680)「闇に向う精神」(真継伸彦著)

I・漱石と鷗外--転形期のモラリスト・文学者

- ・椎名麟三 懺悔としての文学『菱の花』の冠
- ・武田泰淳 自己発見としての小説 行為への偉大なる序曲 快楽と毛楽の間で
- ・堀田善衛--日本の心性との対峙・鶴見俊輔--非暴力運動の原点
- ・高橋和巳『邪宗門』の問いかけ 高橋和巳と現代文学
- ・柴田翔--理性の抒情

II・精神の自立ということ

- ・芸術家の自己救済を志す--中村真一郎『四季』
- ・美しい言葉の結晶--井上光晴『心優しき叛逆者たち』
- ・賈のアイデンティティ--大江健三郎『みづから我が涙をぬぐいたまう日』
- ・終末観と自己回復--大江健三郎『洪水はわが魂に及び』
- ・終末論の確信--大江健三郎『同時代としての戦後』
- ・差別と文学--川元祥一『闇にひろがる翼』
- ・おのれの首を刎ねる気配--佐々木基一『おまえを殺すのはおまえだ』

III・小説の時間

- ・『わが薄明の時』・『鮫』と『無明』のふるさと・『光る聲』の背景
 - ・二人の死者・『林檎の下顔』
- 小説家が生まれない京都--あとがきに代えて

昭和 52(1977)年 6 月 16 日第 1 刷発行(構想社)

681)「私の蓮如」(真継伸彦著)

昭和 56(1981)年 4 月 25 日初版第 1 刷発行(筑摩書房)

682)「樹下の仏陀」(真継伸彦著)

昭和 57(1982)年 4 月 30 日初版第 1 刷発行

昭和 57(1982)年 8 月 10 日初版第 2 刷発行(筑摩書房)

683)「大江健三郎集」現代の文学 43

- ・われらの時代・芽むしり仔撃ち・奇妙な仕事・死者の奢り・他人の足・飼育
- ・人間の羊・見るまえに跳べ・戦いの今日・ここより他の場所・共同生活
- ・後退青年研究所 解説(奥野健男)

昭和 56(1981)年 4 月 25 日初版第 1 刷発行(河出書房新社)

684)「万延元年のフットボール」(大江健三郎著)

昭和 42(1967)年 9 月 12 日第 1 刷発行(講談社)

685)「宙返り 上」(大江健三郎著)

序章 犬のような顔の美しい眼

第 1 章 百年 第 2 章 再会 第 3 章 宙返り 第 4 章 R・S・トーマス購読

第 5 章 モースブルッガー委員会 第 6 章 案内人<ガイド> 第 7 章 聖痕

第 8 章 新しい案内人<ガイド>が選ばれる

第 9 章 そのなかにすべてが書かれていながら、

生きることはそれを書き続けることである本

第 10 章 通夜躁病は果てしなく続く(1) 第 11 章 通夜躁病は果てしなく続く(2)

第 12 章 新しい信者のイニシエーション 第 13 章 追悼集会のハレルヤ

第 14 章 なぜ、いま師匠<パトロン>は帰って来たか?

第 15 章 積年の疲労 第 16 章 臨床家

平成 11(1999)年 6 月 15 日第 1 刷発行(講談社)

686)「宙返り 下」(大江健三郎著)

第 17 章 場所には力がある 第 18 章 受容と拒否(1) 第 19 章 受容と拒否(2)

第20章「静かな女たち」 第21章 童子の蛭 第22章 よな
第23章「技師団」 第24章 聖痕はいかに受けとめられたか
第25章 テン雀を舞台とする芝居 第26章 未編集ビデオのような人間
第27章「新しい人」の教会 第28章 奇蹟 第29章 教育
第30章 案内人<ガイド>の思い出 第31章 夏の集会
第32章 師匠<パトロン>のために 終章 永遠の一年

平成11(1999)年6月15日第1刷発行

平成11(1999)年7月1日第2刷発行(講談社)

687)「みずから我が涙をぬぐいたまう日」(大江健三郎著)

二つの中篇をむすぶ作家のノート

・みずから我が涙をぬぐいたまう日・月の男<ムーン・マン>

昭和47(1972)年10月12日第1刷発行

昭和47(1972)年11月4日第2刷発行(講談社)

688)「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」(大江健三郎著)

第1部 なぜ詩でなく小説を書くか、というプロローグと四つの詩のごときもの

第2部 ぼく自身の詩のごときものを核<コア>とする三つの短篇

・走れ、走りつづけよ・核時代の森の隠遁者・生け贅男は必要か

第3部 オーデンとブレイクの詩を核<コア>とする二つの中篇

・狩猟で暮したわれらの先祖

・父よ、あなたはどこへ行くのか? a 裏 b 表

昭和44(1969)年4月20日発行/昭和48(1973)年7月20日15刷(新潮社)

689)「厳粛な綱渡り」(大江健三郎著) 全エッセイ集

昭和40(1965)年3月1日第1刷

昭和43(1968)年2月1日第11刷(文藝春秋)

690)「私小説」from left to right(水村美苗著) ちくま文庫

昭和21(2009)年3月10日第1刷発行(筑摩書房)

691)「本格小説 上」(水村美苗著) 新潮文庫

序 本格小説の始まる前の長い長い話

1 迎え火 2 クラリネット・クインテット 3 小田急線 4 DDT

平成17(2005)年12月1日発行(新潮社)

692)「本格小説 下」(水村美苗著) 新潮文庫

5 電球 6 蒲田の孫請け工場 7 桜の園 8 キャリア・ウオマン

9 雪の上の日本の轍 10 ハッピーヴァレイ あとがき

平成17(2005)年12月1日発行(新潮社)

693)「母の遺産」新聞小説(水村美苗著)

平成24(2012)年3月25日初版発行

平成24(2012)年6月10日6版発行(中央公論新社)

694)「時の雨」(高橋順子著)

平成8(1996)年11月30日第1刷発行(青土社)

695)「高橋順子 詩集成」(高橋順子著)

平成8(1996)年12月20日初版1刷(書肆山田)

696) 総検証「天皇と日本人」(ASAHI Journal 朝日ジャーナル)

平成1(1989)年1月25日緊急増刊号(朝日新聞社)

- 697) 「ことばの哲学」 関口存男のこと (池内紀著)
 1 大尉の息子 2 陸軍幼年学校生 3 軍人失格 4 言語演技 5 文例集の周辺
 6 幕合喜劇 7 教程の行方 8 文化村の日々 9 妻籠にて 10 文法の本
 11 狼暮らし 12 死の前後 あとがき
 平成 22 (2010) 年 10 月 10 日第 1 刷発行
 平成 23 (2011) 年 2 月 2 日第 3 刷発行 (青土社)
- 698) 「哲学の饗宴」 大森荘蔵座談集
 平成 6 (1994) 年 10 月 31 日第 1 版第 1 刷発行 (理想社)
- 699) "Perspektiven des Todes" Interdisziplinäres Symposium I
 Herausgegeben von Reiner Marx und Gerhard Stebner
 Heidelberg 1990 Carl Winter • Universitätsverlag
- 700) "Allgemeine Literaturwissenschaft" (Max Wehrli)
 Zweite, durchgesehene Auflage 1969
 Francke Verlag Bern und München
- 701) 「ザ・賢治」 (宮澤賢治/ 全一冊)
 昭和 60 (1985) 年 3 月 1 日初版発行
 昭和 60 (1985) 年 4 月 1 日 2 版発行 (第三書館)
- 702) 「ザ・啄木」 (石川啄木 詩・歌 小説/全一冊)
 昭和 60 (1985) 年 5 月 1 日初版発行 (第三書館)
- 703) 「ザ・多喜二」 (小林多喜二/全一冊)
 昭和 60 (1985) 年 7 月 1 日初版発行 (第三書館)
- 704) 「ザ・龍之介」 (芥川龍之介/全一冊)
 昭和 60 (1985) 年 1 月 1 日初版発行/昭和 60 (1985) 年 9 月 1 日 5 版発行 (第三書館)
- 705) 「和文独訳の実際」 (関口存男著)
 Praxis der Übersetzung aus dem Japanischen ins Deutsche.
 昭和 52 (1977) 年 12 月 25 日第 1 版発行 (三修社)
- 706) 意味形態を中心とする「ドイツ語前置詞の研究」 (関口存男著)
 Deutsche Präpositionen
 昭和 52 (1977) 年 12 月 25 日第 1 版発行 (三修社)
- 707) 「関口ドイツ語学の研究」 (牧野紀之著) 鶏鳴双書 16
 昭和 54 (1979) 年 3 月 5 日第 1 版第 2 刷 (鶏鳴出版)
- 708) 「高等ドイツ文法」 (片山尚著)
 Grundzüge der deutschen Satzlehre
 昭和 23 (1948) 年 9 月 15 日第 1 版発行
 昭和 32 (1957) 年 8 月 30 日第 3 版発行 (大学書林)
- 709) 「ドイツ語不変化詞の用例」 (岩崎英二郎著)
 Zum Gebrauch der Partikeln im Deutschen
 昭和 43 (1968) 年 10 月 15 日第 1 版発行
 昭和 52 (1977) 年 9 月 15 日第 3 版発行 (大学書林)

- 710) 「英独比較 ドイツ文章論ノート」(片山操著)
Notizbuch der deutschen Syntax im Vergleich mit der englischen
昭和 36(1961)年 5 月 25 日第 1 版発行
昭和 38(1963)年 2 月 15 日第 4 版発行(三修社)
- 711) 「改訂英独比較 ドイツ文法ノート」(藤田五郎校閲・片山操著)
Notizbuch der deutschen Grammatik im Vergleich mit der englischen
昭和 50(1975)年 4 月 1 日第 15 版発行(三修社)
- 712) 「新編ドイツ文典」(塩谷饒著)
Deutsche Grammatik der Gegenwart
昭和 41(1966)年 9 月 15 日第 7 版発行(三修社)
- 713) 「ドイツ文法」(相良守峯著) 岩波全書 135
昭和 26(1951)年 4 月 25 日第 1 刷発行
昭和 41(1966)年 12 月 10 日第 16 刷発行(岩波書店)
- 714) 「ゲルマニストのための言語学入門」(倉石五郎著)
Zum Gebrauch der Partikeln im Deutschen
昭和 47(1972)年 7 月 30 日第 1 版発行(大学書林)
- 715) 「改訂新ドイツ語会話」 日常会話のじょうずな話し方(真鍋良一著)
昭和 51(1976)年 5 月 1 日第 24 版発行(三修社)
- 716) 「ドイツ・リート名詩百選」(佐々木庸一訳編)Hundert Deutsche Lieder
昭和 39(1964)年 9 月 10 日第 1 刷発行
昭和 44(1969)年 6 月 30 日第 5 刷発行(音楽の友社)
- 717) 「ドイツ語中級問題 100 選」(郁文堂編集部編)
昭和 42(1967)年 4 月発行/ 昭和 52(1977)年 10 月第 23 版(郁文堂)
- 718) 「ドイツ語重要動詞とその用例」(日本独文学会・ドイツ語教授法委員会編)
Wichtige Verben und Wendungen
昭和 40(1965)年 7 月 1 日発行(郁文堂)
- 719) 「改訂ドイツ語文通のしおり」(山本明著)
Deutscher Briefsteller für alle Privatsachen
昭和 53(1978)年 5 月 31 日第 9 版発行(三修社)
- 720) 「素顔のドイツ人」 体験的人間関係論(坂本明美著)columbooks
昭和 55(1980)年 10 月 15 日第 14 版発行(三修社)
- 721) 「ドイツ語『新正書法』ガイドブック」(在間進編)
(執筆者/ 畦上泰治・中村哲夫・能登恵一・橋本兼一・山田善久)
平成 9(1997)年 4 月 20 日第 1 版発行(三修社)
- 722) 「ドイツ語は英語とどう違うか」(福田幸夫著)
Deutsch im Vergleich mit dem Englischen
昭和 47(1972)年 9 月発行(郁文堂)
- 723) 「英独日単語熟語 3300」(マイクル・ウェスト/ ハンス・G・ホフマン著)
Englischer Mindestwortschatz(早川東三訳)
昭和 50(1975)年 9 月 20 日第 1 版発行(日本放送出版協会)

- 724) 「独逸文学史」(秋山六郎兵衛著) 現代叢書 42
昭和 18(1943)年 2 月 20 日初版発行(3000 部)(三笠書房)
- 725) 「ドイツ文学小史」(G・ルカーチ著) 岩波現代叢書
Georges Lukács: Brève Histoire de la littérature allemande.(道家忠道・小場瀬卓三訳)
昭和 26(1951)年 7 月 20 日第 1 刷発行
昭和 42(1967)年 3 月 20 日第 10 刷発行(岩波書店)
- 726) 「西ドイツ生活事典」(ヴァウアー葉子著) Hakuba Super Handbook
平成 1(1989)年 11 月 1 日第 1 刷発行(白馬出版)
- 727) 「ドイツ語音声学序説」(内藤好文著)
昭和 33(1958)年 1 月 15 日第 1 版発行(大学書林)
- 728) "Wesen und Werden der Deutschen Dichtung"
von den Anfängen bis zur Gegenwart. (von Georg Ried)
Verlag Martin Lurz München / 21. Auflage 1967
- 729) 「ドイツ語を考える」ことばについての小論集(三瓶裕文・成田節編)
平成 20(2008)年 3 月 10 日第 1 刷発行(三修社)
- 730) Robert Musil: "Sämtliche Erzählungen" Rowohlt Verlag Hamburg 1957
I Frühe Prosa
Die Verwirrungen des Zöglings Törless (1906)
Das verzauberte Haus[Ältere Fassung zur <Versuchung der stillen Veronika> (1908)]
Vereinigungen. Zwei Erzählungen (1911). Die Vollendung der Liebe.
Die Versuchung der stillen Veronika.
Drei Frauen. Novellen (1924). Grigia. Die Portugiesin. Tonka.
II Aus dem Nachlass zu Lebzeiten (1936)
Geschichten, die keine sind. Der Riese Agoag. Ein Mensch ohne Charakter.
Eine Geschichte aus drei Jahrhunderten. Kindergeschichte.
Die Amsel.
- 731) 「無言館」戦没画学生「祈りの絵」(窪島誠一郎著)
平成 9(1997)年 8 月 1 日第 1 刷
平成 12(2000)年 8 月 3 日第 11 刷(講談社)
- 732) 「無言館を訪ねて」戦没画学生「祈りの絵」第Ⅱ集(窪島誠一郎編)
平成 11(1999)年 7 月 15 日第 1 刷
平成 12(2000)年 9 月 12 日第 4 刷(講談社)
- 733) 「シューベルト」(ペーター・ヘルトリング著)
--12 の楽興の時とひとつの小説-- Peter Härtling: Schubert (富田佐保子訳)
平成 16(2004)年 10 月 20 日初版発行(同学社)
- 734) 「萩原朔太郎 I 浪漫的に」(伊藤信吉著)
・浪漫的交遊の輪 北原白秋との往来
・音楽の中の詩人 詩的生涯の一原質
・『月に吠える』の周辺 詩集刊行前後の状況
・詩的情操の系譜 蒲原有明の正派ということ あとがき
昭和 51(1976)年 7 月 10 日第 1 刷発行
昭和 52(1977)年 4 月 15 日第 3 刷発行(北洋社)

- 735) 「萩原朔太郎 II 虚無的に」(伊藤信吉著)
 ・「郷土望景詩」の地誌 疎外と望郷
 ・虚無の一地点で 辻潤との交遊において
 ・家庭崩壊の日に 生の場の一つの喪失
 ・傷める生命の芸術 田中恭吉、恩地孝四郎との交遊 あとがき
 昭和 51(1976)年 8 月 30 日第 1 刷発行
 昭和 52(1977)年 4 月 15 日第 3 刷発行(北洋社)
- 736) 「萩原朔太郎」(編者/川上徹太郎・那珂太郎)日本詩人全集 14
 昭和 41(1966)年 12 月 10 日発行(新潮社)
- 737) 「野田寿子詩集」日本現代詩文庫 70
 解説(森崎和江・崎村久邦) 監修(小海永二・伊藤桂一)
 平成 4(1992)年 11 月 10 日発行(土曜美術社出版販売)
- 738) 「金井直詩集」現代詩文庫 34
 作品論(笠原伸夫) 詩人論(山本太郎)
 昭和 45(1970)年 7 月 1 日発行(思潮社)
- 739) 「吉原幸子詩集」現代詩文庫 56
 作品論・詩人論(石原吉郎・江森国友・山本道子)
 昭和 48(1973)年 9 月 1 日第 1 刷
 昭和 49(1974)年 5 月 1 日第 3 刷(思潮社)
- 740) 「丸山豊詩集」日本現代詩文庫 22
 編集(黒田達也) 解説(川崎洋) 監修(小野十三郎・小海永二)
 昭和 60(1985)年 8 月 20 日初版発行
 平成 2(1990)年 5 月 20 日第 2 刷発行(土曜美術社)
- 741) 「北原白秋」新潮日本文学アルバム 25
 ・九州のトンカ・ジョン(明治 18 年・出生～明治 37 年)
 ・その栄光と挫折(明治 38 年～明治 45 年・大正元年)
 ・裸心法悦(大正 2 年～大正 4 年)
 ・童心の世界(大正 5 年～大正 14 年)
 ・新幽玄歌体の完成へ(大正 15 年・昭和元年～昭和 17 年・死)
 評伝(山本太郎)
 <エッセイ>一枚の写真--童謡・童心・童子(山本健吉)
 略年譜 主要参考文献 主要著作目録(北原隆太郎)
 昭和 61(1986)年 3 月 25 日発行
 平成 1(1989)年 7 月 25 日発行(新潮社)
- 742) 「柳田國男」新潮日本文学アルバム 5
 ・形成--二つの故郷(明治 8 年・出生～明治 22 年)
 ・文学--青春時代(明治 23 年～明治 33 年)
 ・農政学者--新しき学への地歩(明治 34 年～大正 8 年)
 ・民俗学を拓く(大正 9 年～昭和 8 年)
 ・戦時を超えて(昭和 9 年～昭和 22 年)
 ・『海上の道』へ(昭和 23 年～昭和 37 年・死) 評伝(宮田登)
 <エッセイ>一枚の写真--写真時代の柳田国男(中上健次)
 略年譜 主要参考文献 主要著作目録(後藤総一郎・柳田国男研究会)
 昭和 59(1984)年 10 月 20 日発行
 平成 5(1993)年 5 月 20 日 6 刷(新潮社)

743) 「鑑賞現代詩 III 昭和」(村野四郎著)

- ・昭和の現代詩
- ・三好達治・丸山薫・田中冬二・立原道造・中原中也・伊藤静雄
- ・金子光晴・草野心平・中野重治・坪井繁治・小野十三郎・西脇順三郎
- ・北川冬彦・安西冬衛・村野四郎
- ・愛誦詩選(吉田一穂・高橋新吉・北園克衛・竹中郁・菱山修三・井上靖
・津村信夫・笹沢美明・安藤一郎・神保光太郎・大木実
・阪本越郎・田村隆一・安西均・会田綱雄)
- ・訳詩(リルケ・ウィリアムズ・シュペルヴィエル・エバハート)
昭和 37(1962)年 5 月 25 日初版発行
昭和 39(1964)年 5 月 10 日 3 版発行(筑摩書房)

744) 「想像力と解釈学」(ディルタイ)増補版 (由良哲次訳及び補説)

昭和 37(1962)年 3 月 25 日第 1 版発行
昭和 50(1975)年 9 月 1 日第 2 版第 1 刷発行(理想社)

745) 「文学の基礎理論」ドイツ文学の座標から

Elementare Theorie der Literatur(片山良展・三木正之・八木浩編著)

はじめに

第 1 部 作品研究の基礎概念

- I 素材と内実(梶野啓) II 韻律とリズム(宇津井恵正)
- III 言語諸形式と文体(南次郎・八木浩) IV 構造とジャンル(八木浩)

第 2 部 文学研究の立場と方法

- I 精神史的方法(三木正之)
- II 比較文学的方法--クルツィウスを中心として--(小川正巳)
- III 解釈学的方法--シュタイガーらの「作品解釈」--(片山良展)
- IV 構造主義的方法(平井正) V 文学社会学的方法(山戸照靖)
- VI マルクス主義の立場(長橋芙美子)
- 付論 I 「エッセイ」という方法--エンツェンスベルガーを中心に--(下程息)
- 付論 II 文芸作品の評価について(片山良展)

第 3 部 作品研究例

- I ヘルダーリーン・頌歌三題(三木正之) II ハイネ『ドイツ冬物語』(宇佐美幸彦)
- III リルケ 即興詩(小松原千里) IV ゲーテ『親和力』(吉田正勝)
- V カフカ『変身』(久山秀貞) VI トーマス・マン『ファウスト博士』(下程息)
- VII シラー『ドン・カルロス』(中村元保)
- VIII ビューヒナー『ヴォイツェク』(吉安光徳)
- IX ブレヒト『ガリレイの生涯』(船越克己)
- 昭和 49(1974)年 5 月 5 日第 1 刷発行
昭和 49(1974)年 12 月 25 日第 2 刷発行(ミネルヴァ書房)

746) 「ことばの不思議」--近代言語学序説--(ヴァルター・ポルツィヒ著)

Walter Porzig: Das Wunder der Sprache--Probleme, Methoden und Ergebnisse
der modernen Sprachwissenschaft--(金子亨・諏訪功・野入逸彦共訳)
昭和 48(1973)年 10 月 12 日発行(白水社)

747) "Die Bibel" oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments.

Nach der deutschen Übersetzung Martin Luthers.
Württembergische Bibelanstalt Stuttgart. 1964

748) "Die Bibel" oder die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments
nach der deutschen Übersetzung Martin Luthers mit erklärenden Anmerkungen.
Württembergische Bibelanstalt Stuttgart. 1964

- 749) 「**舊新約聖書 引照附**」近代日本の代表的文語訳聖書(日本聖書協会)
印刷(平版印刷) 製本(星共社) 1975
- 750) 「**聖書**」(日本聖書協会) 印刷(三省堂) 1966
- 751) "Kinder- und Hausmärchen." Gesammelt durch die Brüder Grimm.
Mit Illustrationen von Ludwig Richter und Moritz von Schwind.
Erster Band. Manesse Verlag 1946
- 752) "Kinder- und Hausmärchen." Gesammelt durch die Brüder Grimm.
Mit Illustrationen von Ludwig Richter und Moritz von Schwind.
Zweiter Band. Manesse Verlag 1946
- 753) 「**法然と浄土信仰**」
昭和 59(1984)年 3 月 1 日第 1 刷(読売新聞社)
- 754) 「**親鸞と真宗**」
昭和 60(1985)年 2 月 10 日第 1 刷(読売新聞社)
- 755) 「**表現主義の理論と運動 ドイツ表現主義 5**」
昭和 47(1972)年 3 月 29 日初版発行(河出書房新社)
編集責任(高木久雄・林功三・早崎守俊)
1 芸術革命と言語芸術《デア・シュトゥルム》を中心とした文学運動
Ⅰ 芸術革命と芸術論 Ⅱ 言語芸術
2 政治と文学・芸術《ディ・アクツィオン》を中心とした文学運動
Ⅰ 第一次大戦勃発まで Ⅱ 大戦中と革命のはじまり
3 表現主義をめぐって 4 表現主義時代の評論から
5 ダダ・チューリヒ・ベルリン・ケルン・ハノーヴァー
- 756) 「**ドイツ文化 第 16 号**」
ドイツ文化十周年記念特別号(中央大学ドイツ学会)
昭和 48(1973)年 3 月 20 日発行(中央大学出版部)
- 757) 「**生成変形文法入門**」(金子亨編)
Japanische Ausgabe nach der für die deutsche Sprache erarbeiteten Konzeption
von Johannes Bechert/ Danièle Clément/ Wolf Thümmel/ Karl Heinz Wagner:
Einführung in die generative Transformationsgrammatik.
Max Hueber Verlag, München 1970
昭和 47(1972)年 6 月 12 日第 1 刷発行
昭和 50(1975)年 4 月 30 日第 2 刷発行(白水社)
- 758) 「**乏しき時代の詩人**」(マルティン・ハイデッガー著)
Martin Heidegger: Wozu Dichter?(手塚富雄・高橋英夫共訳)
昭和 33(1958)年 5 月 25 日初版印刷
昭和 47(1972)年 7 月 31 日 9 版発行(理想社)
- 759) 「**ことばについての対話**」(マルティン・ハイデッガー著)
Aus einem Gespräch von der Sprache. Zwischen einem Japaner und einem Fragenden
aus Martin Heideggers "Unterwegs zur Sprache"(手塚富雄訳)
昭和 43(1968)年 5 月 15 日第 1 版第 1 刷発行
昭和 50(1975)年 9 月 30 日第 1 版第 3 刷発行(理想社)

- 760) 「ヘルダーリンの詩の解明」 (マルティン・ハイデッガー著)
 Martin Heidegger: Erläuterungen zu Hölderlins Dichtung
 (手塚富雄・斎藤信治・土田貞夫・竹内豊治共訳)
 昭和 37(1962)年 6 月 30 日改訂初版発行
 昭和 46(1971)年 8 月 1 日改訂 8 版発行(理想社)
- 761) "Aus den Papieren eines Wärters." Frühe Prosa. (Friedrich Dürrenmatt)
 *Weihnacht *Der Folterknecht *Die Wurst *Der Sohn *Der Alte
 *Das Bild des Sisyphos *Der Theaterdirektor *Die Falle *Pilatus *Die Stadt
 *Aus den Papieren eines Wärters
 Diogenes Taschenbuch 20848, 1986
- 762) "Der Richter und sein Henker. Der Verdacht." Kriminalromane (Friedrich Dürrenmatt)
 *Der Richter und sein Henker *Der Verdacht
 Die zwei Kriminalromane um Kommissär Bärlach
 Diogenes Taschenbuch 20849, 1985
- 763) "Der Hund. Der Tunnel. Die Panne." Erzählungen (Friedrich Dürrenmatt)
 *Der Hund. Eine Erzählung *Der Tunnel. Eine Erzählung
 *Die Panne. Eine noch mögliche Geschichte
 Anhang. Der ursprüngliche Schluß des >Tunnels<
 Diogenes Taschenbuch 20850, 1985
- 764) "Grieche sucht Griechin. Mister X macht Ferien." Grotesken (Friedrich Dürrenmatt)
 *Grieche sucht Griechin. Eine Prosakomödie
 *Mister X macht Ferien. Fragment
 *Nachrichten über den Stand des Zeitungswesens in der Steinzeit
 Diogenes Taschenbuch 20851, 1985
- 765) "Das Versprechen." Requiem auf den Kriminalroman
 "Aufenthalt in einer kleinen Stadt." Fragment (Friedrich Dürrenmatt)
 *Das Versprechen. Requiem auf den Kriminalroman
 *Aufenthalt in einer kleinen Stadt. Fragment
 Anhang. Nachwort zu >Das Versprechen<
 Diogenes Taschenbuch 20852, 1986
- 766) "Der Sturz." Erzählungen (Friedrich Dürrenmatt)
 *Der Sturz *Abu Chanifa und Anan ben David
 *Smithy *Das Sterben der Pythia
 Diogenes Taschenbuch 20854, 1985
- 767) "Theater." Essays und Reden (Friedrich Dürrenmatt)
 Diogenes Taschenbuch 20855, 1985
- 768) "Kritik." Kritiken und Zeichnungen (Friedrich Dürrenmatt)
 Diogenes Taschenbuch 20856, 1986
- 769) "Literatur und Kunst." Essays und Reden (Friedrich Dürrenmatt)
 Diogenes Taschenbuch 20857, 1986
- 770) "Philosophie und Naturwissenschaft." Essays und Reden (Friedrich Dürrenmatt)
 Diogenes Taschenbuch 20858, 1986

- 771) "Politik." Essays und Reden (Friedrich Dürrenmatt)
Diogenes Taschenbuch 20859, 1986
- 772) "Zusammenhänge." Essay über Israel
"Nachgedanken." unter anderem über Freiheit, Gleichheit und Brüderlichkeit in Judentum, Christentum, Islam und Marxismus und über zwei alte Mythen (Friedrich Dürrenmatt)
Diogenes Taschenbuch 20860, 1980
- 773) "Über Friedrich Dürrenmatt"
*Statt eines Vorworts. Welt der Mitmacher und der Pannen.
Gedanken von Friedrich Dürrenmatt über uns und unsere Zeit.
*Über Friedrich Dürrenmatt
*Über das dramatische Werk
*Über das Prosawerk
*Dürrenmatt als Maler und Zeichner
*Zeugnisse *Anhang
Diogenes Taschenbuch 20861, 1986
- 774) "Die Stadt." (Friedrich Dürrenmatt)
*Weihnacht *Der Polterknecht *Der Hund *Das Bild des Sisyphos
*Der Theaterdirektor *Die Falle *Die Stadt *Der Tunnel *Pilatus
Im Verlag der Arche Zürich 1952
- 775) "Das Versprechen." Requiem auf den Kriminalroman (Friedrich Dürrenmatt)
Im Verlag der Arche Zürich / 7. Auflage 1971
- 776) "Gesammelte Hörspiele." (Friedrich Dürrenmatt)
*Der Doppelgänger
*Der Prozess um des Esels Schatten
*Nächtliches Gespräch mit einem verachteten Menschen
*Stranitzky und der Nationalheld
*Herkules und der Stall der Augias
*Das Unternehmen der Wega
*Die Panne
*Abendstunde im Spätherbst
Im Verlag der Arche Zürich 1961
- 777) "Komödien I " (Friedrich Dürrenmatt)
*Romulus der Große
*Die Ehe des Herrn Mississippi
*Ein Engel kommt nach Babylon
*Der Besuch der alten Dame
Im Verlag der Arche Zürich 1957
- 778) "Komödien II und Frühe Stücke" (Friedrich Dürrenmatt)
*Es steht geschrieben *Der Blinde
*Frank der Fünfte *Die Physiker *Herkules und der Stall der Augias
Im Verlag der Arche Zürich 1962
- 779) "Komödien III" (Friedrich Dürrenmatt)
*Der Meteor *Die Wiedertäufer *König Johann
*Play Strindberg *Titus Andronicus
Im Verlag der Arche Zürich 1970

- 780) "Monstervortrag über Gerechtigkeit und Recht."
nebst einem helvetischen Zwischenspiel (Eine kleine Dramaturgie der Politik)
(Friedrich Dürrenmatt) Im Verlag der Arche in Zürich 1969
- 781) "Friedrich Dürrenmatt." von Elisabeth Brock-Sulzer
Lebensbild und Werkanalyse mit Photos und Faksimiles.
Im Verlag der Arche in Zürich 1973
- 782) "Grieche sucht Griechin." Eine Prosakomödie (Friedrich Dürrenmatt)
Im Bertelsmann Lesering 1960
- 783) "Der Verdacht." Kriminalroman.
Mit einer biographischen Skizze des Autors. (Friedrich Dürrenmatt)
Diogenes Taschenbuch 21436, 1986
- 784) "Der Prozess um des Esels Schatten."
Ein Hörspiel [nach Wieland - aber nicht sehr] (Friedrich Dürrenmatt)
Im Verlag der Arche Zürich 1958
- 785) "Das Versprechen." Requiem auf den Kriminalroman (Friedrich Dürrenmatt)
Lizenzausgabe für Bertelsmann
- 786) "Der Besuch der alten Dame." Eine tragische Komödie.
Neufassung 1980 (Friedrich Dürrenmatt) Diogenes 23045
- 787) "Durcheinandertal." Roman. (Friedrich Dürrenmatt) Diogenes 1989
- 788) "Dürrenmatt in unserer Zeit." Eine Werkinterpretation nach Selbstzeugnissen.
von Elisabeth Brock=Sulzer
Mit einem Bild, biographischen und bibliographischen Angaben.
Friedrich Reinhardt Verlag Basel 1971
- 789) "Friedrich Dürrenmatt" mit Selbstzeugnissen und Bilddokumenten.
dargestellt von Heinrich Goertz (rowohlts monographien)
Rowohlt Taschenbuch Verlag 1987
- 790) "Interpretationen Zu Friedrich Dürrenmatt"
Herausgegeben von Armin Arnold
(LGW 60 Literaturwissenschaft - Gesellschaftswissenschaft)
Ernst Klett Stuttgart 1982
- 791) "Friedrich Dürrenmatt." Zur Struktur seiner Dramen.
von Christian Markus Jauslin Juris-Verlag Zürich 1964
- 792) "Text+Kritik Heft 56. Friedrich Dürrenmatt." Zeitschrift für Literatur
Herausgegeben von Heinz Ludwig Arnold.
Zweite, erweiterte Auflage 1984
- 793) "Friedrich Dürrenmatt." Komödienbegriff und Komödienstruktur.
Eine Einführung von Ulrich Profitlich (Sprache und Literatur 86)
Verlag W. Kohlhammer Stuttgart Berlin Köln Mainz 1973

- 794) 「城」(Ⅰカフカ全集) 第一巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Das Schloss" (訳者/辻理・中野孝次・萩原芳昭)
昭和 28(1953)年 2 月 28 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 15 日 14 刷(新潮社)
- 795) 「審判・アメリカ」(Ⅱカフカ全集) 第二巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Der Prozess" and "Amerika"
(訳者/原田義人・渡邊格司・石中象治)
昭和 28(1953)年 4 月 30 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 10 日 13 刷(新潮社)
- 796) 「変身・流刑地にて・支那の長城・観察」(他 38 篇)
(Ⅲカフカ全集) 第三巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Erzählungen und kleine Prosa" "Beschreibung eines Kampfes"
(訳者/大山定一・手塚富雄・高橋義孝・谷友幸・佐藤晃一・高安國世
・本野亨一・野島正城・山下肇・江野専次郎・中居正文・板倉鞆音・辻理)
昭和 28(1953)年 7 月 31 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 10 日 14 刷(新潮社)
- 797) 「田舎の婚禮準備・父への手紙」
(Ⅳカフカ全集) 第四巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Hochzeitsvorbereitungen auf dem Lande" "Briefen an Vater"
(訳者/江野専次郎・近藤圭一)
昭和 34(1959)年 4 月 30 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 10 日 11 刷(新潮社)
- 798) 「ミレナへの手紙」(Ⅴカフカ全集) 第五巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Briefen an Milena" (訳者/辻理)
昭和 34(1959)年 5 月 30 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 10 日 11 刷(新潮社)
- 799) 「日記」(Ⅵカフカ全集) 第六巻 マックス・ブロート編集
Franz Kafka: "Tagebücher" (訳者/近藤圭一・山下肇)
昭和 34(1959)年 8 月 31 日発行
昭和 51(1976)年 2 月 15 日 13 刷(新潮社)
- 800) Michael Ende: "MOMO"
oder Die seltsame Geschichte von den Zeit-Dieben und von dem Kind,
das den Menschen die gestohlene Zeit zurückbrachte.
Schulausgabe mit Materialien. Thienemann 2005
- 801) 「ブレヒトの政治・社会論」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 1(責任編集/石黒英男)
Brecht's Schriften zur Politik und Gesellschaft
(野村修・五十嵐敏夫・石黒英男訳)
昭和 47(1972)年 8 月 10 日初版発行(河出書房新社)
- 802) 「ブレヒトの文学・芸術論」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 2(責任編集/石黒英男)
Brecht's Schriften zur Literatur und Kunst
(野村修・五十嵐敏夫・好村富士彦・池田浩士・内藤猛・石黒英男訳)
昭和 47(1972)年 12 月 11 日初版発行(河出書房新社)

- 803) 「ブレヒトの詩」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 3(責任編集/野村修)
Brecht, Gedichte(長谷川四郎・野村修訳)
昭和 47(1972)年 7 月 10 日初版発行(河出書房新社)
- 804) 「ブレヒトの戯曲」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 4(責任編集/岩淵達治・五十嵐敏夫)
Brecht, Drama(長谷川四郎・五十嵐敏夫・岩淵達治訳)
昭和 47(1972)年 9 月 20 日初版発行(河出書房新社)
- 805) 「ブレヒトの小説」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 5(責任編集/長谷川四郎・岩淵達治)
Brecht, Prosa(菊盛英夫・岩淵達治・長谷川四郎訳)
昭和 47(1972)年 10 月 9 日初版発行(河出書房新社)
- 806) 「ブレヒトの映画・映画論」
ベルトルト・ブレヒトの仕事 6(責任編集/野村修・石黒英男)
Brecht's Film(内藤猛・石黒英男・野村修訳)
昭和 48(1973)年 7 月 30 日初版発行(河出書房新社)
- 807) 「ドイツ語の歴史」(H. モーザー著)
Hugo Moser: Deutsche Sprachgeschichte.
Mit einer Einführung in die Fragen der Sprachbetrachtung.
(国松孝二・浜川祥枝・千石喬・三城満禧共訳)
昭和 42(1967)年 8 月 30 日第 1 刷発行
昭和 49(1974)年 10 月 30 日第 4 刷発行(白水社)
- 808) 「ドイツ語学概論」(オトー・ベハーゲル著)
Otto Behaghel: Die deutsche Sprache
(桜井和市・富山芳正・早川東三・川口洋共訳)
昭和 47(1972)年 4 月 25 日第 1 刷発行
昭和 50(1975)年 4 月 25 日第 2 刷発行(白水社)
- 809) 「ドイツ語史」(ペーター・フォン・ポーレンツ著)
Peter von Polenz: Geschichte der deutschen Sprache.
(岩崎英二郎・塩谷饒・金子亨・吉島茂共訳)
昭和 49(1974)年 5 月 24 日発行(白水社)
- 810) 「近代言語学史」--とくに文法理論を中心に--(ゲーアハルト・ヘルビヒ著)
Gerhard Helbig: Geschichte der neueren Sprachwissenschaft
(岩崎英二郎・早川東三・千石喬・三城満禧・川島敦夫共訳)
昭和 48(1973)年 1 月 12 日第 1 刷発行
昭和 50(1975)年 7 月 10 日第 2 刷発行(白水社)
- 811) 「現代ドイツ意味理論の源流」(ポルツィヒ/トゥリーア/ヴァイスゲルバー)
Walter porzig/ Jost Trier/ Leo Weisgerber(福元喜之助・寺川央編訳)
昭和 50(1975)年 12 月 1 日初版発行(大修館書店)
- 812) 「ドイツ語史」(小島公一郎著)
昭和 39(1964)年 2 月 25 日第 1 版発行(大学書林)
- 813) "Studien zur germanischen und kontrastiven Linguistik"
von Atsuo Kawashima. Dogakusha Verlag 1987

「ドイツ語学・対照言語学研究」(川島敦夫著)
昭和 62(1987)年 3 月 30 日初版発行(同学社)

814) 平成 5 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)

編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・尾崎秀樹・早乙女貢・武蔵野次郎・村上元三)

- ・乙前(瀬戸内寂聴)・発狂(早乙女貢)・樹影(永井路子)・笠原騒動(南條範夫)
- ・妖瞳(皆川博子)・豊饒の門(宮城谷昌光)・山梔子(安西篤子)
- ・鬼討ち(伊藤桂一)・水鏡(戸部新十郎)・魔笛(白石一郎)
- ・供先割り(杉本章子)・生き過ギタリ二十五(高橋義夫)
- ・月冴--王朝懶夢譚(田辺聖子)・白露記(古川薫)・高麗屏風(宮本徳蔵)
- ・影刀(黒岩重吾)・ばてれん兜(神坂次郎)・裾のしめり(梅本育子)
- ・第二の助太刀(中村彰彦)・鼓と鬼太刀(井口朝生)・喧嘩屋市之丞(北原亜以子)
- ・連理(泡坂妻夫)・雪の菅笠(村上元三)・倒れふすまで萩の原(竜門冬二)

平成 5(1993)年 5 月 30 日発行(光風社)

815) 平成 9 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)

編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・尾崎秀樹・早乙女貢・縄田一男・平岩弓枝)

- ・香水(東郷隆)・お龍(北原亜以子)・鬼笛(黒岩重吾)・雪提灯(澤田ふじ仔)
- ・小さな恋の物語(杉本苑子)・ぎぎの煮つけ(高橋義夫)・郭法度(南原幹雄)
- ・歳月(宮城谷昌光)・馬酔木(安西篤子)・恋あやめ(梅本育子)
- ・秘剣身知らず(早乙女貢)・絶塵の将(池宮彰一郎)
- ・ねじれ弾正、鬼弾正(南條範夫)・開城の使者(中村彰彦)・一期一殺(羽山信樹)
- ・夜光鬼(高橋克彦)・佐武伊賀守功名書き(津本陽)・春宵相乗舟佃島(出久根達郎)
- ・龍牙(戸部新十郎)・夢の通り路(伊藤桂一)・雲母橋(皆川博子)
- ・江戸鍛冶注文帳(佐江衆一)・口説北斎(藤本義一)・前髪公方(宮本昌孝)
- ・木戸前のあの子(竹田真砂子)・逃亡(祖田浩一)

平成 9(1997)年 5 月 30 日発行(光風社)

816) 平成 10 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)

編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・尾崎秀樹・早乙女貢・縄田一男・平岩弓枝)

- ・夜ごとの夢(伊藤桂一)・楽園から帰る(長部日出雄)・子麻呂道(黒岩重吾)
- ・峠だけで見た男(笹沢佐保)・密林の中のハンギ(南條範夫)
- ・源太郎の初恋(平岩弓枝)・最後の赤備え(宮本昌孝)・遙かなる慕情(早乙女貢)
- ・帰って来た一人(杉本苑子)・雨の中の犬--細川忠興(岳宏一郎)
- ・秘剣 夢枕(戸部新十郎)・花の眉間尺(皆川博子)・秘剣笠の下(新宮正春)
- ・織田三七の最期(高橋直樹)・月山落城(羽山信樹)・生きすぎたりや(安部龍太郎)
- ・自鳴琴からくり人形(佐江衆一)・母恋常珍坊(中村彰彦)・武士の妻(北原亜以子)
- ・柳は緑 花は紅(竹田真砂子)・叩きのめせ(白石一郎)・芍薬(安西篤子)
- ・飛奴(泡坂妻夫)

平成 10(1998)年 5 月 30 日発行(光風社)

817) 平成 11 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)

編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・尾崎秀樹・早乙女貢・縄田一男・平岩弓枝)

- ・心中屋(泡坂妻夫)・笹鳴き(杉本苑子)・千軍万馬の闇将軍(佐藤雅美)
- ・蝮の道三(南條範夫)・新月の夜(伊藤桂一)・雪の音(大路和子)
- ・臍あわせ太平記(神坂次郎)・雪まろげ(早乙女貢)・家光こと始め(高橋直樹)
- ・紀州の姫君(竹田真砂子)・花の顔(乙川優三郎)・貧窮豆腐(東郷隆)
- ・寒紅梅(平岩弓枝)・おせん(井上ひさし)・僭称(井上祐美子)
- ・俎上の恋(梅本育子)・汚名(古川薫)・官兵衛受難(赤瀬川隼)
- ・子麻呂の恋(黒岩重吾)・風露草(安西篤子)・江戸城のムツゴロウ(童門冬二)
- ・虎乱(戸部新十郎)・青鬼の背に乗りたる男の譚(夢枕獏)・無明の剣(津本陽)
- ・俠盗の菌(もりたなるお)

平成 11(1999)年 5 月 30 日発行(光風社)

- 818) 平成 12 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)
 編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・早乙女貢・縄田一男・平岩弓枝)
 ・おすず(杉本章子)・蜻蛉(戸部新十郎)・紫雲英(安西篤子)
 ・猫之助行状(神坂次郎)・外郎と夏の花(早乙女貢)・御案内(高橋義夫)
 ・黒竜譚異聞(田中芳樹)・夢の翼(市原麻里子)・かつ女覚書(井口朝生)
 ・大切腹(団鬼六)・梅の花降る(宮部みゆき)・高台寺の間者(新宮正春)
 ・平安妖異伝 花と楽人(平岩弓枝)・螢火の初夜(伊藤桂一)
 ・恋売り小太郎(梅本育子)・蟹(乙川優三郎)・お蘭さまと一十郎(南條範夫)
 ・黒猫(皆川博子)・ヴォラーレ--空を飛ぶ--(佐藤賢一)・急須の源七(佐江衆一)
 ・仙台花押(泡坂妻夫)・妬心--ぎやまん物語(北原亜以子)
 平成 12(2000)年 5 月 30 日発行(光風社)
- 819) 平成 13 年度「代表作時代小説」(日本文藝家協会編)
 編纂委員(磯貝勝太郎・伊藤桂一・早乙女貢・縄田一男・平岩弓枝)
 ・象太鼓--平安妖異伝--(平岩弓枝)・灰神楽(峰隆一郎)・雷大吉(安部龍太郎)
 ・無明長夜(早乙女貢)・とんでもヤンキー--横浜異人街事件帖--(白石一郎)
 ・後瀬の花(乙川優三郎)・ソロバン大名の大誤算(童門冬二)
 ・義仲の最期(南條範夫)・義輝異聞 遺恩(宮本昌孝)・黒髪の大太刀(東郷隆)
 ・茶巾(戸部新十郎)・彫物大名の置き土産(佐藤雅美)・燃える水(高橋義夫)
 ・大兵政五郎(諸田玲子)・馬追月夜(伊藤桂一)・山賊和尚(喜安幸夫)
 ・帰郷(古川薫)・笹紅(梅本育子)・亀に乗る(佐江衆一)・慕情(宇佐美真理)
 ・身代わり切腹(郡順史) 平成 13(2001)年 5 月 30 日発行(光風社)
- 820) 「パルチヴァール」(ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ)
 Wolfram von Eschenbach: Parzival
 (加倉井肅之・伊東泰治・馬場勝弥・小栗友一共訳)
 昭和 49(1974)年 3 月発行
 昭和 49(1974)年 9 月第 2 版(郁文堂)
- 821) 「トリスタンとイゾルデ」
 (ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク)
 Gottfried von Straßburg: Tristan und Isolde (石川敬三訳)
 昭和 51(1976)年 3 月発行
 昭和 56(1981)年 10 月改訂第 3 版(郁文堂)
- 822) 「ミンネザング」ドイツ中世叙情詩集 (高津春久編訳)
 昭和 53(1978)年 10 月発行(郁文堂)
- 823) 「ハルトマン作品集」(ハルトマン・フォン・アウエ)
 Hartmann von Aue: "Erec" "Gregorius" "Der arme Heinrich" "Iwein"
 「エーレク」(平尾浩三訳)「グレゴリーウス」(中島悠爾訳)
 「哀れなハインリヒ」(相良守峯訳)「イーヴェイン」(リンケ珠子訳)
 昭和 57(1982)年 5 月発行(郁文堂)
- 824) 「ザイフリート・ヘルブリング」
 --中世ウィーンの覇者と騎士たち--(平尾浩三訳)
 平成 2(1990)年 11 月 1 日発行(郁文堂)
- 825) 「精神分析入門<上>」(フロイド選集 1)
 Sigmund Freud: Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse (丸井清泰訳)
 昭和 27(1952)年 11 月 7 日初版発行
 昭和 29(1954)年 9 月 30 日 13 版発行(日本教文社)

- 826) 「精神分析入門<下>」(フロイド選集 2)
Sigmund Freud: Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse (丸井清泰訳)
昭和 28(1953)年 4 月 10 日初版印刷
昭和 29(1954)年 8 月 5 日 8 版発行(日本教文社)
- 827) 「續精神分析入門」(フロイド選集 3)
Sigmund Freud: Neue Folge der Vorlesungen
zur Einführung in die Psychoanalyse (古澤平作訳)
昭和 28(1953)年 10 月 2 日初版発行(日本教文社)
- 828) 「自我論」(フロイド選集 4)
Sigmund Freud: "Jenseits des Lustprinzips" "Massenpsychologie und Ich-Analyse"
"Das Unbewusste" "Das Ich und das Es" (井村恒郎訳)
昭和 29(1954)年 2 月 25 日初版発行
昭和 29(1954)年 4 月 18 日 3 版発行(日本教文社)
- 829) 「性欲論」(フロイド選集 5)
Sigmund Freud: "Drei Abhandlungen zur Sexualtheorie" "Einführung des Narzißmus"
"Charakter und Analerotik" "Über libidinöse Typen" "Über die weibliche Sexualität"
"Einige psychische Folgen des anatomischen Geschlechtsunterschiedes" (懸田克躬訳)
昭和 28(1953)年 3 月 15 日初版発行
昭和 29(1954)年 4 月 12 日 7 版発行(日本教文社)
- 830) 「文化論」(フロイド選集 6)
Sigmund Freud: "Das Unbehagen in der Kultur" "Totem und Tabu" (土井正徳訳)
昭和 28(1953)年 12 月 20 日初版発行(日本教文社)
- 831) 「芸術論」(フロイド選集 7)
Sigmund Freud: "Der Dichter und das Phantasieren"
"Eine Kindheitserinnerung des Leonardo da Vinci"
"Das Motiv der Kästchenwahl" "Der Moses des Michelangelo"
"Einige Charaktertypen aus der psychoanalytischen Arbeit"
"Eine Kindheitserinnerung aus <Dichtung und Wahrheit>" "das Unheimliche"
"Der Humor" "Dostojewski und die Vätertötung" (高橋義孝訳)
昭和 28(1953)年 8 月 20 日初版発行
昭和 29(1954)年 7 月 5 日 5 版発行(日本教文社)
- 832) 「幻想の未来」(フロイド選集 8)
Sigmund Freud: "Die Zukunft einer Illusion"
"Der Mann Moses und die monotheistische Religion"
"Warum Krieg?" (土井正徳・吉田正己訳)
昭和 29(1954)年 6 月 25 日初版発行(日本教文社)
- 833) 「ヒステリー研究」(フロイド選集 9)
Sigmund Freud: "Krankengeschichten"
"Über den psychischen Mechanismus hysterischer Phänomene"
"Zur Psychotherapie der Hysterie" "Zur Ätiologie der Hysterie"
(懸田克躬・吉田正己訳)
昭和 30(1955)年 11 月 5 日初版発行(日本教文社)
- 834) 「不安の問題」(フロイド選集 10)
Sigmund Freud: "Über die Berechtigung, von der Neurasthenie einen bestimmten
Symptomenkomplex als <Angstneurose> abzutrennen"

"Die Sexualität in der Ätiologie der Neurosen"
 "Formulierungen über die zwei Prinzipien des psychischen Geschehens"
 "Über neurotische Erkrankungstypen" "Die Disposition zur Zwangsneurose"
 "Die Verdrängung" "Trauer und Melancholie"
 "Über einige neurotische Mechanismen bei Eifersucht, Paranoia und Homosexualität"
 "Der Realitätsverlust bei Neurose und Psychose" "Neurose und Psychose"
 "Hemmung, Symptom und Angst" (井村恒郎・加藤正明訳)
 昭和 30(1955)年 2 月 25 日初版発行(日本教文社)

835) 「夢判断 上」(フロイド選集 11) Sigmund Freud: "Die Traumdeutung" (高橋義孝訳)
 昭和 29(1954)年 10 月 25 日初版発行(日本教文社)

836) 「夢判断 下」(フロイド選集 12) Sigmund Freud: "Die Traumdeutung" (高橋義孝訳)
 昭和 30(1955)年 8 月 10 日初版発行(日本教文社)

837) 「生活心理の錯誤」(改訂版フロイド選集 13)
 Sigmund Freud: "Zur Psychopathologie des Alltagslebens" (浜川祥枝訳)
 昭和 45(1970)年 3 月 5 日初版発行
 昭和 46(1971)年 6 月 1 日 3 版発行(日本教文社)

838) 「愛情の心理学」(改訂版フロイド選集 14)
 Sigmund Freud: "Die <kulturelle> Sexualmoral und die moderne Nervosität"
 "Hysterische Phantasien und ihre Beziehung zur Bisexualität"
 "Beiträge zur Psychologie des Liebeslebens"
 "Zur Einleitung der Onanie-Diskussion"
 "Schlusswort der Onanie-Diskussion" "Vergänglichkeit"
 "Über die Psychogenese eines Falles von weiblicher Homosexualität"
 "Das ökonomische Problem des Masochismus"
 "Der Untergang des Ödipuskomplexes" (高橋義孝訳)
 昭和 44(1969)年 8 月 25 日初版発行
 昭和 46(1971)年 6 月 1 日 4 版発行(日本教文社)

839) 「精神分析療法」(改訂版フロイド選集 15)
 Sigmund Freud: "Die Freudsche psychoanalytische Methode" "Über Psychotherapie"
 "Die zukünftigen Chancen der psychoanalytischen Therapie" "Über <wilde> Psychoanalyse"
 "Die Handhabung der Traumdeutung in der Psychoanalyse" "Zur Dynamik der Übertragung"
 "Ratschläge für den Arzt bei der psychoanalytischen Behandlung"
 "Über fausse Reconnaissance <déjà raconté> während der psychoanalytischen Arbeit"
 "Zur Einleitung der Behandlung" "Erinnern, Wiederholen und Durcharbeiten"
 "Bemerkungen über die Übertragungsliebe" "Wege der psychoanalytischen Therapie"
 "Zur Vorgeschichte der analytischen Technik" "Konstruktionen in der Analyse"
 "Die endliche und die unendliche Analyse" "Die Ichspaltung im Abwehrvorgang"
 "Abriss der Psychoanalyse" (小此木啓吾訳)
 昭和 44(1969)年 6 月 1 日初版発行
 昭和 46(1971)年 6 月 5 日 4 版発行(日本教文社)

840) 「症例の研究」(改訂版フロイド選集 16)
 Sigmund Freud: "Bemerkungen über einen Fall von Zwangsneurose"
 "Psychoanalytische Bemerkungen über einen autobiographisch beschriebenen Fall von Paranoia" "Aus der Geschichte einer infantilen Neurose" (小此木啓吾訳)
 昭和 44(1969)年 12 月 5 日初版発行
 昭和 45(1970)年 6 月 1 日再版発行(日本教文社)

- 841) 「自らを語る」(改訂版フロイド選集 17)
 Sigmund Freud: "Selbstdarstellung"
 "Zur Geschichte der psychoanalytischen Bewegung"
 "Über Psychoanalyse"(懸田克躬訳)
 昭和 44(1969)年 12 月 15 日初版発行
 昭和 46(1971)年 6 月 1 日 3 版発行(日本教文社)
- 842) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 1) Fischer Wissenschaft
 • Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse
 • Neue Folge der Vorlesungen zur Einführung in die Psychoanalyse
 Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 843) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 2) Fischer Wissenschaft
 • Die Traumdeutung/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 844) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 3) Fischer Wissenschaft
 • Psychologie des Unbewußten/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 845) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 4) Fischer Wissenschaft
 • Psychologische Schriften/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 846) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 5) Fischer Wissenschaft
 • Sexualleben/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 847) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 6) Fischer Wissenschaft
 • Hysterie und Angst/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 848) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 7) Fischer Wissenschaft
 • Zwang, Paranoia und Perversion/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 849) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 8) Fischer Wissenschaft
 • Zwei Kinderneurosen/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 850) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 9) Fischer Wissenschaft
 • Fragen der Gesellschaft • Ursprünge der Religion
 Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 851) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Band 10) Fischer Wissenschaft
 • Bildende Kunst und Literatur/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 852) "Sigmund Freud" (Studienausgabe Ergänzungsband) Fischer Wissenschaft
 • Schriften zur Behandlungstechnik/ Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 853) "Sigmund Freud" (Konkordanz und Gesamtbibliographie) Fischer Wissenschaft
 Fischer Taschenbuch Verlag 1982
- 854) 「ゲオルゲとリルケの研究」(手塚富雄著)
 第 1 章 序論 文芸学上の諸問題におよぶ
 第 2 章 両詩人をめぐるヨーロッパの精神状況
 第 3 章 芸術の自主性の自覚と詩におけるその系譜
 第 4 章 出生と詩人への生成
 第 5 章 詩業の第一階梯
 第 6 章 苦悩の底における詩業

第7章 究極の拠点

第8章 愛の問題 結び

昭和35(1960)年11月10日第1刷発行

昭和43(1968)年9月30日2刷発行(岩波書店)

855)「ファウストとゲーテ」(道家忠道著)

昭和54(1979)年10月発行(郁文堂)

856)「ドイツ政治経済法制辞典」(田沢五郎著)

Deutsch-japanisches Wörterbuch für Politik, Wirtschaft und Recht

平成2(1990)年11月1日発行(郁文堂)

857)「島尾敏雄作品集1」(解説/奥野健男)

- ・島の果て・孤島夢・摩天楼・石像歩き出す・蜘蛛の行・単独旅行者
- ・夢の中での日常・徳之島航海記・月下の渦潮・挿話・薬
- ・勾配のあるラビリンス・格子の眼・唐草・アスファルトと蜘蛛の子ら
- ・砂嘴の丘にて・鎮魂記・ロング-ロング-アゴウ

昭和36(1961)年7月20日初版

昭和45(1970)年7月30日4刷(晶文社)

858)「島尾敏雄作品集2」(解説/奥野健男)

- ・出孤島記・宿定め・ちつぽけなアヴァンチュール・摩耶たちへの偏見
- ・黄色の部分・アスキーティッシュ自叙伝・いなかぶり・旅は妻子を連れて
- ・夜の匂い・長篇 贗学生

昭和36(1961)年9月20日初版

昭和44(1969)年7月20日4刷(晶文社)

859)「島尾敏雄作品集3」(解説/奥野健男)

- ・兆・朝影・亀甲の裂け目・大鋏・月暈・未明・死人の訪れ・断崖館
- ・子之吉の舌・離島のあたり・春の日のかげり・坂道の途上で・鬼剥げ
- ・帰巢者の憂鬱・反芻・むかで・冬の宿り・川流れ・肝の小さいままに
- ・闘いへの怖れ・星くずの下で・川にて・家の外で・廃址・帰魂譚

昭和37(1962)年4月20日初版

昭和44(1969)年7月20日4刷(晶文社)

860)「島尾敏雄作品集4」(解説/奥野健男)

- ・われ深きふちより・狂者のまなび・或る精神病者・重い肩車・治療
- ・のがれ行くところ・転送・ねむりなき睡眠・一時期・家の中・離脱・死の棘
- ・崖のふち・鉄路に近く・日は日に 島尾敏雄年譜

昭和37(1962)年8月31日初版

昭和44(1969)年6月30日4刷(晶文社)

861)「島尾敏雄作品集5」(解説/奥野健男)

- ・島へ・マヤと一緒に・出発は遂に訪れず・頑な今日・夢にて・捜妻記
- ・集会のあとで・頃日のつとめ・思屑録・市壁の町なかで・流棄・日々の例
- ・日のちぢまり・子と共に・過越し 年譜

昭和42(1967)年7月30日初版

昭和44(1969)年7月30日2刷(晶文社)

862)「私の文学遍歴」(島尾敏雄著)

昭和41(1966)年3月31日第1刷発行

昭和46(1971)年7月31日第2刷発行(未来社)

- 863) 「日のちぢまり」(島尾敏雄著)
 ・日のちぢまり・子と共に・過越し・捜妻記
 ・集会のあとで・頃日のつとめ・思屑録・市壁の町なかで
 昭和 40(1965)年 10 月 30 日発行
 昭和 48(1973)年 7 月 10 日 2 刷(新潮社)
- 864) 「硝子障子のシルエット」葉篇小説集(島尾敏雄著)
 昭和 47(1972)年 2 月 25 日第 1 刷
 昭和 47(1972)年 11 月 3 日第 4 刷(創樹社)
- 865) 「夢のかげを求めて」東欧紀行(島尾敏雄著)
 昭和 50(1975)年 3 月 25 日初版発行
 昭和 50(1975)年 6 月 20 日 3 版発行(河出書房新社)
- 866) 「カイエ 12 月臨時増刊号」
 総特集・島尾敏雄(Cahier de la Nouvelle Littérature)
 昭和 53(1978)年 12 月 15 日発行(冬樹社)
- 867) 「島にて」(島尾敏雄著)
 昭和 41(1966)年 7 月 25 日初版発行
 昭和 44(1969)年 6 月 15 日再版発行(冬樹社)
- 868) 「死の棘」長編小説(島尾敏雄著)
 昭和 52(1977)年 9 月 30 日発行/ 昭和 52(1977)年 10 月 25 日 3 刷(新潮社)
- 869) 「日の移ろい」(島尾敏雄著)
 昭和 51(1976)年 11 月 30 日初版発行(中央公論社)
- 870) 「内にむかう旅」(島尾敏雄対談集)
 ・島尾敏雄の原風景(奥野健男)・神戸と文学(仲郷三郎)
 ・漂泊の世代を語る(進藤純孝)・怯えについて(安岡章太郎)
 ・文学と土地と(坂上弘)・特攻戦発動!(三国一朗)
 ・極限の文学(古林尚)・たまらない自分を負って(上総英郎)
 ・夢の中での日常(西郷竹彦)・内にむかう旅(つげ義春) あとがき
 昭和 51(1976)年 11 月 30 日第 1 刷(泰流社)
- 871) 「琉球弧の視点から」(島尾敏雄著)
 昭和 44(1969)年 2 月 20 日第 1 刷発行(講談社)
- 872) 「島尾敏雄」(奥野健男著)
 第 1 部 島尾敏雄論 1 発見--被害者の文学 2 夢 3 家庭 4 戦争特攻体験について
 5 『死の棘』--極限状況と持続の文学 6 日記--『日の移ろい』論
 7 紀行--『夢のかげを求めて』を中心に
 第 2 部 その作品 1 全作品解説 2 書評
 第 3 部 島尾敏雄との旅
 1 奄美大島をたずねて 2 島尾敏雄の原風景をたずねて
 あとがき 島尾敏雄略年譜
 昭和 52(1977)年 12 月 25 日第 1 刷
 昭和 53(1978)年 6 月 25 日第 2 刷(泰流社)
- 873) 「白井喬二全集 1」(富士に立つ影 第一巻)
 昭和 44(1969)年 4 月 25 日発行(學藝書林)

- 874) 「白井喬二全集 2」(富士に立つ影 第二卷)
昭和 44(1969)年 5 月 25 日発行(學藝書林)
- 875) 「白井喬二全集 3」(富士に立つ影 第三卷)
昭和 44(1969)年 6 月 25 日発行(學藝書林)
- 876) 「白井喬二全集 4」(富士に立つ影 第四卷)
昭和 44(1969)年 7 月 25 日発行(學藝書林)
- 877) 「現代政治の思想と行動」増補版(丸山眞男著)
第 1 部 現代日本政治の精神状況
1 超国家主義の論理と心理 2 日本ファシズムの思想と運動
3 軍国支配者の精神型態 4 ある自由主義者への手紙
5 日本におけるナショナリズム 6 「現実」主義の陥穽
7 戦前における日本の右翼運動
第 2 部 イデオロギーの政治学
1 西欧文化と共産主義の対決 2 ラスキのロシア革命観とその推移
3 ファシズムの諸問題 4 ナショナリズム・軍国主義・ファシズム
5 「スターリン批判」における政治の論理
第 3 部 「政治的なるもの」とその限界
1 科学としての政治学 2 人間と政治 3 肉体文学から肉体政治まで
4 権力と道徳 5 支配と服従 6 政治権力の諸問題 7 現代における態度決定
8 現代における人間と政治・追記および補註・旧版への後記・増補版への後記
昭和 39(1964)年 5 月 30 日第 1 刷発行
昭和 57(1982)年 7 月 10 日第 109 刷発行(未来社)
- 878) 「後衛の位置から」『現代政治の思想と行動』追補(丸山眞男著)
・『現代政治の思想と行動』英語版(1963 年)への著者序文
・憲法第九条をめぐる若干の考察・近代日本の知識人
附録 日本と西欧との対話
--丸山眞男『現代政治の思想と行動』の英訳をめぐって--
著者あとがき
昭和 57(1982)年 9 月 20 日第 1 刷発行
昭和 57(1982)年 10 月 5 日第 3 刷発行(未来社)
- 879) 「郷愁(ペーター・カメンチント)」ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Peter Camenzind (芳賀檀訳)
昭和 27(1952)年 11 月 5 日改訂初版発行
昭和 49(1974)年 8 月 30 日改訂重版発行(人文書院)
- 880) 「湖畔の家(ロスハルデ)」ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Rosshalde (芳賀檀訳)
昭和 29(1954)年 3 月 10 日初版発行
昭和 45(1970)年 1 月 25 日改訂重版発行(人文書院)
- 881) 「漂泊の人(クヌルプ)」クヌルプの生涯の三つの物語 ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Knulp (芳賀檀訳)
昭和 39(1964)年 4 月 25 日改訂初版発行
昭和 45(1970)年 10 月 1 日改訂重版発行(人文書院)
- 882) 「青春は美し」ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Schön ist die Jugend. <aus "Diesseits"> (高橋健二訳)
「旋風」(Der Zyklon) 「ラテン語学校生」(Der Leteinschüler)

「流浪の果て」(In der alten Sonne)
昭和 29(1954)年 3 月 10 日初版発行
昭和 45(1970)年 1 月 25 日改訂重版発行(人文書院)

883) 「乾草の月」ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Heumond. <aus "Diesseits"> (高橋健二訳)
「大理石材工場」(Der Marmorsäge) 「少年時代から」(Aus Kinderzeiten)
「秋の徒歩旅行」(Eine Fussreise im Herbst)
昭和 25(1950)年 10 月 1 日初版発行
昭和 42(1967)年 3 月 30 日重版発行(人文書院)

884) 「知と愛(ナルチスとゴルトムント)」ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Narziss und Goldmund (高橋健二訳)
昭和 28(1953)年 6 月 25 日初版発行
昭和 46(1971)年 8 月 31 日改訂重版発行(人文書院)

885) 「荒野の狼」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Der Steppenwolf (芳賀檀訳)

昭和 26(1951)年 8 月 10 日初版発行
昭和 40(1965)年 2 月 1 日重版発行(人文書院)

886) 「若き人々へ」ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Zarathustras Wiederkehr. (高橋健二訳)
「ツァラツストラの再来--一言、ドイツの若き人々へ--」
(Zarathustras Wiederkehr. Ein Wort an die deutsche Jugend)
「自伝素描」(Kurzgefasster Lebenslauf)
「カラマゾフ兄弟、ヨーロッパの没落」
(Die Brüder Karamasoff oder Der Untergang Europas)
「ドストエフスキーの<白痴>随想」(Gedanken zu Dostojewskis "Idiot")
昭和 26(1951)年 8 月 20 日初版発行
昭和 46(1971)年 8 月 31 日重版発行(人文書院)

887) 「メルヒェン」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Märchen (高橋健二訳)

「アウグスツス」(Augustus) 「詩人」(Der Dichter)
「別な星の奇妙なたより」(Merkwürdige Nachricht von einem andern Stern)
「苦しい道」(Der schwere Weg) 「夢から夢へ」(Eine Traumfolge)
「ファルドゥム」(Faldum) 「アヤメ」(Iris)
昭和 27(1952)年 10 月 5 日初版発行
昭和 49(1974)年 6 月 10 日改訂重版発行(人文書院)

888) 「ジッタルタ」--印度の譚詩--ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Siddhartha (芳賀檀訳)
昭和 27(1952)年 2 月 20 日初版発行
昭和 48(1973)年 4 月 10 日重版発行(人文書院)

889) 「婚約」--「小さい世界」より--ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Kleine Welt (高橋健二訳)
「婚約」(Die Verlobung) 「ヴァルター・ケンプ」(Walter Kömpff)
「ラディデル」(Ladidel)
昭和 27(1952)年 6 月 30 日初版発行
昭和 47(1972)年 8 月 20 日重版発行(人文書院)

890) 「帰郷」--「小さい世界」より--ヘッセ著作集

Hermann Hesse: Kleine Welt (高橋健二訳)

「帰郷」(Die Heimkehr)「ロバート・アギオン」(Robert Aghion)
「エーミール・コルプ」(Emil Kolb)「世界改良家」(Der Weltverbesserer)
昭和 27(1952)年 12 月 25 日初版発行
昭和 45(1970)年 8 月 25 日重版発行(人文書院)

891) 「内面への道」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Weg nach Innen (芳賀檀訳)
「子供心」「クラインとワグネルと」「クリングゾールの最後の夏」
昭和 27(1952)年 10 月 25 日初版発行
昭和 45(1970)年 2 月 15 日重版発行(人文書院)

892) 「春の嵐」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Gertrud (高橋健二訳)
昭和 27(1952)年 10 月 20 日初版発行
昭和 50(1975)年 8 月 31 日改訂重版発行(人文書院)

893) 「車輪の下」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Unterm Rad (高橋健二訳)
昭和 27(1952)年 10 月 5 日初版発行
昭和 42(1967)年 11 月 30 日改訂重版発行(人文書院)

894) 「放浪」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Wanderung (高橋健二訳)
・ 農家・いなかの墓場・峠・夜道・村・忘我・橋・みごとな世界・牧師館
・ 百姓屋敷・雨・木・画家の喜び・雨天・礼拝堂・無常・真昼の憩い
・ 旅びと、死に向かって・湖、木、山・色の魔術・曇った空・夕べ
昭和 28(1953)年 1 月 10 日初版発行
昭和 50(1975)年 8 月 30 日重版発行(人文書院)

895) 「詩集 孤独者の音楽」ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Musik der Einsamen (高橋健二訳)
「青春詩集」Gedichte
昭和 28(1953)年 4 月 10 日初版発行
昭和 49(1974)年 7 月 20 日重版発行(人文書院)

896) 「詩集 夜の慰め」ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Trost der Nacht (高橋健二訳)
「青春詩集」Gedichte
昭和 29(1954)年 4 月 20 日初版発行
昭和 47(1972)年 8 月 30 日重版発行(人文書院)

897) 「青春時代」--ヘルマン・ラウシェル--ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Hermann Lausher (芳賀檀訳)
昭和 40(1965)年 4 月 25 日改訂初版発行
昭和 48(1973)年 5 月 20 日改訂重版発行(人文書院)

898) 「戦争と平和」ヘッセ著作集
--1914 年以來の戦争及び政治に関する考察--
Hermann Hesse: Krieg und Frieden (芳賀檀訳)
昭和 28(1953)年 8 月 25 日初版発行
昭和 40(1965)年 9 月 20 日重版発行(人文書院)

899) 「デミアン」ヘッセ著作集
--エーミール・シンクレールの少年時代の物語--
Hermann Hesse: Demian (高橋健二訳)
昭和 29(1954)年 3 月 25 日初版発行
昭和 51(1976)年 7 月 10 日重版発行(人文書院)

- 900) 「夢のあと」ヘッセ著作集 Hermann Hesse: Traumfährte (高橋健二訳)
「都会」(Die Stadt) 「ヨーロッパ人」(Der Europäer)
「トウのイスのおとぎ話」(Märchen vom Korbstuhl)
「悲劇的」(Tragisch) 「魔術師の幼年時代」(Kindheit des Zauberers)
「シュワーベンの戯詩」(Schwäbische Parodie)
「荒野のオーカミについて」(Vom Steppenwolf)
「幽王」(König Yu) 「エドムント」(Edmund) 「鳥」(Vogel)
昭和 30(1955)年 3 月 30 日初版発行
昭和 47(1972)年 8 月 25 日重版発行(人文書院)
- 901) 「聖者と甘いパン」--物語集-- ヘッセ著作集
Hermann Hesse: Fabulierbuch (高橋健二訳)
「聖者と甘いパン」(Die süßen Brote) 「ふたりの罪びと」(Die beiden Sünder)
「幼い日の聖フランシス」(Aus der Kindheit des heiligen Franz von Assisi)
「恋の痛手」(Chagrin d'Amour) 「ハンネス」(Hannes)
「語り手」(Der Erzähler) 「小びと」(Der ZwergS)
「三本のボダイ樹」(Drei Linden) 「内と外」(Innen und Aussen)
「プレッセルのあずま家で」(Im Presselschen Gartenhaus)
「蔵書家」(Ein Mann mit den vielen Büchern)
昭和 30(1955)年 10 月 15 日初版発行
昭和 49(1974)年 8 月 30 日重版発行(人文書院)
- 902) 「彼方の水音」(高橋たか子著)
・相似形「文学界」<昭和 46(1971)年 5 月号>
・囚われ「群像」<昭和 45(1970)年第 4 月号>
・渺茫「文学界」<昭和 45(1970)年 11 月号>
・子供さま「群像」昭和 44(1969)年 7 月号
・彼方の水音「群像」昭和 46(1971)年 4 月号
昭和 46(1971)年 8 月 24 日第 1 刷発行
昭和 49(1974)年 2 月 12 日第 2 刷発行(講談社)
- 903) 「骨の城」(高橋たか子著)
・骨の城『白描』10 号 <昭和 44(1969)年 11 月>
・化身『白描』4 号 <昭和 40(1965)年 7 月>
・白夜『白描』6 号 <昭和 41(1966)年 8 月>
・眼『南北』<昭和 42(1967)年 5 月号>
・きらめき『白描』3 号 <昭和 40(1965)年 4 月>
・半音階的幻想『白描』7 号 <昭和 41(1966)年 12 月>
・交わり『白描』6 号 <昭和 41(1966)年 8 月>
・神秘の湖『三田文学』<昭和 42(1967)年 6 月号>
・リュミリア『白描』9 号 <昭和 43(1968)年 11 月>
・乗車錯誤『早稲田文学』<昭和 47(1972)年 1 月号>
昭和 47(1972)年 5 月 30 日初版発行
昭和 49(1974)年 3 月 1 日再版発行(人文書院)
- 904) 「双面」(高橋たか子著)
・同心円のなかで「文芸」<昭和 47(1972)年 2 月号>
・微笑「文芸」<昭和 46(1971)年第 2 月号>
・双面「文芸」<昭和 45(1970)年 5 月号>
昭和 47(1972)年 9 月 15 日初版発行
昭和 49(1974)年 5 月 15 日再版発行(河出書房新社)

- 905) 「空の果てまで」(高橋たか子著) 新鋭書下ろし作品
昭和 48(1973)年 2 月 20 日発行
昭和 48(1973)年 8 月 30 日 7 刷(新潮社)
- 906) 「共生空間」(高橋たか子著)
・共生空間「群像」昭和 46(1971)年 12 月号
・西方の国「群像」昭和 48(1973)年 1 月号
・秘「新潮」昭和 48(1973)年 8 月号
・遠くから来るもの「展望」昭和 48(1973)年 1 月号
・魔の時「文学界」昭和 46(1971)年 10 月号
・螺旋階段「新潮」昭和 47(1972)年 10 月号
昭和 48(1973)年 11 月 10 日発行
昭和 49(1974)年 8 月 10 日 3 刷(新潮社)
- 907) 「失われた絵」(高橋たか子著)
・失われた絵「文芸」<昭和 48(1973)年 6 月号>
・白い光「すばる」<昭和 48(1973)年第 13 号>
・夏の淵「文学界」<昭和 48(1973)年 11 月号>
昭和 49(1974)年 2 月 15 日初版発行
昭和 49(1974)年 5 月 10 日 3 版発行(河出書房新社)
- 908) 「没落風景」(高橋たか子著)
河出書き下ろし長篇小説
昭和 49(1974)年 4 月 20 日発行(河出書房新社)
- 909) 「華やぐ日」(高橋たか子著)
・華やぐ日「群像」昭和 49(1974)年 4 月号
・昔の街「新潮」昭和 49(1974)年 12 月号
・疑惑「群像」昭和 50(1975)年 1 月号
・熱い日「文芸」昭和 49(1974)年 9 月号
・晴間「文学界」昭和 50(1975)年 5 月号
昭和 50(1975)年 7 月 12 日第 1 刷発行(講談社)
- 910) 「誘惑者」(高橋たか子著) 昭和 51(1976)年 6 月 30 日第 1 刷発行(講談社)
- 911) 「ロンリー・ウーマン」(高橋たか子著)
・ロンリー・ウーマン「昴 16 号」昭和 49(1974)年 6 月
・お告げ「文芸」昭和 50(1975)年 1 月号
・狐火「昴 24 号」昭和 51(1976)年 6 月
・吊橋「文学界」昭和 52(1977)年 4 月号
・不思議な縁「昴 28 号」昭和 52(1977)年 4 月
昭和 52(1977)年 6 月 25 日第 1 刷発行(集英社)
- 912) 「人形愛」(高橋たか子著)
・人形愛「群像」昭和 51(1976)年 7 月号
・秘儀「群像」昭和 53(1978)年 4 月号
・見知らぬ山「文芸展望」昭和 52(1977)年冬号
・結晶体「文芸」昭和 51(1976)年 11 月号
昭和 53(1978)年 9 月 20 日第 1 刷発行
昭和 53(1978)年 12 月 16 日第 3 刷発行(講談社)
- 913) 「怪しみ」(高橋たか子著)
・怪しみ「新潮」昭和 55(1980)年 3 月号

- ・招き「新潮」昭和 54(1979)年 5 月号
 - ・顕われ「群像」昭和 54(1979)年 5 月号
 - ・誘い「新潮」昭和 55(1980)年 12 月号
昭和 56(1981)年 3 月 15 日発行
昭和 57(1982)年 4 月 30 日 4 刷(新潮社)
- 914) 「装いせよ、わが魂よ」(高橋たか子著) 純文学書下ろし特別作品
昭和 57(1982)年 10 月 25 日発行(新潮社)
- 915) 「遠く、苦痛の谷を歩いている時」(高橋たか子著)
- ・甦りの家「群像」昭和 55(1980)年 9 月号
 - ・病身「新潮」昭和 53(1978)年 6 月号
 - ・遠く、苦痛の谷を歩いている時「群像」昭和 58(1983)年 7 月号
昭和 58(1983)年 9 月 20 日第 1 刷発行(講談社)
- 916) 「怒りの子」(高橋たか子著)
昭和 60(1985)年 9 月 20 日第 1 刷発行(講談社)
- 917) 「魂の犬」(高橋たか子著) 第一エッセイ集
昭和 50(1975)年 4 月 24 日第 1 刷発行(講談社)
- 918) 「高橋和巳の思い出」(高橋たか子著)
昭和 52(1977)年 1 月 16 日初版発行
昭和 52(1977)年 2 月 28 日 6 版発行(構想社)
- 919) 「記憶の冥さ」(高橋たか子著)
昭和 52(1977)年 11 月 10 日初版発行
昭和 52(1977)年 12 月 1 日再版発行(人文書院)
- 920) 「驚いた花」(高橋たか子著)
昭和 55(1980)年 6 月 30 日初版第 1 刷発行(人文書院)
- 921) 「辻まことの世界」(矢内原伊作編)
昭和 52(1977)年 11 月 30 日第 1 刷発行
昭和 56(1981)年 5 月 15 日第 9 刷発行(みすず書房)
- 922) 「続・辻まことの世界」(矢内原伊作編)
昭和 53(1978)年 6 月 29 日第 1 刷発行
昭和 55(1980)年 8 月 20 日第 4 刷発行(みすず書房)
- 923) 「人は獣に及ばず」(中野好夫著)
昭和 57(1982)年 6 月 8 日発行(みすず書房)
- 924) 「シェイクスピアの面白さ」(中野好夫著) 新潮選書
昭和 42(1967)年 5 月 10 日発行
平成 6(1994)年 4 月 25 日 36 刷(新潮社)
- 925) 「大森荘蔵著作集」第一巻(前期論文集Ⅰ)
平成 10(1998)年 9 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 926) 「大森荘蔵著作集」第二巻(前期論文集Ⅱ)
平成 10(1998)年 10 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)

- 927) 「大森荘蔵著作集」第三卷（言語・知覚・世界）
平成 10(1998)年 12 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 928) 「大森荘蔵著作集」第四卷（物と心）
平成 11(1999)年 3 月 8 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 929) 「大森荘蔵著作集」第五卷（流れとよどみ）
平成 11(1999)年 4 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 930) 「大森荘蔵著作集」第六卷（新視覚新論）
平成 11(1999)年 5 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 931) 「大森荘蔵著作集」第七卷（知の構築とその呪縛）
平成 10(1998)年 11 月 9 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 932) 「大森荘蔵著作集」第八卷（時間と自我）
平成 11(1999)年 1 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 933) 「大森荘蔵著作集」第九卷（時は流れず）
平成 11(1999)年 2 月 8 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 934) 「大森荘蔵著作集」第十卷（音を視る、時を聴く）
平成 11(1999)年 6 月 7 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 935) 「予感と現在」（石丸静雄著）
詩人アイヒェンドルフ〈Joseph von Eichendorff〉の生涯
昭和 48(1973)年 3 月初版発行(郁文堂)
- 936) 「何よりだめなドイツ」（エンツェンスベルガー著）晶文選書 5
Hans Magnus Enzensberger:
Deutschland, Deutschland unter anderem. Äußerungen zur Politik.
(石黒英男・高原宏平・野村修・池田浩士訳)
昭和 42(1967)年 12 月 30 日初版
昭和 45(1970)年 5 月 20 日 3 刷(晶文社)
- 937) 「現代の詩と政治」（エンツェンスベルガー著）晶文選書 10
Hans Magnus Enzensberger: Poesie und Politik.
----Einzelheiten(小寺昭次郎訳)
昭和 43(1968)年 9 月 30 日発行(晶文社)
- 938) 「フロイトとその父」（M・クリュル著）
Marianne Krüll: Freud und sein Vater（水野節夫・山下公子訳）
昭和 62(1987)年 6 月 1 日発行(思索社)
- 939) 「世界喪失の文学」1909 年以後の抽象文学（R. N. マイアー著）
Rudolf Nikolaus Maier: Paradies der Weltlosigkeit.
Untersuchungen zur abstrakten Dichtung seit 1909（本郷義武訳）
昭和 46(1971)年 11 月 25 日初版発行(彌生書房)
- 940) 「日記・花粉」（ノヴァーリス著）古典文庫
Novalis: Tagebücher. Blütenstaub.（前田敬作訳）
昭和 52(1977)年 4 月 30 日第 1 刷発行(現代思潮社)

- 941) 「知識人の問題」 芸術と共存 I (エルンスト・フィッシャー著)
Ernst Fischer: Kunst und Koexistenz.
Beitrag zu einer modernen marxistischen Ästhetik (岩淵達治訳)
昭和 43(1968)年 4 月 25 日第 1 刷発行(合同出版)
- 942) 「幻想と頽廃」 芸術と共存 II (エルンスト・フィッシャー著)
Ernst Fischer: Kunst und Koexistenz.
Beitrag zu einer modernen marxistischen Ästhetik (岩淵達治訳)
昭和 43(1968)年 12 月 5 日第 1 刷発行(合同出版)
- 943) 「芸術はなぜ必要か」 (エルンスト・フィッシャー著) 叢書・ユニベルシタス
Ernst Fischer: The necessity of art. A Marxist Approach (河野徹訳)
昭和 42(1967)年 10 月 20 日初版第 1 刷発行
昭和 46(1971)年 3 月 20 日第 9 刷発行(法政大学出版局)
- 944) 「メーリケ詩集」 (森孝明訳)
平成 5(1993)年 5 月 20 日第 1 刷発行
- 945) 「挑発としての文学史」 (H. R. ヤウス著)
Hans Robert Jauss: Literaturgeschichte als Provokation (轡田収訳)
昭和 51(1976)年 6 月 15 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 946) 「行為としての読書」 美的作用の理論 (W. イーザー著) 岩波現代選書
Wolfgang Iser: Der Akt des Lesens (轡田収訳)
昭和 57(1982)年 3 月 24 日第 1 刷発行(岩波書店)
- 947) 「カロッサ」 幼年時代・ルーマニア日記(現代世界文学全集 28)
Hans Carossa: 幼年時代 Eine Kindheit(芳賀檀訳)
ルーマニア日記 Rumänisches Tagebuch(高橋義孝訳)
ドクトル・ビュルゲルの運命 Dr. Bürgers Schicksale(高橋健二訳)
指導と信従 Führung und Geleit(高橋義孝訳)
成年の秘密 Geheimnisse des reifen Lebens (高橋義孝訳)
昭和 29(1954)年 2 月 25 日発行(新潮社)
- 948) 「医師ギオン」 ハンス・カロッサ全集 4 (石川鍊次訳)
昭和 17(1942)年 1 月 30 日初版発行
昭和 19(1944)年 2 月 15 日 6 版発行 3000 部(三笠書房)
- 949) 「指導と信従」 カロッサ全集 VII
Hans Carossa: Führung und Geleit. Ein Lebensgedenkbuch (高橋義孝訳)
昭和 25(1950)年 4 月 30 日発行(養徳社)
- 950) 「現代に於けるゲーテの影響」 カロッサ全集 別巻
Hans Carossa: Wirkungen Goethes in der Gegenwart (石中象治訳)
昭和 24(1949)年 11 月 1 日初版発行
昭和 33(1958)年 1 月 10 日 3 版発行(養徳社)
- 951) 「カロッサ」 (ドイツの文学 第 6 巻)
Hans Carossa: Geschichte einer Jugend 『幼年時代』 (岡田朝雄訳)
Kindheit und Jugend 『青春変転』 (西義之訳)
Sämtliche Werke 『詩集』 (岡田朝雄訳)
昭和 41(1966)年 2 月 15 日第 1 版発行(三修社)

- 952) 「異化」(エルンスト・ブロッホ著)
Ernst Bloch: *Verfremdungen I* (片岡啓治・種村季弘・船戸満之訳)
昭和 46(1971)年 2 月 27 日初版(現代思潮社)
- 953) 「未知への痕跡」(エルンスト・ブロッホ著)
Ernst Bloch: *Spuren* (菅谷規矩雄訳)
昭和 44(1969)年 3 月 24 日第 1 刷発行(イザラ書房)
- 954) 「哲学の根本問題」(エルンスト・ブロッホ著) 叢書・ユニベルシタス
Ernst Bloch: *Philosophische Grundfragen I* (竹内豊治訳)
昭和 47(1972)年 9 月 30 日発行(法政大学出版局)
- 955) 「この時代の遺産」(エルンスト・ブロッホ著)
Ernst Bloch: *Erbschaft dieser Zeit* (池田浩士訳)
昭和 57(1982)年 5 月 31 日第 1 版第 1 刷発行(三一書房)
- 956) 「キリスト教の中の無神論(上)」
(エルンスト・ブロッホ著) 叢書・ユニベルシタス
Ernst Bloch: *Atheismus im Christentum* (竹内豊治・高尾利数訳)
昭和 50(1975)年 12 月 25 日第 1 刷発行(法政大学出版局)
- 957) 「ボルヒェルト全集」全一卷
Wolfgang Borchert: *Das Gesamtwerk* (小松太郎訳)
昭和 48(1973)年 1 月 31 日初版発行(早川書房)
- 958) 「ホフマン 砂男他」世界文学全集 18
(編集委員/川村二郎・菅野昭正・篠田一士・原卓也)
E. T. A. Hoffmann: *Sandmann* 砂男(種村季弘訳)
Prinzessin Brambilla ブランビラ王女(種村季弘訳)
Meiser Floh. Ein Märchen in sieben Abenteuern zweier Freunde 蚤の親方(池内紀訳)
Kreisleriana クライスレリアーナ(渡辺健訳)
昭和 54(1979)年 6 月 25 日第 1 刷発行(集英社)
- 959) 「シュティフター 晩夏」世界文学全集 31
(編集委員/川村二郎・菅野昭正・篠田一士・原卓也)
Adalbert Stifter: *Der Nachsommer* 晩夏(藤村宏訳)
昭和 54(1979)年 10 月 25 日第 1 刷発行(集英社)
- 960) 「リルケ/マルテの手記他・ホフマンスタール/影のない女」世界文学全集 66
(編集委員/川村二郎・菅野昭正・篠田一士・原卓也)
Rainer Maria Rilke:
Die Aufzeichnungen des Malte Laurids Brigge マルテの手記(川村二郎訳)
Geschichten vom lieben Gott 神さまの話(神品芳夫訳)
Hugo von Hofmannsthal: *Die Frau ohne Schatten* 影のない女(高橋英夫訳)
昭和 53(1978)年 7 月 25 日発行(集英社)
- 961) 「カフカ/審判 変身他 ヴァルザー/ ヤーコプ-フォン-グンテン」
世界文学全集 74 (編集委員/川村二郎・菅野昭正・篠田一士・原卓也)
Franz Kafka: *Der Prozess* 審判(立川洋三訳)/ *Die Verwandlung* 変身(城山良彦訳)
In der Strafkolonie 流刑地にて(柏原兵三訳)
Robert Walser: *Jakob von Gunten* ヤーコプ-フォン-グンテン(藤川芳朗訳)
昭和 54(1979)年 1 月 25 日発行(集英社)

- 962) 「トーマス・マン 日記 1940-1943」
Thomas Mann: Tagebücher 1940-1943 (森川俊夫・横塚祥隆共訳)
平成 7(1995)年 11 月 30 日第 1 刷発行(紀伊國屋書店)
- 963) 「モラルと犯罪」(カール・クラウス著) 叢書・ユニベルシタス
Karl Kraus: Sittlichkeit und Kriminalität (小松太郎訳)
昭和 45(1970)年 6 月 25 日初版第 1 刷発行(法政大学出版局)
- 964) 「人類最期の日々・上」(カール・クラウス著作集 9)
Karl Kraus: Die letzten Tage der Menschheit (池内紀訳)
昭和 46(1971)年 2 月 1 日初版第 1 刷(法政大学出版局)
- 965) 「諷刺の文学」(池内紀著) 昭和 53(1978)年 12 月 7 日発行(白水社)
- 966) 「世紀末の窓」 二十一の肖像(池内紀著)
昭和 58(1983)年 5 月 14 日初版発行(美術公論社)
- 967) 「ウィーンの世紀末」(池内紀著)
昭和 56(1981)年 6 月 20 日発行(白水社)
- 968) 「ウィーン 都市の詩学」(池内紀著) 美術選書
昭和 48(1973)年 12 月 15 日発行(美術出版社)
- 969) 「ザルツブルク Salzburg」 祝祭都市の光と影(池内紀著)
昭和 63(1988)年 8 月 31 日第 1 刷発行(音楽之友社)
- 970) 「猿飛レゲンデ」 日本文学覗き箱(池内紀著)
昭和 60(1985)年 5 月 30 日(沖積舎)
- 971) 「アブデラの人びと」(クリストフ・マルティン・ヴィーラント著)
Christoph Martin Wieland: Geschichte der Abderiten (義則孝夫訳)
平成 5(1993)年 8 月 5 日第 1 刷発行(三修社)
- 972) 「ドイツ文学とその時代」 夢の顔たちの森(山下肇著)
Statt einer deutschen Literaturgeschichte
昭和 51(1976)年 2 月 25 日第 1 刷発行(有信堂)
- 973) 「神の慰めの書」(マイスター・エックハルト著)
第 1 部<論述> 第 2 部<説教> 第 3 部<伝説> (相原信作訳)
昭和 24(1949)年 5 月 10 日発行
昭和 25(1950)年 2 月 15 日再版発行(筑摩書房)
- 974) 「孤独な群衆」(リースマン著) David Riesman: The lonely crowd.
A study of the changing American character (加藤秀俊訳)
昭和 39(1964)年 2 月 15 日第 1 刷発行(みすず書房)
- 975) 「世界紀行文学全集 7」 ドイツ編
昭和 34(1959)年 8 月 20 日発行(修道社)
- 976) 「道中 膝栗毛全集」 文藝叢書第四冊(饗庭篁村校訂)
大正 2(1913)年 5 月 9 日発行(博文館)
大正 13(1924)年 5 月 15 日 8 版発行

- 977) 「初版 グリム童話集」 ベスト・セレクション
 Erste Auflage. Kinder- und Hausmärchen.
 Gesammelt durch die Brüder Grimm. (吉原高志・吉原素子編訳)
 平成 10(1998)年 10 月 31 日第 1 刷発行
 平成 10(1998)年 12 月 25 日第 9 刷発行(白水社)
- 978) 「皇帝に捧げる乳歯」 (オルランド作・絵)
 Fritz von Herzmanovsky-Orlando: Der Gaulschreck im Rosennetz (池内紀訳)
 昭和 51(1976)年 5 月 30 日第 1 刷発行(牧神社)
- 979) 「ブッシュマン」 (田中二郎著) 昭和 46(1971)年 3 月 15 日発行(思索社)
- 980) 「戦争まで」 (中村光夫著) 昭和 46(1971)年 11 月 10 日初版発行(集英社)
- 981) 「クリティック」 Critiques (四方田犬彦著)
 昭和 59(1984)年 5 月 20 日初版発行(冬樹社)
- 982) 「長篇詩 炎える母」 (宗左近著)
 昭和 43(1968)年 11 月 25 日初版発行
 昭和 50(1975)年 3 月 20 日 4 版発行(彌生書房)
- 983) 「詩学の根本概念」 (エーミール・シュタイガー著) 叢書・ユニベルシタス
 Emil Staiger: Grundbegriffe der Poetik (高橋英夫訳)
 昭和 44(1969)年 4 月 10 日初版第 1 刷発行
 昭和 45(1970)年 7 月 15 日第 2 刷発行(法政大学出版局)
- 984) 「言語起源論」 (ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー著) 叢書・ユニベルシタス
 Johann Gottfried Herder: Abhandlung über den Ursprung der Sprache
 (大阪大学ドイツ近代文学研究会訳)
 昭和 47(1972)年 3 月 20 日初版第 1 刷発行(法政大学出版局)
- 985) 「プリズム」 文化批判と社会 (Th. W. アドルノ著) 叢書・ユニベルシタス
 Theodor W. Adorno: Prismen. Kulturkritik und Gesellschaft
 (竹内豊治・山村直資・板倉敏之訳)
 昭和 45(1970)年 10 月 15 日初版第 1 刷発行(法政大学出版局)
- 986) 「文学ノート」 (Th. W. アドルノ著) Theodor W. Adorno: Noten zur Literatur
 (三光長治・菅谷規矩雄・船戸満之・片岡啓治訳)
 昭和 53(1978)年 8 月 25 日第 1 刷発行(イザラ書房)
- 987) 「ミニマ・モラリア」 傷ついた生活裡の省察
 (テーオドル・W. アドルノ著) 叢書・ユニベルシタス
 Theodor W. Adorno: Reflexionen aus dem beschädigten Leben (三光長治訳)
 昭和 54(1979)年 1 月 10 日初版第 1 刷発行(法政大学出版局)
- 988) 「楽興の時」 (テーオドル・W. アドルノ著) 白水叢書 40
 Theodor W. Adorno: Moments musicaux (三光長治・川村二郎訳)
 昭和 54(1979)年 8 月 20 日発行(白水社)
- 989) 「ハプスブルク家」 ヨーロッパの一王朝の歴史 (アーダム・ヴァントルツカ著)
 Adam Wandruszka: Das Haus Habsburg.
 Die Geschichte einer europäischen Dynastie (江村洋訳)
 昭和 56(1981)年 12 月 15 日初版発行(谷沢書房)

- 990) 「ハプスブルク帝国史入門」(ハンス・コーン著)
Hans Kohn: The Habsburg Empire 1804-1918
(稲野強・小沢弘明・柴宜弘・南塚信吾共訳)
昭和 57(1982)年 10 月 10 日第 1 版第 1 刷発行(恒文社)
- 991) 「火星の人類学者」(オリヴァー・サックス著)
脳神経科医と 7 人の奇妙な患者
Oliver Sacks: An Anthropologist on Mars (吉田利子訳)
平成 9(1997)年 3 月 15 日初版発行(早川書房)
- 992) 「色のない島へ」(オリヴァー・サックス著)
脳神経科医のミクロネシア探訪記
Oliver Sacks: The Island of the Colorblind(大庭紀雄監訳・春日井晶子訳)
平成 11(1999)年 5 月 31 日初版発行(早川書房)
- 993) 「息のブランコ」(ヘルタ・ミュラー著)Herta Müller:Atemschaukel(山本浩司訳)
平成 23(2011)年 11 月 30 日第 1 刷発行(三修社)
- 994) 「ゴットフリート・ベン作品集」
Gottfried Benn: Gesammelte Werke in vier Bänden(内藤道雄・金子章訳)
昭和 47(1972)年 3 月 1 日第 1 版発行(三修社)
- 995) 「ゴットフリート・ベン著作集」
第 2 巻 文学論・小説(本郷義武・飛鷹節・内藤道雄訳)
昭和 47(1972)年 9 月 30 日初版第 1 刷発行(社会思想社)
- 996) 「レッシング名作集」(有川貫太郎・浜川祥枝・南大路振一訳)
ミス・サーラ・サンプソン(有川貫太郎訳)
ミンナ・フォン・バルンヘルム(浜川祥枝訳)
エミーリア・ガロッティ(南大路振一訳) 賢者ナターン(浜川祥枝訳)
昭和 47(1972)年 10 月 20 日発行(白水社)
- 997) 「シラー名作集」(内垣啓一・岩淵達治・石川實・野島正城訳)
群盗(内垣啓一訳) メアリ・スチュアート(岩淵達治訳)
オルレアンの乙女(石川實訳) ヴィルヘルム・テル(野島正城訳)
昭和 47(1972)年 6 月 23 日発行(白水社)
- 998) 「クライスト名作集」(中田美喜・岩淵達治・羽鳥重雄訳)
こわれがめ(中田美喜訳) アンフィトリオン(中田美喜訳)
ペンテシレイア(岩淵達治訳) ハイルブロン乙女ケートヒェン(羽鳥重雄訳)
公子ホムブルク(羽鳥重雄訳)
昭和 47(1972)年 6 月 23 日発行(白水社)
- 999) 「現代ドイツ幻想短篇集」
世界幻想文学大系 13(紀田順一郎+荒俣宏/責任編集)
G・マイリンク他(前川道介編訳)
昭和 50(1975)年 9 月 15 日初版第 1 刷発行(国書刊行会)
- 1000) 「招霊妖術師」(F・シラー)
世界幻想文学大系 17(紀田順一郎+荒俣宏/責任編集)
Friedrich Schiller: Der Geisterseher(石川實訳)
昭和 55(1975)年 10 月 25 日初版第 1 刷発行(国書刊行会)